





大久保茂太郎

群馬縣蠶業家名鑑

完



商業新報社發行

贈	昭和三十二年一月一日
寄	二四九二号
河村敬一殿	

KG302
0.54

大久保茂太郎編纂

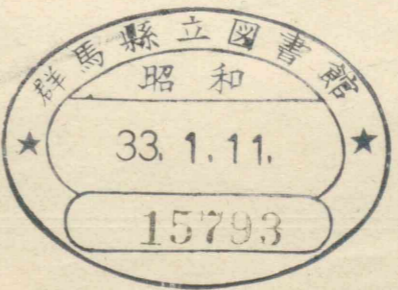
群馬縣蠶業家名鑑



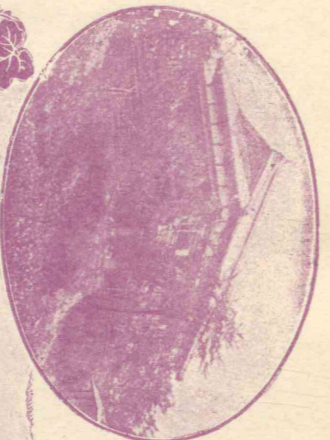
完

商業新報社發行

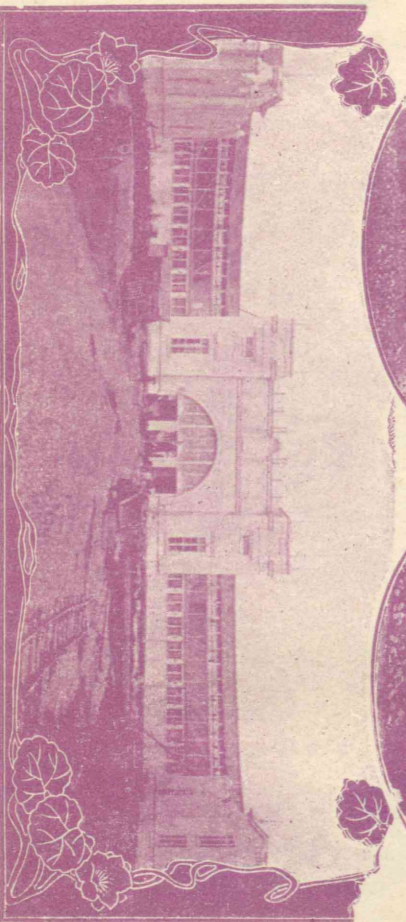
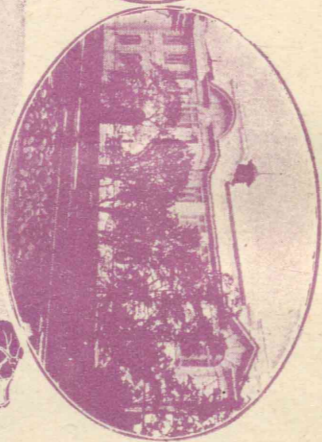
川村
敬敬



館賓貴



館考參



門正場會進共合聯縣四十府一



序

日本帝國の國力が一に蠶糸に依つて繋かれ居るを知らば誰れか蠶絲業を重要視せざる者あらんや、而して吾群馬縣亦蠶絲を以て生命となす、友人義臣大久保兄、斯界に在ると久しく言に筆に斯業の發展に勉むること大、現に自ら商業新報を督して斯業の機關に任ず、今者其餘力を驅つて『群馬縣蠶絲家名鑑』を著はし來つて余に示さる、即ち之を繙くに卷中皆是れ縣下斯界の老功家にあらざれば新進有爲の人物、之を記すに義臣兄の穩健周到の文を以てす、卷中の人物、畢く其本領を發揮して面目紙上に躍如たり、蓋し名は蠶業家名鑑と雖も、實は蠶業界の活ける歴史にして一面其發達史なり、今や縣下は聯合

府縣共進會を開きて産業界は茲に其雌雄を争ふの時、縣下蠶業界の人物を一堂に會し來りたるが如きの觀ある本著を其前に提供するは、誠に機宜に適したるものといふべく更に好箇の資料として、天下は之を歓迎するなるべし、義臣兄の本著豈徒爾ならんや

明治庚戌十月

群馬新聞社長

加藤紫雲誌

自序

われ、北總の片田舎に生れ、飄然として上州の首都なる前橋に轉居し上州の山水に親しみ、上州の水を飲むと于茲拾有壹年、實に四千日、而してわが四千日の過去は、上州の花にして又生命たる蠶絲業と最も密接の關係ある、商業新報の編輯及經營にありて、われ之れが爲め上州の蠶業なるもの、真相を深く腦裡に印しぬ、今秋偶々一府十四縣聯合共進會を我が前橋に開催せらるゝに際し、私かに思らく、是れ上州の蠶業をして世に紹介する最好機なり、上州の地山川風物の他に誇るべきもの尠なからざるも一度び産業上の優劣乃至程度に想到せんか蠶業は實に上州の經濟を支持し、獨り上州産業の首位を占むるのみならず、名實共に天下に呼號するに足るや蓋し明けし、然り而して、上州の蠶業をして克く今日の隆盛を致せしは、素と是れ當業者の奮勵にありて、當業者の苦心と奮勵は即ち天與の地利と相俟つて、大は日本の

産物となり、小は上州の特産となりしもの、われ。此機を以て斯界奮闘の諸士を世に紹介し、上州蠶業の眞髓を發揮するの好機と認め、干茲嘗つて活動せし人、現に奮闘しつゝある諸士の肖像又は其工場及蠶室店舗を掲げ、之に経歴の一斑を叙し、名けて群馬縣蠶業家名鑑となす一讀若し上州の蠶業界に於ける奮闘家諸士の倂を知るに足らば、之れ編者の至幸とする所也

東 海 義 臣

凡 例

●本書資料の蒐集は、之を三月中旬に初め九月下旬に於て漸やく終りしものなれば、其長からざるが如くにして又短からざる時日には、會社又は役員の如きものには、自然多少の異動ありしは勿論、個人に於ても亦異變無きを保せざるも、編者は其の材料蒐集の當時に於ける調査を以て編輯せしものなり

●本書所載の名士及び其の他の経歴に就ては、何れも資料豊富にして種々特筆すべき事項多大なるも、紙面固より限りありて遺憾ながら僅かに其一小部分を掲ぐるに過ぎず、故に本書所載の経歴は、何れも紙面の都合上、頗る簡短に略叙せしものと察せられたし

●本書所載の肖像及び全景等の配置順序は、固より其人其もの、位置階級に依つて定めたるものにあらずして、全く原稿又は製版の都合により、無差別、無規則に組込みしものなれば、其點は特に編者が此處に斷り置く次第なり

● 編者の本書資料の蒐集は、必ずしも業の大なるを撰はず、必ずしも手腕の敏なるを撰はず、必ずしも経営の久しきを撰はず、必ずしも名の美なるを撰はず、必ずしも形ちの大なるを撰はず、要は唯だ、實業家として斯界に貢献する所あるを撰びしのみ

● 本書出版の期日は、之を八月下旬と豫定せしが、不幸にして八月初旬以來の水災は、資料蒐集の上に多大の困難を感じ、單に資料の蒐集に齟齬を來たせしのみならず、出版の期も亦大に遅延したるは之れ編者の深く遺憾とする所なり

● 本書所載の經歷中、本年とあるは明治四十三年を指稱したるものなれば、豫め御承知を乞ふ

蠶種統一と上州

蠶糸の優良を望まんには、先づ絲質を一定するにあり、絲質の一定を期せんには須らく蠶種を一定するにありとの議論は、是れ本邦蠶業界に於て屢々唱道せられたる所なるも、何時もながら實行の運びに至らずして止みしが、世界蠶糸國の競争は日に月に激甚を加へ、時勢の進運は單だ舊慣を複踏するを許さずして、各國競ふて改良進歩を圖り銳意精良を争ふに至れり、于茲於てか、蠶種の改良、繭質の統一は本邦到る所に唱道せられ、現に昨年如きは東西之が急を呼稱するもの頻々として大に蠶業界に喧傳せられしは勿論、遂に竿頭百尺を進めて議會の問題となるに至りたるも、其最も有力に熱心に提唱し奔走せられしは、抑も亦何れの地、何れの人ぞ、即ち是れ上州の斯業者なりとす、編者は故あり

て、此處に蠶種統一問題の可否又は運命に就き論ずるを止むるも、斯かる問題に對して有力の唱道を爲し、熱心に活動を爲す所以のものは、是れ我が上州の地が古來蠶業の先進地として他に先だち、大に斯業に貢獻しつゝあるの結果たらずんばならず、然り、上州の蠶業は昔も今も尙本邦の先進たるに耻ぢざるなり、世や滔々として目前の私利を是れ事として他を顧みざるの今日、上州斯業者の抱負遠大にして、常に國家を標準として自己を論ぜざるは、實に是れ上州蠶業界の誇りとする所而して、又上州産業の大名譽にあらずや、是れ編者が特に本書に之を叙する所以なり

上州の蠶業

古來上州は養蠶の上州、蠶繭の上州、生絲の上州として其名天下に高く、今尙ほ蠶を談じ、生絲を語り、蠶繭を説くもの、必ず先づ指を上州に屈せざる無し、然り、上州の地は、水清く、地肥へ、累嶺透迤として西北を圍繞し、細大の諸流到る處は貫流し、土地克く培桑は適し、氣候克く養蠶は合ひ、今や春夏秋繭を通して三十餘萬石を産し、蠶種又春蠶種の産地としては其優良東西に比肩無きは勿論、秋蠶種の精良又本場なる信州を凌駕し、前途大に有望なるものあり、如斯にして上州は天賦の蠶業地にして古より自然的の發達を爲し、更は斯道の研究を爲すと又他は先ちて、現に高山社蠶業學校を初め、順氣社あり、長沼社あり、益進社あり、童兒社あり、其他個人として斯界の大家又尠なからずして、年々歳々數千の子弟を教育し、奥羽は北海、九州に、四國に、山陽に、山陰に、更は支那に、朝鮮に、到る處本縣養成の教師あり、本縣製造の蠶種あるは、是れ實は本縣の誇りとする所たるなり、あ、上州の地や、蠶業の先進地として立ち、又蠶業の先進地として益々其名實を全からしむるに至れり、而して養蠶の發達は伴ふものは製糸として、我が上州は一面座繰製絲地として、上州座繰の名聲を世界に轟かし、現は碓氷社、甘樂社、下仁田社を総稱して南三社と稱し、其組織及び製産の大なる天下又た之は匹敵するもの無からん、就中碓氷社の如きは年額の製産實に一万捆を註せられ、甘樂、下仁田又之は準する製産あり、更は前橋に交水社ありて、友社の休廢類々たりし中、獨り毅然として奮闘し、克く前橋座繰の名と實とを双肩に荷ひて今日の隆盛を致せし他、器械製絲と

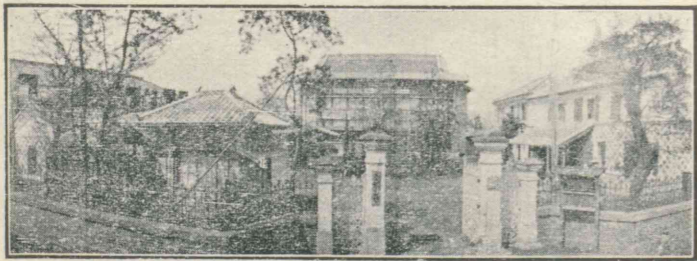
しては明治の初年、政府の計畫に成りし今日の原富岡製絲所ありて、上州エキストラの名を内外に博しつゝあるの他、規模小なりと雖も其歴史と成功の二點に於て類無き徳江製絲所あり、其他麗水社、山十製糸、茂木製絲を初めとし大小の器械製糸は、到る處に蒸汽煙筒の林立を見ると恰も港灣の連橋の如し、又旺なりと謂つべし、而して上州は如上の點に於て既に日本の蠶業上先進地として誇るに足るの外、更に大に斯界に異彩を放ちつゝあるものあり、如上の外斯界に異彩を放ちつゝあるものとは何ぞや、玉糸の製造即ち是なり、元來本邦玉糸の製造は上州前橋の他は、福島あり、豊橋ありて、此三者こそ實に玉糸の三大製産地として併び稱せらるゝ去れど、其製産高に至りては我が上州に遠く及ばざると恰も月前の星のみ、殊に太玉糸にありては是れ真に天下獨特にして、又上州の特産物たるあり、惟ふに上州の玉糸製造は之が需用の機業地と接觸せる爲め、之を他の製産地に比し地の便益蓋し甚大なるを以て、特種の地利を得て特殊の發達を致せしもの又偶然にあらざる也、之が爲め上州は更は内地織物の原料供給地として日本第一となり、其原料たる玉繭の取引市場としても亦日本第一となり、實は上州の前橋は玉繭の取引市場として東洋の首位たるに至れり、あゝ、上州の地や、養蠶に、蠶種に、生絲に、玉糸に、更は玉繭市場に於て既に斯くの如し、蠶業の二字は實は是れ上州の花にして又生命あり、而して上州の生命にして又花ある蠶業の振ふと振はざるとは、一に斯業者の武者振りにあり、活動振りにあるのみ、あゝ、上州の蠶業は實大にして名も又大なり、上州の蠶業家は功大にして責も大なるなり。

碓氷社

是れ我が群馬縣に於ける唯一の製絲團體にして碓氷郡原市町にあり、甘樂社、下仁田社と並稱して南部三社と云ひ毎に其生絲の產出高に於て三社中の牛耳を執る大製糸組合として本邦は固より歐米各國に認めらるゝに到れり

◎創業 同社創立は明治十一年五月にして最初萩原音吉、萩原平、萩原謙太郎の三氏座繰製糸改善の忽諾に附すべからざることを唱道し團結して碓氷精絲社なるものを組織し専ら製絲の改良と共同販賣の策を立てり然るゝ其の成績の良好なるを見て加盟者頓み増加し創立當時僅かゝ一組なりしも翌十二年に至り十三組を合同するゝ至る茲に於て位地の不便を悟り現今の位置たる原市町に移轉し農家各自の收購を以て毎戸一定の製糸をなし之を類別一括して地方仲買商人の手を要せず直に横濱市場に販賣する方法を立てり、創立當時は頭取と稱し萩原音吉氏之に任せしが十二年夏より全十七年まで萩原茂十郎氏社長とあり十八年より今日まで萩原謙太郎氏社長の椅子を占め居れり

◎現況 創立當時は微々たる一團體ありしが爾來加盟者多く種々の沿革を経て遂に今日では座繰製絲の外は時勢の進歩に連れ機械製糸する社員過半数に到り社業區域は群馬、埼玉、長野、千葉、茨城、福島、の六縣下に涉り三十六郡市、百八十組に到り、組合員數約三万人、一ヶ年の製糸高約一万余個(一個約九貫目)賣上金高約五百万圓の多額に上れり、今春其の組織を改正して産業組合とあし其の基礎益々鞏固を加へ社業愈々旺盛なるは獨り本縣の爲めのみならず國家の爲め慶賀する所なりとす

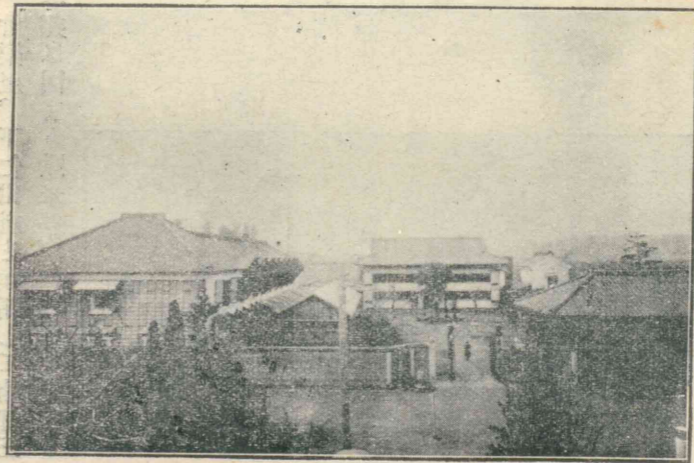


碓氷社全景

甘 樂 社

甘樂社は本縣北甘樂郡富岡町にあり即ち南部三社の一なり、創業は明治十三年七月にして製絲の共同販賣的團體にして、創立の當時は富岡町、七日市町、下仁田町、宮崎村、丹生村、菅原村、磐戸村、砥澤村、小澤村、野上村、馬山村、小幡村、上野村の三町拾ヶ村の集合にて社員六百人を有せり爾來長足の進歩をなし一兩年ならざるに加盟者益々多く遂に北甘樂郡に於ける主なる養蠶家製絲家を網羅するに到り一ヶ年の産出高二千三百四十九貫價格十一万五百有餘圓を販賣するに至れり時に米國直輸出の有利を説く者あり横濱同伸會社を介して直輸出となす、明治十八年には合計三十九組を有するに至り社業益々發展し廿六年組數六十二の多きに達したりしが改良事業に對する諸般の事情の爲めに馬山村外廿二組分離して別に一團體を作れり下仁田社即ち是れなり

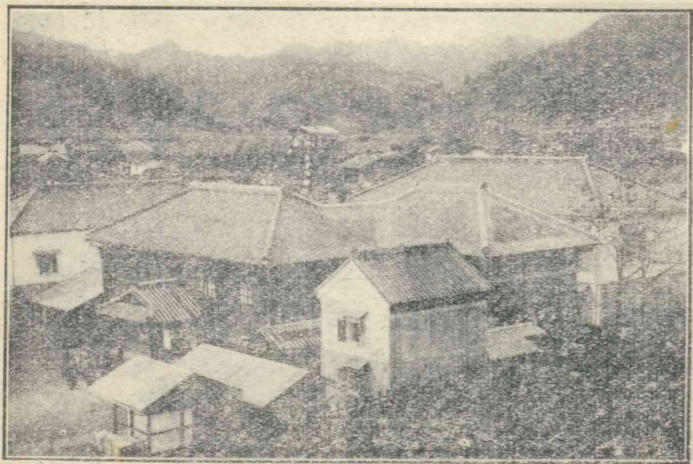
明治廿七年に至り米國經濟界の恐慌に鑑み出來高を折半して一半を内地に於て販賣し其一半を米國に輸出せり、明治廿九年現今の社長山口太三郎氏社長となり赤誠以て社の發展を圖りしかば現今は本縣は固より埼玉、枋木、千葉、福島、長野、巖手、の七縣下に涉り社員三万人、絲量五万四千七百餘貫に達し基礎益々固く年を遂ふて隆盛に到りつゝあり



甘 樂 社 全 景

下 仁 田 社

下仁田社は北甘樂郡下仁田町にあり所謂精絲南三社の一にして其名聲天下に鳴る初め此地方の養蠶家及製絲家は製絲を提げて富岡町なる甘樂社に投じ共同販賣を遂行し來り甘樂社分社を此地に置きしが、少しく利害の關係上より分離の已むなき状態に陥り明治二十六年富岡以西廿二組は本社と分離して下仁田社と稱し本社を下仁田町に置けり爾來續々加盟者ありて幾何ならずして三十七組となり商標を一等格鐵輪、二等格一桃、三等格水牛、其他斑馬、二桃、三桃、金文字、銀文字、黒文字二本指、等の十種となし分離以前に引續き米國直輸出を爲し來りしが其の後米國の經濟界に鑑みる所ありて直輸出を廢し明治二十九年より専ら横濱販賣に方針を更へ最初座繰製絲を以て本領を爲し來りしも時代の要求は機械製絲に變遷したるを以て機械製糸を爲す者徐々増加して今日は其過半を占むるに至れり、社業擴張の結果は遂に從來の建物よりは狹隘を感じ明治三十七年現在の事務所其他の工場を新築せり、其の成績の良好なるを見る者單獨販賣の不利を悟り年次加盟増加して現今は縣下は言はずもがな長野、新潟、巖手等の四縣に涉り其の隸屬する組數殆んど百に垂んとし組合員五千に達し一ヶ年の産出高は一個九貫目のもの五千捆に近く其價二千五百万圓の高額に至れり、温厚篤實なる佐藤量平氏久しく社長となり敏腕克く社業の發展を努め四十三年の春組織を變へて信用組合と爲し益々其の基礎を鞏固し其他の重役皆熱心にして克く社業に勵精し前途の發展殆んど端倪すべからざるものあり

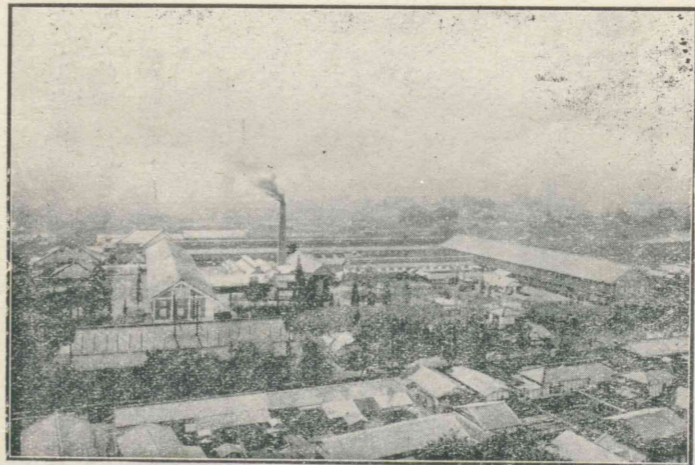


下 仁 田 社 全 景

原富岡製糸所

沿革、明治三年實業振起の政策に基き模範工場官設の議廟堂に決せられ全四年起工翌五年竣工、佛人ポール、ブリューナ氏指揮の下に始めて佛國式器械の運轉を行へ諸縣の應募生徒に製糸法を傳習せり爾來駁々たる進歩を見るに至り佛人の総へてを解雇し本邦人のみを以て克く模範たるの實を擧げ明治貳拾六年に至り之れが經營を三井家に移したり而して三井家又大に諸般の改善を爲すと同時に工場の増設ありしが明治三十五年に及び更に之を原製糸部に移したり、此間に於て曩きには皇太后兩陛下の行啓を、近くは皇太子殿下の行啓を忝ふしたる最も光榮ある製糸所なり

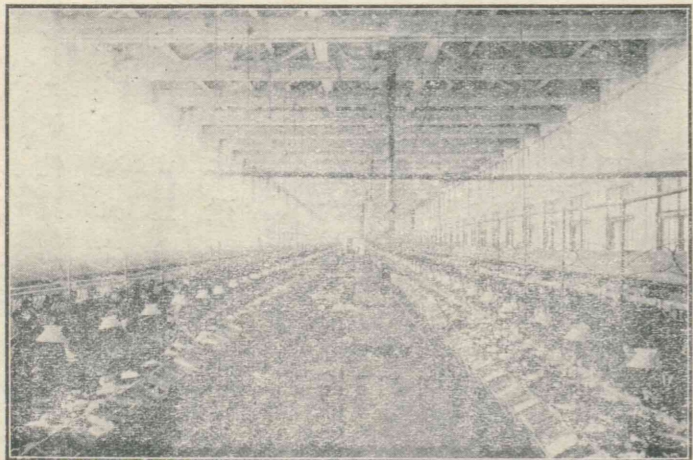
而して現在の設備は第一工場三百五十釜にして第二工場百二十釜何れも鐵製の三ツ取なり轉繰工場又鐵製轉繰機械にして百九十窓汽鐘はランカッシャ式貳個、多管式一個を備へ何れも善美完全の設備、今其一ヶ年間の製糸額を記さんか、實に和約五萬五千斤にして一日の製産平均二十七貫餘、更に一ヶ年間の原料使用高は約九千五百石一日の平均約二十九石に達するの外座繰製糸の高又多く製品の主なるものは十四デニールの優等生絲にして飛切上、飛切、壹等の三種に別ち主として先約定注文繰きをなしつつありて海外市場の信用頗る厚し設備の完全は勿論紀律の嚴肅諸般の整頓に於て東西多く之に及ぶもの無きが上に製糸の優良又斯界に賞せらるゝ名譽ある製糸所なり、武州渡瀬に分工場あり二百釜を有す要するよ天下よ比類なき大製糸所と謂ふべし



原富岡製糸所全景

原富岡製糸所工場

原富岡製糸所の構造が如何に堅牢にして且つ善美を盡しあるかは、世人の既に知悉する所、編者の此處に贅言を要せざるも、圖は即ち同製糸所の工場内を撮影せしものにして、器械は悉く鐵製の三口取りなり、場内の清潔にして克く整頓せる状態は、是れ他よ見る能はざる所にして、更に工女の品行、動作に至りては到底營利事業たる製糸所として容易に摸倣するを得ざる迄に整頓し、一度同所を參觀せし婦女子をして忽ちに工女なるものに對する品性位置の程度階級に關し、一種異様の疑點と羨望の念とを惹起せしむるに至らん、何となれば世人の多くは未だ製絲工女なるものを最も下級の勞働者なりと誤解せるに反し、一度び同所に參觀して其衛生教育其他遊藝禮式娛樂等の設備を目にし、更に工女の態度風采を目睹したらんには、必ず其の意外なるに驚くならん、加之、同所の工男工女の收入に至つては其平均一日貳拾九錢にして多きものは六十二錢を得るあるの他、別に皆勤賞の制あれば、一ヶ月の收入は實に男子の普通收入に伯仲し、家貧うして修學の資なき少女も、一度び同所の工女とならんか學問に裁縫に插花に女禮に音樂に何一つの缺點無き女子たるを得るは、實に本邦の模範製絲所たるに乖かざるなり近時同所の優等工女をして教婦に聘せんとするもの頻々として來り應需に堪へざる又偶然にあらず、而して二十五年間を最長とし、十五七年の勤績者少なからざるに徴するも其實態を推知するに足るべし



原富岡製糸所工場

碓氷社副社長 宮口二郎君

君は碓氷郡原市町大字原市村の八年齡五十九歳なり品性高潔にして學識も富む實業家也、家世々農蠶を業とし明治十二年碓氷社東九十九組を組織し

同組長に當選す、翌十三年縣議員に當選、同十四年碓氷社重役に擧げらる

明治十五年縣會常置委員に推され碓氷社重役を辭す

明治十八年縣會副議長となり二十四年縣會議長に擧げらる

明治二十五年衆議院議員に當選す明治二十七年再び碓氷社取締役に

宮口二郎君肖像



就任二十九年まで勤續して辭任す

二十九年より三十八年まで臺灣及清國に渡航し諸種の事業に従事せり

明治四十一年碓氷社副社長に推され爾來今日に至る

碓氷社長 萩原鎌太郎君

君は本年六十八歳の老翁あり、碓氷郡磯部村の人精絲碓氷社長として其名遠近に聞ゆ、壯年より蠶業に従事し其の改善に熱衷せり、氏の生母は氏を誕生したる後幾ばくもなく逝けり母の生家に嗣子なきを以て養はれて子とあり、氏十六歳の時養父病歿せるを以て其家を繼ぎ尋て舊旗下領の里正とある又豫て縣會議員所得調査委員とあり

り克く其職責を盡くせり、十七年社務多端なるに際し之が整理の任に當り十八年碓氷社の社長に擧げらる、爾後苦心經營茲に二十有七年以て今日の盛況に至らしむ製絲改良及製造を奮勵して克く成功したるは國益増大なりとて三十六年十二月綠綬褒章を下賜せられ四十二年三月綠綬褒章に附すべき飾版を賜はる其他氏は教育に村治に地方の風紀矯正に努め氏の謹嚴なる風采言語は克く地方人心に感化を與ふるに足り特に蠶業及製糸業の爲め講演に招聘せられ到る所誇々の辯を振ひ斯道改良發展に貢獻する事多く遠近傳へて其徳望の高きを欣仰す、特に氏が本年碓氷社々業談と題し氏が二十有七年間同社の爲めに盡瘁

萩原鎌太郎君肖像



したる經歷、經營、沿革、糸況の高低、生糸賣買に對する進退駈引及び海外輸出に關する經驗談等を殆んど百ページの大冊に縷述したるは氏が一世一代の好著述にして數萬の社員が之を誦讀し前途の好指針として洵に金科玉條ならずんばあらず

前橋市細ヶ澤町 樋口茂太郎君

福島縣安積郡中野村の産、佐久間多濃の長男、明治十五年二月を以て生る、居村の小學校を卒業し直ちに武州八王子町の蠶絲屑物問屋岡本商店に入り、斯業の見習を爲すと三ヶ年、即ち君が十六才より十九歳に至る迄あり、爾後前橋に至り叔母に當る樋口商店に入る、抑々樋



樋口茂太郎君肖像

具さに清國の蠶絲業及び玉繭取引の状態を視察の上歸朝し、爾來大に清國玉繭の大輸入を爲す、同店扱ふ所の玉繭は内國産は奥州を主とし、清國産又極めて多大あり、君、今や實力信用兩つながら具備す、前途又多望なりと謂ふべし

製糸家 高須泉平君

君は天保五年八月江戸に生る祖先より舊前橋藩主松平大和守に事へ其の邸を前橋國領賜はる父安右衛門存生の時より之に移り住す、明治元年八月曾津藩征討の爲め前橋藩出兵の命下り監察を命せられ全年十二月中隊嚮導役を命せらる、明治二年前橋藩權少屬を拜命し同四年廢藩に付解職となり自由職業を撰ぶ事となるや桑園を栽培



高須泉平君肖像

し士族の營業として養蠶製絲を爲す事に決し之に着手したるが明治十年八月に至り政府は士族授産の趣旨にて大に蠶絲を奨励せり茲に於て製糸の改良擴張を圖らん爲め士族中の同志を糾合し精絲會社を設立し永遠自活の基礎を定め且つ米國直輸出の途を開く明治十一年十一月精糸會社を變更し交水株式會社と改稱して其の規模を擴張するや社長に擧げられ爾來四十二年まで三十三年間一日の如く依然として其の椅子を占めたり、四十二年信用販賣組合に組織を變更するに方り七十六歳を以て退隱し現に同組合顧問たり、故に君は畢生斯業の爲めに身を犠牲に供したるもの其の功績顯著と謂ふべく、爲めに明治三十三年二月勅定の綠綬褒章を下賜せられ、明治卅八年群馬縣農會より農事功勞賞牌を受領し三十九年十月製絲事業の功績を以て大日本農會總裁宮殿下より紅白綬有功章を授けらる如上記載の如く公私の職に就かず専心一意殆んど後半生を提げて斯業に盡瘁したるは蓋し多く其類例を見ざる所其の偉勳は永く没すべからざるなり其他斯業に關する幾多の就任に就ては逐一枚舉するの煩に堪へず

蠶種家 田中京四郎君

碓氷郡安中町の人君の家は往昔より近郷中大養蠶家を以て目ざる年僅か十二歳の頃より母を助けて蠶業に従事し或は蠶兒の幾分を請ひ受けて蠶桑の事に従ふを無上の樂みとせり、君が十七歳の時既に飼育上の技術を遺憾なく研究し終り父母も安んじて之れ其の全般を托するに到る

網眠法を案出す

育蠶業中最も手数を要し且つ蠶兒の衛生上に障害を醸すは各眠期なるを以て苦辛研究の結果遂に明治二十七年二眠より繩網上に眠らしむる便法を案出せり之れ其の手数を省く事從來の普通法に比して三分の一過ぎず、加ふる蠶兒の衛生上安全にして眠起の齊一なるを以て此の方法遠近に傳はれり

蠶種貯藏法を發明す

從來秋蠶種を貯藏する風穴の所在地が山間僻地にして甚だ不便なると偶々氣温の變化に依り障害を被る事の尠からざるを憂ひ明治卅七年より附近の水室を利用し貯藏試験を始め愈々其の確實なるを認め之を

田中京四郎君肖像



實施し成功して現在の貯藏所を設立せり

蠶種組合を組織す

君が首唱となりて三十八年碓氷蠶種製造組合を設け推されて組合長となり爾來専心一意組合事業の改良發達を圖る、爲めに蠶種の産額は實に三倍の多きに至る而して組合の利益多き事務の整理せる附近組合の模範と稱せらる全く氏が熱血を濺ぎ經營せる結果なりと謂ふべし

高山社長 町田菊次郎君

君は多野郡美九里村大字本郷村に生る夙に意を蠶業に注ぎ明治八年高山社に入り清温育法を研究し尋て各地を巡回して彼我の長所を交換し蠶卵検査法に基き蠶病の起因を究め再三北海道を巡覽して斯業の擴張を圖る、明治十

九年十一月高山社の創立者高山長五郎氏病危篤に際

し遺言に依り後任社長に推さる夫れより故社長の遺志に依り社業を擴張し事務所及び傳習所の狹隘あるより遺子高山武十郎氏等と議り明治二十年藤岡町より宏壯なる新築をなし移轉せり、爾來傳習生の申込頗る多く遂に技術、學術兼備の卒業生を出し大に國家に貢献せんと三十三年甲種高山社蠶業學校を創立せり是より一層入學者増加し毎年數十の卒業生を出し卒業生は授業員となり直ちに各府縣に出張せしむる

町田菊次郎君肖像



等斯業改良の爲め國家に盡瘁す、君が前社長より遺言にて社長となりし以來今日に至る二十五年間一日の如く勤續し、育蠶法を改善し製絲、蠶種、粗製濫造の弊を矯正し之を海外に輸出する等君が生涯は全く斯業の犠牲となりしものと云ふべく其の功績に依り明治廿五年十月賞勳局より勅定の綠綬褒章を賜はりしも偶然にあらざるなり

小泉信太郎君

氏は多野郡小野村大字上栗須の人、本年四十六歳なり氏の家は村の名家にして祖先より豪農大養蠶家を以て鳴る氏は町田高山社長の甥にして元氣旺盛、明治廿二年養蠶教師として米國に渡航し之を教授せり然るも或る事情の

小泉信太郎君肖像



下は養蠶法を教授すれば母國に送還すべしと領事よりの命令あり之を中止せる事あり、歸朝の後養蠶飼育法教授として各府縣に出張し名聲噴々たり氏は蠶業熱心の傍ら又政治部面も活躍し身は實業派に屬し多野郡に於ける同派の重鎮たり、鬚髯を蓄へ容貌魁偉、其の怒面は鬼をも怖れしめ莞爾たる温容は三歳の兒童も懐づく、又能辯にして一度び演壇に立つや侃々諤々の辯克く聽者をして酔はしむるの概あり若し攻撃演説を爲さんか其の逆り出づる所の一言一

語敵を翻弄し一々對手の肺腑を衝く、選挙場裏の人とならんか克く成敗利鈍を察し進退駈引頗る巧みにして敵勢を牽制し必らず最後の撻を占む蓋し多く得易からざる當代の紳士なり、君は春秋に富む前途尙多望なりと謂ふべし、只期する所ありて政友の勸むるあるも縣議、代議、自から候補の位置も立たず、是れ所謂自己を知るの謂乎

前橋市本町 武田清吉君

前橋市本町中央の四つ角は武田商店と謂ふ生絲店あり、明治の初年より横濱取引の大手として現時福井、金澤其他の内地向き原料問屋として有名なり、君は即ち其主人公にして佐波郡伊勢崎町の産、父を多賀谷和三郎と稱し商號油屋と謂ひ、油及米穀商として名あり、君は其次男、明治九年十四歳にして武田商店に見習として

武田清吉君肖像



入る、當時同店は専ら横濱取引を營み、盛んに提絲を買収して濱出し、其他澁澤商店の委託買及丸山商店との提携等もて、上州生絲界は大活動を試む、而して時勢の推移は古來上州提絲として内外も需用大かりし提絲が、漸次折返し造り改めらるゝや、君は提絲の最終まで之が濱出を繼續せり、三十四年君大に悟る所ありて福井、金澤、及び能州方面の機業地に新販路を開くや、忽ちにして續々たる注文も接し今尙該方面の大手筋として信望あり、夫れより先き君が忠實として熱心ある活動は、克く主家の認むる所となりて同家の養子となる、爾來店主となり勵

精今日に至れり、君、資性温厚として着實、忍耐にして謙遜、寛容迫らざるの徳風ある、現代の商人間蓋し稀に見る所の人なり、同店生絲の商標は、兜、金紋、銀紋、青、黒、の他は松竹梅あり、嘗て福井の松島商店の如きは、同店商標の松竹梅三種を三ヶ年の専用を約定せられしとありし等、君の信用又以て知るを得べし、君年四十八歳、信望益々厚し。

萩野千代吉君

上州の蠶業を知るものは、北甘の蠶業を知るるべし、而して北甘の蠶業を談ずるもの誰か先づ童兒社を知らざらんや、翁は即ち童兒社長として又童兒社蠶業學校の校長なり、幼少より老白に至る間唯だ蠶業に熱心して國

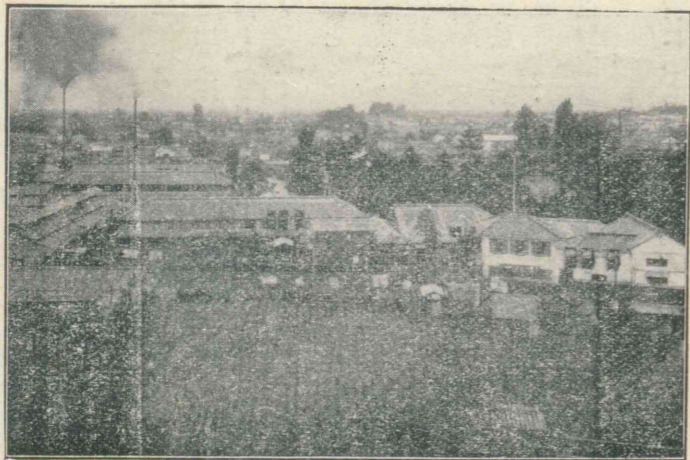
萩野千代吉君肖像



家の爲め斯業の發達を期するの他、又何らの野心無く虚榮無き人、翁曰く、今や我が蠶界は口述の養蠶先生多けれども、元來眞の蠶兒は口の先きで飼へるものゝあらず、私は講釋よりも實事が專一として居ります、決して法螺も吹かず、自慢も謂はず、事實は現はしつゝ今日までやつて來ましたと、以て人格の如何を知るべし、翁は蠶種統一の大賛成者として又桑種の改良よつき大なる研究家にて、數十年前より魯桑の試作を爲し、爾來改良に改良、研究は研究を累ねし結果良種と爲し、名けて之を甘樂桑と稱し、又葉の密着して幹の見へざるより、別名を幹隠しとも謂へ、收穫多きが上に葉質又良好なる珍種を出し、盛んよ之が繁殖に熱心せられつゝあり、翁の如きは蠶種製造家として著名あるのみならず、桑樹の研究者として實に賞揚すべき功勞者あり、殊に六十有餘の老齡も不拘、今尙自から蠶桑の勞務に従事して、後進の指導たるは之れ實に蠶業界の大神人、好模範者と謂ふべきなり、北甘樂郡富岡町の町外れにして、土地肥沃、水清くして空氣潔淨の河畔に住せらる、一度び翁を訪ふ者必ず甘樂桑の滋々として桐の葉大に茂れるを驚くあらん。

交水社

精絲交水社は前橋市一毛町にあり同社は明治十年前前橋藩士が武職解帶の後士族永遠の職業を得さしめんが爲め製絲を持寄せ共同販賣するの組織にして高須泉平、鈴木小十郎、梅澤直藏、田村新三郎其他社員數十名を以て明治十年より製絲會社を組織したるに始まり翌十一年より交水社と改稱し専ら座繰製絲の共同販賣を爲せり最初直輸出を企てしが幾何ならずして米國の經濟事情に鑑み三井物産會社に依托して賣込を爲せり爾來社員益々増加して一時隆盛を極め濱表に於ける絲價を左右するの勢を示し本縣製絲の覇權を握りたりしが時勢の變遷は勿論榮枯盛衰の世の中は長く之が大製絲場の獨占を許さず、碓氷、甘樂、下仁田の所謂南部三社の勃興するあり且つ座繰製絲貿易の不振に陥りたるなどの影響にて當業者の中失敗者を出し其出來高に於て遂に南部三社一籌を輸するの現狀となりしが組織變更の後には頼みよ社員増加し復舊すると同時に大に製系に改良を加へ從來座繰絲の多かりしも今日は機械製系が過半を占むるに至れり其の一年の産額は三千捆にして其價格百六十万圓を出すに至れり



交水社全景

三木徳太郎君

君は万延元年武藏國賀美郡昆沙吐村に生る家世々蠶業を業とせり居村最初鳥神流の二川に挾まりありしが弘化年間の洪水にて全村殆んど流亡せり是に於て現今の居村に移る河岸町之れなり、横濱開港以來生絲の貿易盛大となり蠶業愈々發達するに從ひ蠶種の需用益々増加するに方り氏は業務を擴張して蠶種の製造に努む、明治十六年故高山長五郎氏の門に入り其の發明に係る清温育の奥義を究む爾來縣下は勿論埼玉、東京府下北豊島郡方面に或は兵庫、福井、静岡、熊本の各縣下へ養蚕教師として招聘せらるゝこと數十回、三十五年高山社協議員とある、同年高山社附屬分工場を自宅構内に設け専ら生徒を養成せり、三十八年群馬縣蠶種業聯合會議員に當選す、同四十年高山社第二回共進會審査員を囑託せらるゝ、四十一年再び群馬縣蠶種業聯合會議員に當選す、四十一、四十二の兩年度は山形縣東村山郡楯山村に養蠶巡回教師として招聘せらる。

三本徳太郎君肖像



君の全生涯は右の如く養蠶業の爲めに殆んど捧げたるものと云ふも過言にあらざるべく爲め郡内及び縣下に於て斯道の先輩として皆畏敬する所以あり

君は公共心も富み常に居村の發展に就て苦心する所あり學校其他公共の爲め金品寄附の爲め數回の受賞あり、尙各地の共進會及品評會へ繭及蠶種を出品して賞品を受くる幾回なるを知らず。

高山社 蠶業學校

高山社蠶業學校は多野郡藤岡町にあり明治の初年同郡美九里村大字高山村の高山長五郎氏が多年の苦心研鑽の結果養蠶清温育法を發明し高山組を起し後ち高山社と改め傳習所を設け汎く生徒を養成せり此門を出づる者は皆斯道の蘊奥を究め改良育蠶法を天下に普及せしめんが爲め四方に出張して教授を爲せり、當時世に天然育と強暖育と二種の極端なる飼育法行はれ居たりしが高山氏が之を融和折衷し中庸を得たる飼育法を發表せり是れ即ち清温育法なり其の結果良好ならざるなく世は靡然として之を迎へ教授を受けん爲め其の門は集まる者日よ多きを加へたり、然るに高山氏は二豎の爲め冒され明治十九年十一月高弟町田菊次郎氏に遺言して社長とあし遂に逝けり然れども氏の遺業を慕ひ傳習希望者蝟集事務所及傳習所狹隘あるより町田後任社長及高山氏の遺子武十郎氏等皆謀り藤岡町に地を相し即ち現在の舎屋を建築し移轉したるは明治二十年の事ありき

明治三十二年技、學兩術合理不拔の蠶業法を制定し益々斯業界の模範たらんことを期するに共々學術兼備の人材を養成し斯界に貢獻せんことを期し甲種高山社蠶業學校を設立せり、三十五年文部大臣より徵兵令第十三條の特典を認可され、爾來多くの卒業生を出し四十二年には社員五万授業員八百人に達し授業員派遣の箇所七百の多きに及ぶ、社長は現に町田菊次郎氏にして創立者高山氏遺言の儘三十五年間今日に至る要するに天下に比類なき蠶業家の淵藪として其名聲噴々其の勢力天下を壓せり



高山社全景

碓氷郡西横野村 新井高四郎君

君は實業家として功績著大あるは勿論、政治上に於て又確かに手腕あり多望あるの人、編者試み其一斑を記さば、君は現に蠶種製造家にして又製絲業を營み、明治三十年より全四十年まで碓氷社碓原組長及び全社商議員を



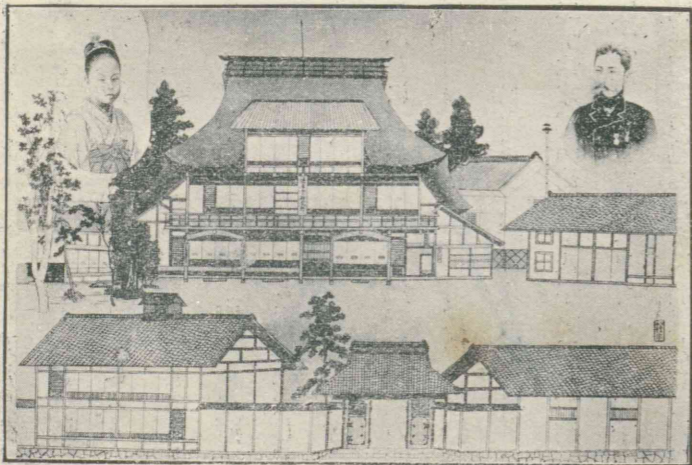
新井高四郎君肖像

勤績し、尙全三十年より爾來今日に至るまで碓氷郡農會副會長、群馬縣農會評議員たり、而して全三十二年群馬縣議員に當選し、全三十六年再選、群馬縣名譽職參事會員となる、全四十年より群馬縣蠶業聯合會評議員たり、全四十二年四月碓氷社理事に當選し、又同四十年群馬縣農會より功勞賞牌及び大日本農會より、名譽賞狀を賜はる、あ、君が政治、實業の兩界に於ける位地と名望とは多き經歷の中、僅かに摘載したる所を徴するも明かならん、君又蠶

業は大熱心にして自から桑蠶に接して收むる處の蠶繭 年々實は六七百貫匁に達し、養蠶家として又製絲家として著名の人たるなり、君年四十五、漸やくよして老熟の域に達す、君の如きは眞に本縣實業界の重鎮、居村西横野村は信越線松井田村より僅かに十八町の地。

松下政右衛門君

群馬の蠶業氏ある爲め今日の發達を見たりと謂ふべし君の偉績は永く没すべからざるなり今其の經歷を述べん君の祖先是野州箕輪の城主長野信濃守信業にして天文年中武田晴信の攻むる所となり戦に敗れて群馬郡濱川村に走り終に民間に下る即ち今の長野村是れなり其後裔世々長野長右衛門と稱して君の父に至る、君は一世長右衛門氏の長子にして弘化三年に生る、元治元年同青梨子村親戚松下嘉十郎氏に養はれ長じて其家を繼ぐ養家素より蠶桑を業とす明治七年には所有の畑を舉て悉く桑園となし以て前途蠶業は必らず發達の期あるべきを期せり其卓見他の企及すべからざる所たり種々研究を重ね明治十一年終に野州天然の風土氣候を斟酌商量して暖爽育法と名けて斯界に一新生面を開けり、明治十九年米國ニウフレアンス開設万国博覽會に繭絲を出品して褒狀を領す、此年又蠶卵一蛾製造の方法を考究して大に製蛾の便法を開く、尋て養蠶方案を著述して世人を益す、明治廿一年養蠶家六百餘名を糾合し協同適蠶組と命名して大に斯業の改善を努む、同年佛國巴里世界博覽會に成繭を出品して褒狀を得、明治廿三年政府蠶種検査條例なるものを設け以て帝國議會の協賛を求め當時海内の議論二派に分れ星野長太郎、八田達也の兩氏と共に上京運動し會員四十万人の連署を得て帝國議會に請願す、明治廿五年蠶業を盡せる功績に依り勅定の綠綬褒章を下賜せらる、君義侠にして中小學校に寄附し又は上毛新聞の資を供して其頹勢を挽回せしめたるなどは著名の事實なり



松下氏邸宅全景

原富岡製糸所長 大久保佐一君

君、愛知縣渥美郡六連村の人、故新兵衛氏の長男、十五才にして居村小學校を卒業し、後ち故楠東岳先生に漢學を修む、偶々楠先生の事故あるに際し補助教員となりしも、自ら性よ適せざるを認めて之を辭し、更ニ養蠶傳習

大久保佐一君肖像



所に入り蠶業を修得し、又細谷製糸所に入りて製糸業を研究す、明治二十七年前田合名製糸會社を創立し、奮闘すると實に七ケ年、君又販賣業を研究すべく家業の海産物を東北及び北陸に出張販賣し、具さに他郷の艱難を嘗め、再び撚絲、練絲、染色、及座繰製絲を營みしに、不幸にして父新兵衛氏の逝去せし爲め、前田製絲の社員を脱して父の業を繼ぐ、幾らずして更ニ原名古屋製糸所に入り原料掛となる、時よ君年二十六才、明治三十八年十二月古郷前所長

と共に富岡に轉任して次席たり、而して轉任以來古郷所長と共に大に諸般の研究に力むる所ありしよ、四十二年二月古郷所長の横濱本店に轉せらるゝや、君、代つて所長に榮進し、蠶繭統一問題の熱心ある提唱者として本邦蠶業界に知られ、現よ多大の資を投じて銳意蠶業の改良よ盡力しつゝあり、資性、穎敏よして機略よ富み、大志よして又細心、商業よ老熟し、工業に熟達するの他、社交上よ於て又如才無き紳士たり、君年齒未だ三十三、春秋よ富むの身

蠶種家 田島彌平君

君は明治七年佐波郡島村に生る家世々豪農たり祖先より蠶業に努め製種を業とす君又其の遺業を繼ぎ特に傳習所を置き多くの後進を養成す

- 一 明治三十六年十月佐波郡蠶種業組合評議員兼幹事に選舉せられ四十年十月再選重任す
- 一 明治三十四年大日本蠶絲會地方委員を囑托せらる
- 一 明治三十八年九月本縣蠶種業組合聯合會商議員に選舉せられ全四十年十月再選重任す
- 一 明治三十八年十月大日本蠶絲會本縣支會商議員に選舉せらる
- 一 明治四十一年三月島村農會評議員に推選せらる
- 一 明治十年十一月第二回内國勸業博覽會よ出品して鳳紋章を賞賜せらる
- 一 全十四年六月第二回同上に於て有功二等賞牌受領
- 一 全廿三年七月第三回全上褒狀を賜はる
- 一 明治廿一年佛國万国大博覽會に於て銀牌受領
- 一 全廿六年米國大博覽會に於て優等賞牌受領
- 一 全卅九年山梨縣主催一府九縣聯合共進會に於て銀牌を授與せらる
- 一 全四十二年二月佐波郡農會主催農産物品評會に於て一二等賞を授領せり



田島彌平氏邸宅全景

一 全四十三年日英大博覽會に於て金牌を賞賜せらる
君の専ら製造する蠶種は良白(一名島村)改良又昔、白龍、金城又昔、風穴種は白鶴、多摩錦にして一ケ年の産額普通製五千枚、原種用三十万蛾なり其販路の擴き推して知るべし

佐藤量平君

君は現に精練下仁田社長たり安政五年七月北甘樂郡磐戸村大字磐戸に生る壯年より蠶業を好み大に研究を積めり當時地方一般の蠶業者提糸造りなるものを製し各自下仁田市場に鬻ぎしも只粗製濫造の弊に流れ外人の信用日に月に失墜するを見て心潜かよ之を憂ひ明治十四年地方有志を勧誘し其悪弊を矯めんと率先して共同座繰揚返所を



佐藤量平君肖像

の爲め渡航して親しく調査を遂げて同年七月歸朝せり爾來一層斯業の改善を圖り、四十三年五月産業組合組織を變更せり、氏は一面には公共事業に就任すること多く村議は固より明治十八年より一數年間縣會議員に擧げられ、三十年より上野鐵道會社取締役を始め又下仁田銀行、本縣農工銀行の重役に列す、其他功勞賞、綠綬褒賞、金銀杯等の受領は茲に枚舉の煩に堪へず

廣神定五郎君



廣神定五郎君肖像

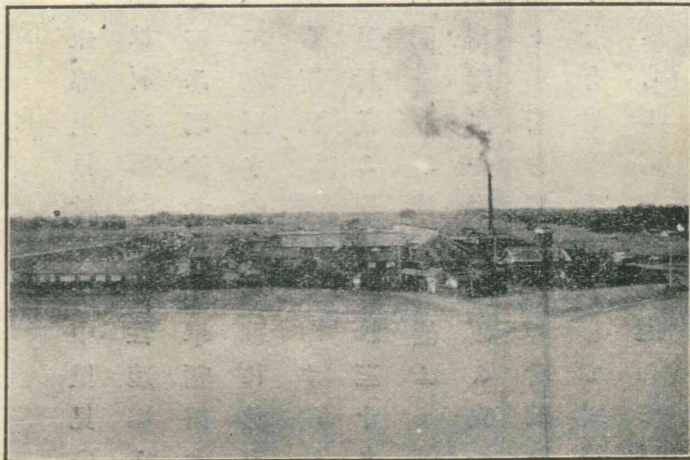
氏は碓氷郡里見村大字中里見の人氏の家は村の素封家資性聰明よして學を好み明治廿六年早稻田大學を了へて家居す特に養蠶に熱心にして傍ら玉絲製絲に従事す明治卅六年里見村長に擧げられ三十九年退職し同年郡の輿望を擔ふて縣會議員に當選す一度び議場より立つや侃々諤々の辯を揮ひ縣の財政を論議す、少壯有爲の縣議として同僚間に推重せらる其の後再選して現に其職にあり政黨は實業派に屬し現今碓氷の重鎮たり

絹絲紡績 株式會社 新町絹絲工場

一沿革 同紡績工場は多野郡新町二百八十番地あり日本に於ける絹紡績業の元祖にして明治八年十二月參議木戸孝允、大久保利通諸公の建議に基き政府に於て之を建設する事となり翌九年建築に着手し十年業務を開始し幾多の經營を経て明治二十年六月三井家より於て讓受三井新町紡績所と命名營業を繼續せり尋て明治卅五年各同業會社合同の議興り全年八月一日第一絹絲紡績株式會社、日本、共立、南海、郡山、の諸絹絲紡績會社と合同し單に絹絲紡績株式會社と改稱し、明治四十年五月岡山、備前、西大寺、南海の四綿絲紡績會社と合併し資本金六八十七万五千圓となり經營今日に至る

一原料及製造 原料は蠶絲屑物出殻繭、熨斗絲生皮苧、揚り繭生絲屑、繭毛羽篠卷等を用ゆ、而して各種原料を精練、製綿、前紡精紡、瓦斯燒染色精撰の各部工程を経、細糸は混綿梳紡精紡精練、精撰の各部工程を経て製造し製品は生絲の代用品を用ゐる國內生絲消費の量を減じ輸出をして多からしめ國力富源の基礎を固むる一助と爲し裨益少からず

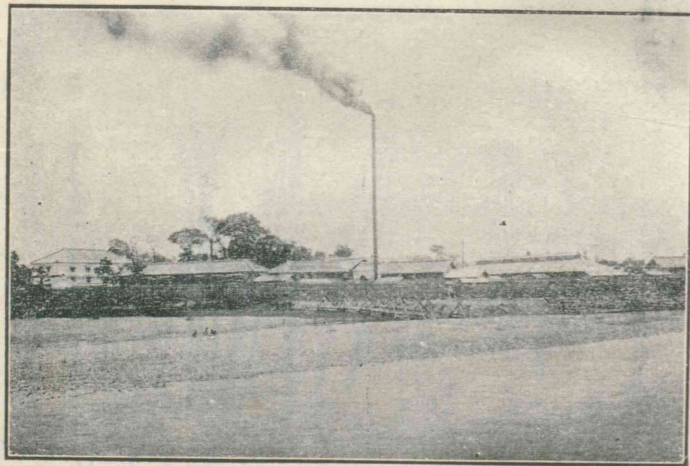
一販路 紡績絲及細糸は内國向は京都丹後峯山地方一圓尾、一の宮地方一圓越後見付地方一圓、八王子、伊勢崎、桐生、足利其他各地、外國向は歐州東印度より輸出し、綿糸及綿布は主として支那韓國に輸出す本社は京都市上京區東竹屋町に在り現時社長は森田茂吉氏にして新町工場長は佐竹規方氏なりとす



新町絹絲工場全景

高崎市 茂木製絲所

茂木製絲所は高崎並榎町にあり明治十九年の創立にして最初は横濱茂木惣兵衛、高崎橋本清七、絹川嘉平三氏の共同事業より成り旭社と稱して専ら精糸をなし釜數器械製糸部九十人、座操製糸部六十人ありしが明治卅一年組織を變更し全く茂木氏一人の經營となり茂木製糸所と改稱せり同時に座操部を廢し器械部を増殖し橋本清七氏を以て營業を監理せしめ工場を増築し其の規模を大よせり、又昨年は大に火力の増大を圖らんが爲め汽罐を据付け新式生繭乾燥器を増設し現在釜數二百個繰返し百個にして一ヶ年に生糸三千五百貫目を産出す、使役する工男工女は總數二百六十人敷地坪數一千八百餘坪、建物十六棟にして家屋の建坪五百餘坪に達し、一ヶ年の燃料價格五千餘圓にして實に國家的工場として縣下より於ける有數の製糸場なり



茂木製絲所全景

蠶種家 津久井和一君

津井久和一君肖像



君は勢多郡横野村大字宮田の人文久二年其家に生る祖先より蠶糸業を營み君及び令弟和藏氏皆斯業に堪能なり現に和藏氏は本縣に蠶業技手たり製種は個人經營にて豫約法に依り之を製造して注文者に配布す其種類は春秋蠶種を合せ亦昔、角又、白龍等、於て年々約三千枚、其の販路頗る廣く他府縣に普及せり
君は農産に従事し之を指揮監督の傍ら村會議員郡會議員、村長等、舉げられ郡村の爲め大に盡瘁せり、三十七八年事變の功に依り勳章を下賜せらる特、君の家は土地の名家として居村の畏敬する所たり、現、今群馬縣蠶業聯合會議員、及び刀川蠶業組合評議員たり

三 侯 愛 策 君

三侯愛策君肖像



君は多野郡新町の人、家元中仙道屈指の旅舎なり、幼より讀書を好み少壯にして時事に感ずる所あり奮然身を挺して東都に遊學し久しく蠶雪の勞を積み大に諸書を涉獵せり、當時既、名士の門に出入して時事を痛論し後、郷里に歸りて縣民の政治思想を慨し大に政論の喚起に努力せり、然れども鐵道開通して交通便利の時勢となり君が半面の業務は正に休廢に屬せり是、於て君又大に悟る所あり意を翻して農桑を業とし慣用せる天然育を擲て親戚なる高山長五郎氏の起せる高山社の飼育法たる清温育法を攻修して熱心蠶業に従事せり、又一面にありては君の性質として只、未耜を執るのみ、満足する能はず政局の發展を謀り志士の間を來往して自ら上州社なる一社を設け時弊を痛論せる新聞紙を發刊し郷黨人智の開發、努め其勢力縣下を壓せり然るに其の當時既に政界は紛々擾々として又濟ふべからざらんとす、氏は再び之を憤慨して弊履を捨つるが如く政界を去り蠶業に意志を傾注し高山社派遣員として各地に出張し又高山社監査員として同社の樞機に參與し又同社同窓會報の主筆に従事し此間十有六年殆んど寧日なかりき二十四年高山蠶業學校教授となり或は清韓蠶絲業調査に渡航し又同社清温育に關する養蠶便覽並、蠶桑提要の二書を著して實業と學說との一致和合を明しせり要するに氏は高山社中の元老として有數の人物と稱せらる

松井健次郎君

氏は弘化四年の生れ多野郡美土里村大字上大塚の人、氏の家世々庄屋を勤め又祖先より農蠶を業とし天明年間より蠶種製造を爲せり氏の専ら販賣せる蠶種は又昔、青熟、下木村等よて蚕兒頑健其の結果佳良也、氏は蠶業製絲の名士なる丈けありて桑園改良に熱衷し克く其効果を受む、氏は山林を開懇して桑園造成の發議者として率先之を實行し克く名實相適ひり、氏の供給すべき蠶種は其區域甚だ廣く三府二十縣よ及ぶ、其の各地の共進會品評會等に出品して賞品褒状を受領せられし事擧げて算ふべくもあらず

一面には公共要職に就く事多年村會議員、消防部頭、勿論村長をも勤の其治績顯著なり氏の男に國次氏あり氏は東京西ヶ原蠶業講習所を卒業し自宅よ高山社分教場を置き生徒を薰陶せり、毎年傳習生の申込頻々相踵ぎ之を謝絶するの煩よ堪へざる程なり、國次氏は自ら理想の乾燥器を發明し松井式乾燥器と云ひ其の名聲噴々たるなり此圖は四十三年養蠶組合員の送別の際撮影せしものなりと云ふ



松井健次郎氏邸全景

蠶業家折茂藤太郎君

君は明治四年を以て多野郡美土里村大字上大塚に生る、祖先より蠶業を事とし蠶種製造を創始したるは元文年間よして爾來累代之を廢せず以て今日に至る、君の幼名は住平、後ち藤太郎保秀と改む、藤太郎保厚の第二子なり



折茂藤太郎君肖像

祖先是關東管領上杉顯定より出づ、十二歳の時兄光太郎宗家佐十郎方よ嗣を以て出て養子となり氏自家を繼ぐ彼の高山社の開祖故高山長五郎氏は氏の伯父たり武州兒玉町競進社長木村九藏氏又叔父たり此の如く親戚よ蠶業名家のあるあり氏も又自然の陶冶にて又蠶業を好み學業了へて直に之よ従事す明治十七年高山社創立よ際し其の社員となり大よ研鑽の功を積む、二十二年三月より高山社分教場となり多くの生徒を輩出し根本的蠶業の改善を企圖す、明治二十八年蠶業新報社の囑托よ依り養蠶講義を編纂せり又嘗て農事研究所に勤勉貯蓄部を設け其部長に擧げられ浮華の弊を矯正する傍ら貯蓄心を養成す、明治三十三年群馬縣蠶種検査員を命ぜらるる全年高山社蠶業學校創立に際し創立委員を囑托せらる、三十四年美土里農會長に擧げられ卅五年高山社協議員に當選す明治三十八年高山社對時局巡回講話講師として多野、勢多、北甘樂を一巡す、明治四十年より大日本農會より名譽賞状を下賜せらる、四十一年實父病歿に付藤太郎を襲名す、其他各地の共進會、博覽會等へ薦及び蠶種を出品して一二等賞を受領する事數回なりとす

繭糸問屋 高柳好作君

佐波郡豊受村大字國領の産、幼より商業志し明治十八年より伊勢崎織物原料撚糸及び内外絹糸紡績、太玉糸等の販賣を營む、君、商事に關し頗る熱心にして業務日は繁榮す、明治三十二年同志と合資組織を以て經營せし營

高柳好作君肖像

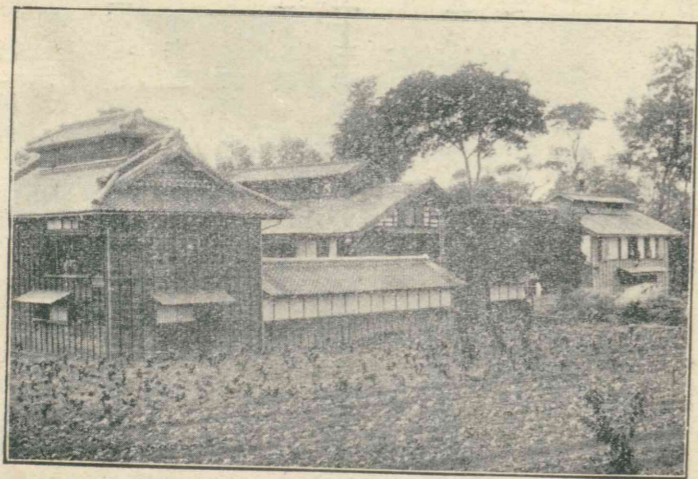


業の大活動を開始せしに、偶々三十二年は日清戰役後の經濟界大活況を呈し、諸物價の昂騰著しかりし爲め實に豫想外の大利益を占めしが、好事魔多しの譬にて三十三年は、形勢頓みよ一變して物價俄かに暴落を呈せしより、止を得ず該業を廢めて前橋市に轉ず、而して徐ろよ時運の到來を視へしに、三十四年同志六名と共同して東洋商會なる繭糸、米穀の委託販賣業を創立す、三十八年君獨立して現在の商舖を構ふ、君が其間に於ける苦心と研究とは。蓋し今日の安固なる獨立を保持せしむるの因にして、君が如きは具さず商道の實事を履み、困難に耐、失敗と戦へ、百戰苦闘して今日に至りしものよしして、徒らよ家祿を襲ふて祖業を墨守し、嘗つて商界の苦勞々味ひざる徒輩と其選を異にす、年未だ三十九、漸やく佳境よ入る身、性勤勉にして忍耐、克く細心の注意ある商人肌の人。

塚田平八郎君

君は嘉永七年を以て群馬郡國府村大字東國分よ生る明治十九年より蠶種製造を創む其の製造に係る蠶種は春蠶又昔、伊達錦、白姫、白玉、又風穴蠶種は五大洲白鶴等にして何れも普通と稱製とす、而して氏が平素斯業に對して抱懷せる意見は左の如し

元來本縣は蠶業先進國として他も許し又自らも任じ居れり然るに世の進運は駸々乎として他の後進地の却て本縣を凌駕せんとする氣勢ありし一時片時も油斷すべからざるの時なり、此所に於て一般當業者と相謀り蠶業組合なるものを組織し種類の統一を期する爲め明治四十年より原蠶飼育所なるものを置き専ら繭質整齊を期し又一而本縣聯合會に於て精密なる審査を行ひ以て製絲上適當なる種類を撰擇するの目的を以て不肖之れが飼育者に囑托せられ現よ原蠶飼育に従事しつゝありて大よ斯業の發展を圖り當初の目的を遂行せんとす



塚田平八郎氏邸宅全景

桑島定助君肖像



桑島定助君

君は勢多郡富士見村大字原之郷の人本年四十四歳なり祖先の業を繼承して専ら農蠶に努む、君嘗て故農商務大臣西郷従道公に従ひ或は指揮を受けて蠶業教授の爲め東奔西走して頗る其業に老熟す明治廿七年歸郷して自宅に育蠶傳習所を設け生徒を薰陶せり、君の製造する蠶種は青熟、赤熟、又昔よして無毒なり明治四十三年縣議の半数改選に當り輿望を擔ふて當選せり、客あり君に天下に蠶々たる蠶種統一問題に就て意見を叩きたるに莞爾として答へず筆を採て左の二句を書て示さる

考天隨時運 鑑地贊自然

以て君の爲人を徴するに難からず、今春名古屋市に開催せる三府廿八縣の聯合共進會に蠶種を出品して金牌一等賞を受領せるを見ても如何に良種なると今日まで蠶業に熱衷せるかは察するに餘りあるべし

染谷佐市郎君肖像



製絲業 染谷佐市郎君

君は埼玉縣北埼玉郡樋越村の人、年齒正に四十七前橋屈指の製糸家あり、君夙に時世の推移に鑑み一工業を興して國家の進運に資せんと企て、生糸貿易が年々長足の進歩を爲すに着眼し、明治十七年より居村に於て製糸業に従事せしも、當時同地方の蠶業は未だ幼稚にして原料買入及販賣等頗る不便なるを以て、則ち此の点に於て最も地の利を得たる前橋市に移住したるは、實に明治三十一年なりき、移轉當時は僅かに卸取製糸を營むたるも業務の發展に連れて蒸氣機關を設置し、今日は實に百釜を有するに至り其間斯界多年の狂瀾怒濤は數々君を惱せしも、剛膽不羈能く幾多の艱苦に堪へ益々業務の擴張を圖り終始渝らず、遠大の志望を以て斯業の爲めに奮闘せらるゝ所眞に稱讚の値あり、厩城の東北方煤烟天に冲する所高く聳ゆるサ印の烟突は、即ち才川町なる君が工場の標章あり

佐々木才七君

佐々木才七君肖像



君は文久三年六月北甘樂郡額部村大字岡本村に生る家世々農桑を業とす、幼より學を好み好成绩を以て普通小學を卒ひ尋て漢籍を攻む其文筆に堪能なるより二十歳の頃より戸長役場の書記となり明治二十二年五月村會議員に當選す二十三年三月富岡町外廿三ヶ村の町村組合會議員となり同年十月同郡役所に入り雇吏とある、氏は郡衙に勤むる身を以て一面は蠶業の發展に盡瘁す廿六年三月精絲會社岡本組々長に擧げられ、同年六月には商法施行條例第三條に依り司法省より破産管財人を命せらる、二十七年三月、甘樂社相談役となり、二十八年額部村助役に就任す、十九年六月徴兵參事員に當選し、三十年四月甘樂社取締役に就任す、三十七年額部村長となり克く村治に勵精し、三十八年十一月大日本産業組合中央會群馬支會評議員に當選す、三十九年三月再び村會議員に擧げられ兼て學務委員を勤む、同年十二月率先して友義信用組合を起し組合長とある、四十年一月産業組合北甘樂郡部會理事會長に當選し、四十一年五月明治三十七八年事變の功に依り勳八等白色桐葉章を授けらる四十二年四月甘樂社より同社に盡したる功勞表彰狀並に銀盃一個を寄贈せられ、四十二年四月大日本農會より表彰せらる、同年五月所得稅調査委員補欠員となる、四十三年二月甘樂社の組織を變更し信用販賣組合となるや選ばれて岡本組合理事となり以て製絲の改善に盡瘁しつゝあり、如上の經歷を見て氏は如何なる爲人あるかを察するに難からざる也

蠶種家 多賀谷熊五郎君

多賀屋熊五郎君肖像



君は嘉永二年一月佐波郡豐受村大字上蓮沼村に生る明治二年より蠶卵紙を製造して海外輸出を企つ、十五年村内同志と謀り長紹社を組織し蠶種改良製造法を發明して生徒を薰陶する傍ら各地の需めに應じて蠶業演說會を開き大に斯業の開發に努む、年齒六十以上に至るも鏗鏘として壯者を凌ぐの概あり、又風穴種の製造獎勵に奔走せり、氏は明治廿八年縣會議員に當選し縣の財政を料理し、現に度瀬桃木兩堰普通水利組合會議員、及村内小學校學務委員を勤む、氏の製造に係る蠶種は白龍、又昔、蓮生、秋蠶種は風穴、大白龍等あり、氏の家は伊勢崎を距る一里半中仙道本庄へ一里、境町へ又一里、交通便利の地也

繭糸業 石坂鷺五郎君

石坂鷺五郎君肖像



君は群馬郡白郷井村大字上白井村の名家、石坂和十郎氏の長男として、明治六年を以て生る、家代々農を業とせしも、天性豁達なる君は、徒に鋤犁を以て終生の友とするに忍びず、父君又少く繭糸の賣買を營みし事あるを以て、君も亦繭糸業界に、驥足を伸はさんと企て、奮然蹶起明治二十一年を以て、店舗を沼田町四百六十七番地に開きしに、商才に富める君は、忽ち中外の信用を編ち得て、營業年を逐ふて盛大に趨き、殊に生糸の賣買に就ては君の最も得意とする所沼田町にて々糸を購入せんとする者は、先づ君の店舗を訪はざる者はなしと云ふ、君の商業は盛大なると共に、起伏波瀾も隨て多く、時としては、非常の難關に遭逢せしとあるも、君の大膽と忍耐とは、克く百難を排し、數々奇策を弄して、大勝を博し、確か一方の驍將として、同業者間の畏服する所たり、君の如きは實に前途有望の少壯實業家と謂つべく、現に繭糸同業組合の評議員たり。

齋藤正次郎君

齋藤正次郎君肖像



君は弘化四年三月北甘樂郡磐戸村大字小澤村に生る明治の初年より其村戸長を命せられ爾來今日まで公職其他製絲事業に盡瘁す明治廿六年甘樂社と分離して新に下仁田社を組織したるが如きは君の羈氣長く甘樂社の部下たる事を慊焉たらず思ひたる結果率先分離案を提出したるに依る故に分離後は毎に下仁田社の牛耳を執り社長を輔けて造詣する所多く同社今日の盛況を見しは全く其の惠に頼るもの多し、又氏は理財の道に通曉し下仁田銀行を設立するや常々其樞要の位地を占め其の手腕克く多くの利潤を得て利益の配當を爲す之を以て株主は皆氏の敏腕に畏敬の念を起さざるはなし、氏は頭腦明晰にして事に當りて緻密なり明治四十年十月興望を擔ひ縣議に當選して議場に列するや、其原案の説明金額の計上に杜撰の個所あらば逐一之が詰問を試み一々要路の肺肝を衝く、爲め同僚間に推重せられ氏一度び口を開くや殆んど議場を壓するの概あり、地方の俊材は積極的其の負擔を爲さしむ氏は前二者の重役に忙殺せらるるある一面は州一年四月より上野輕便鐵道會社の取締役に當選して以來會社の業務挽回に努め一時悲運に接したる同社の運命も狂瀾を既倒に回せるは氏の力與つて多き居る、氏は恁る手腕を有するより公共事業の爲め委員又は議員の當選する事枚擧に遑あらず、又嘗て知事より農事功勞賞牌、大日本蠶絲會總載宮殿下より金賞牌の功績表彰の事あり

繭糸問屋 神山雄一郎君

君は勢多郡東村大字萩原の人天保十四年の生れ、資性温厚にして志望遠大、幼より産業に志し、明治八年六年居村に於て器械製絲所を設立し、其製糸を米國に直輸出せり、明治九年五月前橋製絲原社の分社として黒川組を組織し、毎戸製絲よて二百數十釜を有し直輸出を繼續せり、明治十年内國勸業博覽會に自家の製糸を出品して花綬褒賞を授與せらる、而して東村地方は土地僻

神山雄一郎君肖像

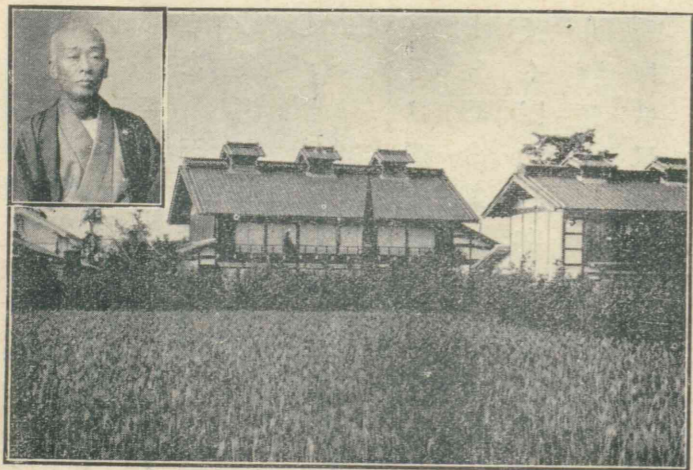


と、深厚なる信用とは、開業以來駸々乎として今日の隆盛を致せり、曩是本邦繭糸界の波瀾は頗る劇甚しして、當業者の一浮一沈も亦是よ伴ひしが、君の敏捷よして慧眼なる、克く百難を排し今日の成功を致せしもの、寔よ嘆賞の價なくんばあらず、店舗は前橋市本町三十八番地に在り業務益々殷盛なり

取にして曾て特殊の産物として見るべき物なかりしが、君偶々繭糸業の奨励に盡力する所ありし結果、該地の斯業頓に隆盛を來したるは其効績蓋し大なりといふべし、明治廿七年より二十九年迄同村々長を勤務し、村治亦大に舉り村民の信望深かりき、同年末前橋市に轉居し、製絲業を營む、後時世に鑑る所あり三十四年繭糸問屋を開始し、老練なる君の手腕

蠶種家 中里寅藏君

氏は多野郡美九里村大字本郷の人本年五十九歳なり、氏の家は累代蠶業に從事し多年飼育法を研究し次で高山社に入り清温育法を修得し自家に同社分教場を設け生徒を養成す、兼て高山社授業員となり各地に出張教授をわし斯業改良に努力せしもの多し、氏は明治三年より蠶種製造に從事し春蠶又昔、金城又昔、伯州又昔、改良又、青熟等の蠶種を製し販路頗る廣し、又明治廿五年より甲種高山社蠶業學校の分教場となり生徒を陶冶して四方に派遣せり



中里寅藏氏邸宅全景

蠶種家 塚越福重郎君

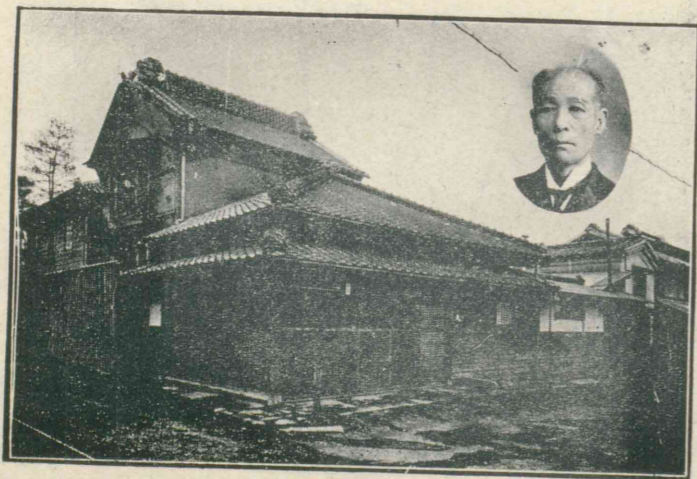
塚越福重郎君肖像



君は多野郡小野村の人、年三十二歳なり、父由太郎氏は明治十八年高山社に入り卒業の後ち二十年より教授員となり三十四年より自邸に高山社分教場を設立し大に生徒を教授せしが四十三年病歿せり、四十一年高山社第二回共進會に於て一等賞牌を受け、四十二年長野縣主催の一府十縣聯合共進會に於て二等賞牌を受く四十三年より父の業を襲ひ専ら蠶業に勵む、君の家にて製造する蚕種は又昔二號又昔青熟にして、框製四千枚、普通製三千八百枚なり、君の家は新町驛を距る僅に一里頗る便利の地にあり

杉本利三郎君

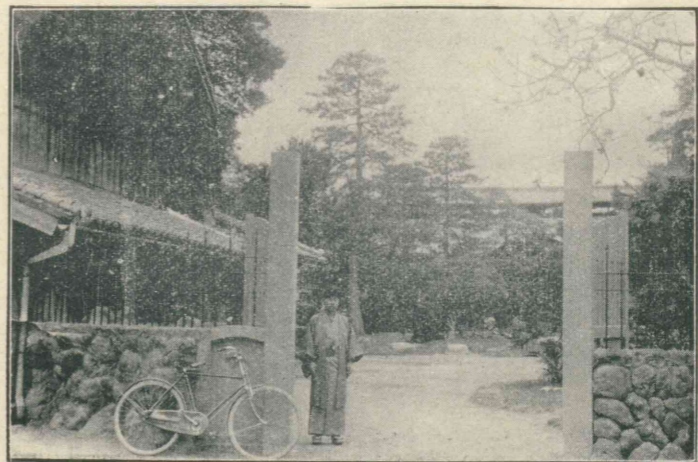
君は前橋市横山町四番地に住す嘉永元年十一月を以て生る明治元年より生絲製造業及び販賣業に従事し、明治十一年より撚絲製造業並に販賣業に従事せり君は前橋に於ける斯界の元老にして君の創業當時は同業者極めて稀にして前橋壹ヶ年製造高は全部よて二十万圓に過ぎず其後追々發達して今日の産額三百五十万圓に達したるは全く氏等率先して斯業改善に努力したる結果と外ならず、前橋撚絲組合の組織せらるゝや氏は推されて其の組長とあり又前橋商業會議所議員に當選し、四十年蠶糸業聯合會評議員に當選し、四十三年名古屋共進會より褒状受領、現に君は撚絲同業組合相談役、撚絲同業組合評議員、撚絲業同業組合聯合會評議員、商業會議所議員に就職し業務益々發展し今や嶄然同業者間を頭角を顯はし前橋に於ける斯界の重鎮たり、而して生糸製造は重に海外輸出品を製造し、撚絲製造は内地機業地へ販賣す其機業地は武州秩父大宮方面及野州足利、伊勢崎、等なりとす



杉本利三郎氏邸宅全景

高橋清平君

君は佐波郡芝根村大字沼之上村に生る氏の家は同村の名家にして祖先是安政年間より蠶業に従事し又傍ら製種をなせり氏は東京に遊學して歸家し祖先の業を継ぎ専ら蠶業に従ふ君は頭腦明晰として政治、經濟の道に通じ克く家事を治む、明治三十六年芝根村長に擧げられ村治に盡瘁し三十七八年の戦役の功に依り勳七等青色桐葉章並に金五十圓を下賜せらる、氏は此の名譽を獨占するに忍びず賜金全部を本村小學校基本財産の中へ寄附せり、氏の製造に係る蠶種は大又、又昔、亦昔の三種ありとす、氏は現に群馬縣農工銀行監査役を勤め、佐波郡參事會員、佐波蠶種業組合副組長たり、氏は慶應二年十月生れなるを以て前途又多望なりと云ふべし



高橋清平氏邸宅全景

玉絲製造業 須田貞助君

須田貞助君肖像



君は勢多郡富士見村大字田島の人、安政五年を以て生る、家代々農を以て業とし、君も亦一意専心、農事に蠶業に拮据勵精、郷黨の好摸範たりしが、後時世の變遷に鑑みる所あり、副業として玉糸製造業を開始したるは、實に明治九年なりき、爾來年を趁ふて、玉絲需用の増加に連れ、君も亦漸次業務を擴張し、努めて工業家の流弊たる、粗製濫造を誠め、自家製糸の信用を高めんと圖りし結果現今に於ては君が製造の布袋印商標を附せる細太玉絲は、大に市場に歡迎せられ機業家の愛用を享け遠隔の地より續々注文到達し曾て品評會に出品して一等賞を受領したり、是實に君が眼前の利益に眩惑せず幾十年の久しき終始一貫誠意を以て其業を勵みたる結果と言はざるべからず、君亦公共の事は盡瘁すると尠からず現に同村學務委員村會議員として衆庶の信望を荷へり

蠶種家住谷久次郎君

君は天保十四年十月群馬郡國府村大字東國分村に生る現時同郡蠶業界に於ける重鎮にして又縣下蠶種界の泰斗たり明治五年五月より官命を以て東國分の戸長となり爾來公共要職に就くこと算ふるの煩に堪へず、明治の初年地租改正の事ある率先して其測量に従事し時の縣令楫原素彦より功勞慰問状を受く氏は教育に熱心にして群馬及片岡二郡第二十八學區及三十三學區學務委員を命せられ、明治二十年居村に桑蠶改良會社を起し社長を推薦せらる、明治二十五年四月群馬縣蠶絲業組合總代に擧げられ、二十六年四月群馬郡製絲會社を組織し其の取締役に當選す、明治二十八年七月蠶種検査肉眼鑑定委員を命せられ、三十二年六月蠶種検査の爲め高崎検査所詰を命せらる明治三十八年九月群馬蠶種業組合聯合會を發起設立し評議員を推選せられ、四十年一月大日本蠶糸會群馬支會商議員を囑托せられ、同年三月群馬蠶業同盟組合組長を擧げらる、同年同月群馬縣農會長より農事功勞賞牌、功績表彰の記を授けられ、明治四十二年四月群馬蠶種業組合



住谷久次郎君肖像

聯合會評議員を再選せらる、要するに君は現時蠶種業に従事し製造の蠶種は數縣に配布し其成績良好なり故に其販路は日よ月に擴張されつゝあり氏の製造に係る繭及蠶種を各地の共進會及品評會に出品して賞を受くる幾回あるを知らず以て氏の製造の蠶種か如何に優良なるかを察するに難からざるなり

繭絲問屋富岡守治君



富岡守治君肖像

君は齡未だ二十七歳の少壯實業家、性極めて誠直にして、熱心なる信教家なり、明治三十一年六月四日より本町眞下善治郎方より營業見習として、勤勉克く主家の爲め盡すと實に拾貳年間一日の如し、其行動の眞面目にして志操の堅實なる點は現代の青年中蓋し稀に見る所、寔に前途有望の人として遠近斯業者に賞せらる、四拾貳年眞下方を辞すや直ち小柳町橋際に繭絲問屋業を開始せり、而して現在其實弟某と協力して營みつゝあるも、遠からずして之を合名會社に組織し、時勢の進化に伴隨する文明商業を營まんとすの抱負あり、君又前橋實業俱樂部員として誠意市の實業發達を唱道せらる、君の如きは確かに春秋に富むの少壯實業家なりと謂ふべし

飯塚喜三君

君は群馬郡金島村大字川島村の人なり年齢本年五十一歳あり祖先より農蠶に従事し又蠶種を製造して汎く販賣す種類は春蠶種よして角又亦昔、白玉、青熟、宮白等なり、只至誠以て其の製造よ從ふものから毎に検査に合格せざるはなし明治廿三年の第三回勸業博覽會へ繭を出品して有功賞牌を受領せり其他各地に開催の品評會共進會等に出品して一二等賞十數種を得たり、又農事に熱心よして明治三十年度よ新嘗祭御供米の耕作を命せられ其獻納の米は成績良好ありとの御沙汰を蒙れりと云ふ



飯塚喜三氏邸宅全景

繭種業 永井篤三郎君

佐波郡境町の生れ、京藏氏の長男にして十五歳小學校を卒業し、父に従ひて生絲商を營む、明治三十六年三月、君大に感ずる所ありて自から前橋市本町十六番地に生絲委託賣買店を開始し、勵精苦闘専ら信用取引の發展に力むる所ありし効は空しからず、爾來繭絲界の不況續きなりしにも不拘、實にトン／＼拍子の勢を以て今日の隆盛を致せり、而して君が年少の身を挺して此處に出でたる所以のものは、上州生糸の産額が逐年遞増の趨勢なるよも係らず、商家の多くは獨り逐を桐生、足利等の近接せる需用地にのみ供給し、進んで遠隔せる機業地に向へ新販路を開くの意無きは、是れ上州蠶絲界の前途よ對し看過すべからざる事ありと、自から地の利ある前橋に轉じて専ら斯業を營まんをす



永井篤三郎君肖像

居す、君又時勢に乗じて玉絲の取引を兼營するに至りし結果、更に玉繭の委託賣買業をも兼ねるに至り、業務日に月に隆盛を極む、年齒未だ三十三、天性快活よして頗る商才に富み、其賣買進退の敏なると到底常人の及ぶ所よあらず、加之、其滾々たる精力と根氣とは、是れ實よ君の先天的性能にして、定よ多量なる少壯生絲商ありと謂ふべし

蠶糸業 森平喜十郎君

君は嘉永三年八月北甘樂郡新屋村大字天引村に産まる明治九年の地租改正の頃より大に村治と蠶業を盡瘁せること擧げて算ふべからず今之を逐一列擧するは浩瀚に渉るを以て大要を指摘して掲載すれば左の如し

森平喜十郎君肖像



- 一 全十二年四月天引村會議員に當選せり
- 一 全十四年天引村戸長役場用掛を命ぜらる
- 一 全十八年五月北甘樂學區會議員に當選す
- 一 全年八月白倉村聯合戸長役場筆生申附らる
- 一 全二十年六月群馬縣蠶糸業組合北甘樂郡白倉村外四ヶ村聯合世話役依囑せらる
- 一 明治廿一年精糸會東盛組設立者となり其組長に擧げられ二十四年迄勤続せり
- 一 全廿二年三月本縣より五十四林區擔當を命ぜらる
- 一 全廿五年三月北甘樂精糸會社監査役に當選す
- 一 全廿七年十一月新屋村消防組頭とある
- 一 全廿九年北甘樂精糸會社を甘樂社と改稱し同社取締役に當選す

一 全三十年甘樂社副社長に擧げられ四十三年迄勤続して其信用頗る篤し君は村内の教育及衛生上は金品を寄附し其功績顯著なりとて本縣郡より受賞する數回、四十年は農商務省の命よて米國に到り蠶糸業の調査を齎らし來る、其他各地の共進會、品評會へ繭糸を出品して受賞する是又數十回よて之を詳記するの煩に堪へざる程あり

清水清十郎君

君は安政六年正月廿日を以て新田郡世良田村大字平塚に生る本縣に於て未だ他は蠶種製造者なき安政年間より之を製造して販賣す君は蠶桑に従事するの傍一面は公職に就任すること多年村民の信用頗る篤く其治績顯著なるものあり今其の公職若くは名譽職に就きたる經歷の

清水清十郎君肖像



一端を擧れば、明治十九年九月村會議員に當選してより三十四年三月に至る迄殆んど十六年間前後數回の村議に當選し村治に造詣する所多し三十五年九月世良田村助役に就任し三十八年九月より新田郡蠶種組合長に當選し四十二年七月迄勤続せり、其他赤十字社補助分區委員、帝國義勇艦建設委員、等を囑托せらるゝのこともあり、卅九年四月助役を辞す、此月卅七八年事變の功に依り勳八等白色桐葉章を授らる明治四十年一月蠶種販賣組合を組織し理事に就任し此大日本蠶糸會商議員を囑托せらる、此年三月平塚購買組合を組織し組合長に推さる、同時に養蠶改良に貢獻したりとて清水郡長より表彰せらる。

四十年十月選はれて新田郡會議員となる、同氏の製造に係る蠶種は春蠶伊達錦、白龍、又昔、秋蠶は青熟、角又等よして原種用と製絲用とは論を俟たず君は既往數年間於て或は山梨、長野、名古屋の各共進會を始め郡市の開催に係る品評會等へ成繭又は蠶種を出品して賞を受くる十數回なりとす

改良玉絲製造 平形藤平君

翁は天保十一年九月を以て群馬郡小野村に生る文久元年同村の名主役を勤め頗る村治に勵精し大に令聞あり翁の家は世々農桑を業とせしが感ずる所ありて慶應二年前橋に移轉し安政四年より専ら糸繭商を營む謂らく生絲賣買



平形藤平君肖像

より屑物たる熨斗絲を買収して濱出しを誠みんにはと之を實行して大に成功せり明治廿七年五月自ら首唱して熨斗絲共同荷造所を設置し其副頭取に擧げらる、全廿九年三月群馬縣蠶糸業組合取締所の組織成るや其評議員となり又監査役となる明治卅一年四月前橋商業會議所議員に擧げられ、全卅四年六月熨斗糸同業組合長に當選す、又前橋繭絲同業組合の設置さる、や其の議員となる明治卅七年四月群馬縣蠶糸業同業組合聯合會評議員に當選す、全四十年九月大日本蠶絲會群馬支部前橋委員部委員を囑托せらる明治四十年より細玉糸の製造を開始し從來の玉糸製造の積弊を一掃せんとして群馬郡小野村大字川嶋村に改良玉絲製絲所を設け其製出絲を北越機業地に供

前橋市本町 眞下善次郎君

翁、資性極めて着實にして固滿、幼より商業を好み、一浮、一沈、克く萬難を排して今日の成功を致せし人、前橋の生れ、父を磯五郎と稱し煙草商として有名の商人、翁の商事に熱心よして且つ大抱負ある、父の膝下よりあり



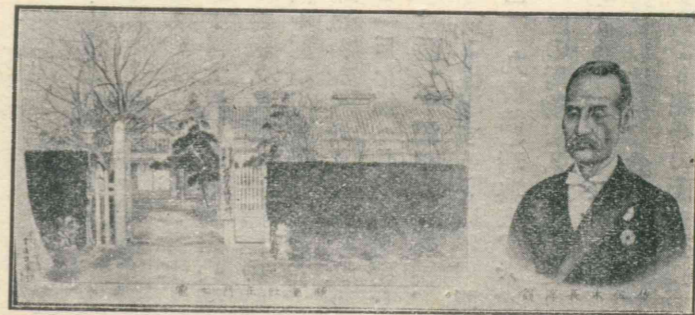
眞下善次郎君肖像

て前橋の煙草商として一生を送るは、踴躍自から禁する克はざるものありて、年二十にして横濱に出で横濱市本町二丁目大黒屋號榎本六兵衛方奉公す、同家は洋物の直輸入の傍ら蠶卵種の輸出を爲しつ、ありしが、偶々蠶種の大暴落に際し大打撃を被り、遂に同家を辞せざるべからざるに至り、獨立して南仲通二丁目一戸を構へ仲買商を營む、是れ實に明治元年なりき、而して爾來専ら前橋、横濱間を往復して繭絲の賣買に従事すると數年、明治九年より七十六館(今の二百九番館)瑞典人、バビエル氏の依託を受け上州方面の屑物買入を爲したりしが、不幸にして明治十年より十三年までの大不況に際會し、多大の失敗を爲せし結果、翁も亦一時之を休業するの已む無きに至り、前橋に歸りて糸繭の濱出しを營むと實に十數年、三十年頃より現今の繭糸委託賣買業を開始して、家運メキメキと榮ゆると東天の朝日の如くよして今日の大問屋となりぬ、翁は三男一女ありしも男の二長子は夭折し、一男一女あるのみ、即ち若主人長太郎氏は其息にして、性又翁の着實勤勉に酷肖し、銳意營業を勵む翁、年六十九、今尙鏗鏘たり

順氣社

多野郡藤岡町にあり、始め多野郡美土里村大字栗澤村山口正太郎氏
 の養蠶の研究を身を委ね大に得る所あり偶々内務省勸業寮佐々木淳
 氏の唱道せる順氣育法を傳習して爾來熱心に本法の研鑽を重ね同十
 八年同志と共に佐々木氏を迎へて所謂順氣育桑樹栽培其他須要なる
 理論及實地の講話を聞き遂に藤岡町順氣社を設け自ら社長となり
 生徒の養成に努め、旁々蠶種の改良を圖りて社員を配布す、然るに
 山口氏は二十九年病の爲め歿し嗣子乃ち社長の名を襲ぎ益々社業
 の擴張を圖り同四十一年資本金三萬圓を募集して組織を更め順氣
 蠶業株式會社と改稱せり、會社組織となしたる後は研究生の養成、
 蠶業資金の融通及び蠶具の周旋桑園改良に伴ふ肥料の貸付、桑苗の
 給供をなせり、而して同社の數字的現況は左の如くなりと

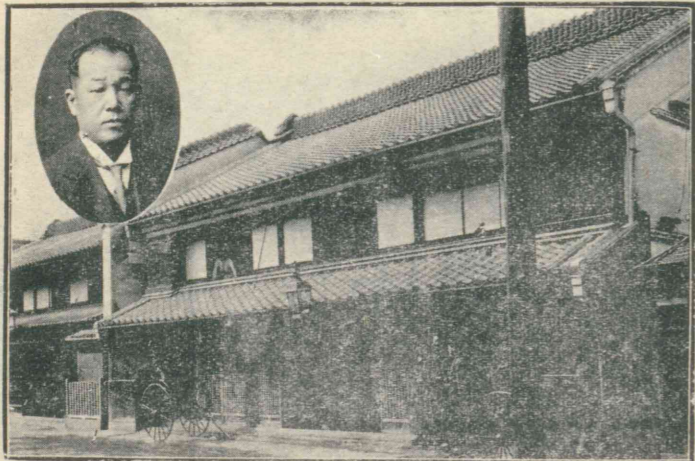
資本金三萬圓、株主社員數一百六十名、篤志社員五千一百九十二
 名、支所出張所分教場三十八ヶ所、蠶種製造額二萬三千枚、教授
 員現在數二百七十五名、成業生徒二千六百四十六名、現在兩科生
 徒數三百廿一名、本年派遣の教授員二百廿一名



順氣社全景

前橋市本町 生糸賣買業 中原仙藏君

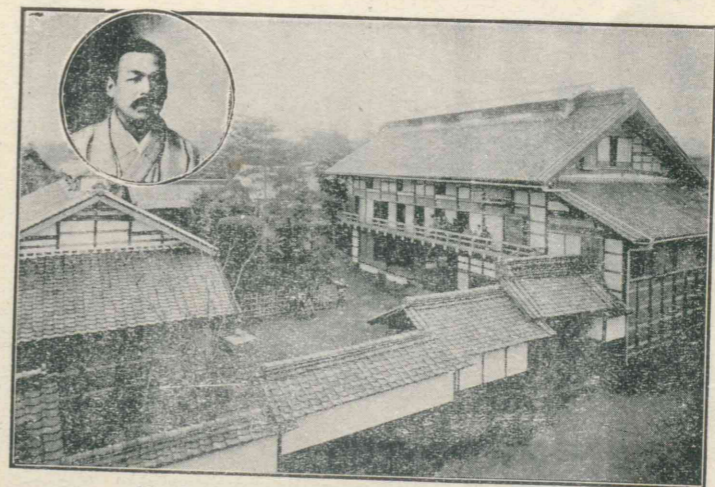
氏は武州本庄町中原善次郎の長男にして十歳の時父を喪ふ、父生存中生絲蠶種を以て横濱貿易に従事し遂に失敗
 して産を傾く氏之を見て大に發奮し安逸の日を送るべき時機あらずと明治十年六月野州足利町の豪商たる吳服店
 たる戸叶角藏方の店員と爲る是れ君が社會に漕出したる一着歩な
 り、一度び店員となるや克く忠實主人に事へたりしが偶々明治十
 四年九月母逝けり平素孝心深き氏は大に落膽意氣沮喪の結果心機一
 轉して主家を辭し上京し傳手を求め就職せんとせしが事志と違ひ都
 下で流離すること數年親族故舊皆氏の前途を氣遣ふ、伯父某君は説
 く所あり前橋本町田部井商店の店員となす氏勤勉努力大に人より超ゆ
 恰も廿二年の事なりき店員某が足利出張所に於て大に失敗したるを
 氏之が救濟策を講じ狂瀾を既倒し回せり爲めに主人の信用益々高く
 遂に長女を以て配し隣家なる四十番地に一戸を與へられ獨立して斯
 業に従事するに至りしは三十六年一月の事なり、爾來商機を敏なる
 氏は毎時他に一籌を輸するかく商業愈々振ひ本市に於ける斯界の重
 鎮と稱せらるゝに至る、氏は子福者として夫婦間に六男一女を擧げ
 家運益々長久を示せり、營業擴張の結果は家屋の狹隘を感じ遂に現
 在ある三十四番地に家屋を買入れ移轉せり、四十年八月繭絲同業組
 合の成るや之が評議員とあり四十二年組合を四部に分つや君は推さ
 れて現其の一部長たり



中原仙藏君肖像及邸宅全景

蠶種製造業 戸塚五郎作君

君は明治五年群馬郡箕輪村大字上大原村に生まる。明治卅二年より蠶種製造に従事す。明治廿八年蠶業研究の爲め東京西ヶ原蠶業講習所に入り其蘊奥を究む。明治卅四年本縣の撰抜に依り蠶病消毒講習會に入り其の業を卒へ。率先蠶病消毒を實行し無毒の蠶種を製造せり。氏の製造に係る蠶種は一化性春蠶は櫻姫、又昔、金城又昔よして櫻姫は一升二百五六十粒飼育容易よして糸質良好理想的の繭を得べし、又二化性風穴種は種類は白鶴、新屋、青熟等にて白鶴新屋は一升二百四五十粒、青熟は一升二百七八十粒なり。君は群馬縣蠶糸業聯合會評議員、群馬蠶業同盟組合評議員、榛名風穴合資會社長たり。



戸塚五郎作君肖像及邸宅全景

天海昇平君

天海昇平君肖像



氏は勢多郡南橋村大字關根の人。嘉永六年の生なるを以て本年五十八歳なり。亡父を正右衛門と云ひ松平大和守の下臣よして前橋寄居よ住せり。慶應元年小字向原に藩林十七町歩を拂下げ蠶室を設け桑園を仕立て盛んに養蠶を爲せり。昇平氏は明治三年より父の遺業を繼承し専ら農業に従事せしが飼育の術よ熟せざるの故を以て失敗に歸し負債生じて地所建物を舉げて速水健曹よ譲り現在の村よ移轉し再び養蠶を爲す。爾來飼育法の研究よ苦心を重ね漸く得る所あり。又蠶種製造を始め、春蚕種は亦昔、伊達錦、朝鮮、等にして風穴種は白玉なり。氏の家は西は利根川に面し東は廣瀬川の支流に沿ひ前橋より澁川よ至る縣道よ近く風景又佳なり。氏は現に蠶業組合聯合會評議員、刀川蠶種同業組合評議員を勤め事よ當りて熱心よして其の信用又頗る高し。

生糸問屋 星野正三郎君

信州岩村町の産、父を嘉助と稱し君は之が次男なり、世々繭絲業を營み其名斯界に顯る、明治十六年小學校を卒業し、更に東京商業學校國民英學會に入りて其全科を卒業す、三十一年信州諏訪郡に製糸業の見習を爲し、翌三十

星野正三郎氏肖像及邸宅全景



君性極めて敏捷にして商智に富み、其賣買進退の迅速にして機敏なる電光石火の如く、又着實として頗る堅固、業務の駸々として今日大成ある、是れ君の性能の克く業に適ひの結果たらずんばあらず、年齒未だ三十三、春秋に富むの身、店員は淺野安三郎、細川俊の兩氏ありて克く君の股肱たり

蠶業家 町田六三郎君

町田六三郎君肖像



君は明治二年多野郡美九里村大字本郷村に生る明治十三年普通教育を了り、十六年より村内龍田寺住職に就て漢學を修む、明治十八年高山社に入り専心蠶業を研究し出で、養蠶教師として四方に出張し斯業の發展に裨益する所多く、明治廿五年自宅に蠶業傳習所を設け高山社分教場となす、蠶業に堪能なる人物多く此門より出づ、明治二十八年本縣より蠶種検査員を命せられ三十七年まで十年間一日の如く克く其の任務を果せり、三十四年甲種高山社蠶業學校創立委員となる、三十六年居村に村農會の設立せらるるや會長に擧げられ、三十九年群馬縣蠶種聯合會議員に推さる、四十年高山社第二回共進會の開會に方り其の審査員に囑托さる、四十一年に愛媛縣より招聘され養蠶巡回教師として出張し懇切に教授して大に斯道の開發に努め本縣人の面目を施せり、君が製繭を博覽會及品評會等に出品して賞品賞状を受領すること數回あるも茲に略す

天野川太郎君肖像



蠶種家 天野川太郎君

君は勢多郡南橋村大字日輪寺村の年齢三十八歳なり
明治二十四年村内に組織せる精繭社の社員となり
明治二十九年より蠶種製造を創始せり其の種類は亦
昔、伊達錦、風穴種は白鶴、五大洲の四種とす、君
が熱誠を籠めて製造する蠶種は其結果良好なる爲め
其販路頗る汎し而して君は一兩年天下の一大問題たる
蠶種統一に對しては左の意見を抱懐す

豊富なる蠶種界は雜然として去來す而して之れが
繭質の統一を絶叫する者或は形式のみに走りて其
深甚の關係ある養蠶家の反響に因りて時々刻々變
轉究りなき作用を現出することに想當せずんば恰
も畫中の美人を見るが如くなるべし、其品質如何
を視るに當りて如何なる蠶種の根元によりて然る
かを深く探究して此の結果を來す所以を推理し此
議の賛否を決定せざるべからず、要するに最善の
製絲に適せる繭質の改善と一般養蠶家飼育の向上
とを促すは現下の緊要事にして又蠶種家の職責たる
べきものなり

船津保平君肖像



繭絲業 船津保平君

君は勢多郡富士見村大字原之郷の
人父を嘉傳次と云ふ明治卅九年よ
り前橋細ヶ澤町四十一番地に寓し
専ら玉絲製糸、撚絲の業に從事す其
の工女は各工場五十人づゝを算ふ
其の今日に至る間には頗る波瀾多
く幾多の辛苦を嘗めて以て今日の
域に進む氏は右製糸の外に本繭、玉
繭、屑物類、生糸等の賣買取引をなし
商機に敏にして頗る資産増殖に努
むと云ふ

蠶種家 佐藤周次郎君

君は慶應元年に生る多野郡日野村現高山副社長高橋某の實弟として明治廿年出て、同郡美土里村大字上大塚の佐藤鹿造の家に養はる、養家は祖先より蠶業を以て地方に鳴り天明年間より蠶種製造に従事し連綿今日に至る、氏は始め高山社に學び飼育教授として四方に出張し蠶業改良に貢献する所多し、又傍ら村治に參與す氏の製造する蠶種は春蠶又昔一點張りよて其結果毎々良好なるを以て販路頗る廣し其他氏が斯業に對し盡瘁せる功績は長く没すべからざるものあり



佐藤周次郎君邸全景

蠶種業 堀越清三郎君

氏は多野郡小野村大字上栗須村の人文久三年に生る氏の家は村の名家にして世々農蠶を業とす氏の父を長衛氏と云ひ横濱開港以來生絲の輸出を業とす氏は父の業を繼ぎて明治十八年農商務省令に依り蠶種業組合の組織するや其創立委員に擧げられ専ら奔走して之を創立し其牛耳を執る、氏は始め高山社蠶業學校に入りて研鑽を重ね出て、蠶業教師となり四方へ出張し又自宅へ高山社分教場を立て専ら後進者を養成せり、一面蠶種を製造して普く擴張に努む春蠶種は又昔青熟、白玉其他試験種數種とす、氏の家は中仙道新町驛を西南に距る僅かに二十町交通又便な所なり、氏は廿一年西ヶ原蠶業講習所に於て蠶業の智識及び顯微鏡使用法を研究し本縣又は郡より蠶病豫防吏員、或は蠶種検査員に任命せらる、こと數回、其他内國博覽會共進會、品評會等も繭又は蠶種を出品して受賞すること枚擧げ難からざる程なり



堀越清三郎君邸全景

繭絲業 河野要治君

氏は明治元年信州上水内郡鳥居村大字淺野に生る、父利助氏疾くより蠶業を營み兼て製種をあす明治初年より蠶種を横濱に輸出し尙ほ前橋を始め關東各府縣に販賣す關東の内群馬縣下の配布最も多きより明治十六年より現在の地即ち前橋一毛町辨天通りより店舖を開き故國より



河野要治君肖像

蠶種を取寄せ販賣の傍ら玉繭其他繭絲の取引を開始せり商業多忙を極むるより要治氏は學業を了へて父の許に來り其の業を助く漸次商業の駈引を覺へ數年ならずして牙籌を執りて立つも獨立獨歩又他に耻ぢざるの腕則ところなりよけれ、夫れより手を四方に伸ばし商品購入の爲め東北諸縣に出沒し克く有利の活動をなせり、彼の廿三年の大出水の際などは偶々奥州にあり舟にて商業に従事したる事さへあり、成敗利鈍は商業の常種々の波瀾辛苦を嘗め或る時は負債の爲め前橋を脱走せんかとの境遇に陥りし事ありしも志堅實且つ忍耐あり遂に狂瀾を既倒し回し成功して今日あるを致せり明治卅年より専ら玉繭依託賣買を始め業務確實信用頗る篤く今は斯界の重鎮として一方は雄飛しつゝあり、前橋繭絲同業組合の組織成るや舉げられて其の評議員たり、嚴父利助氏本年六十に敏なる前途の發展又期すべきものあらん

養蠶家 田村竹次郎君



田村竹次郎君肖像

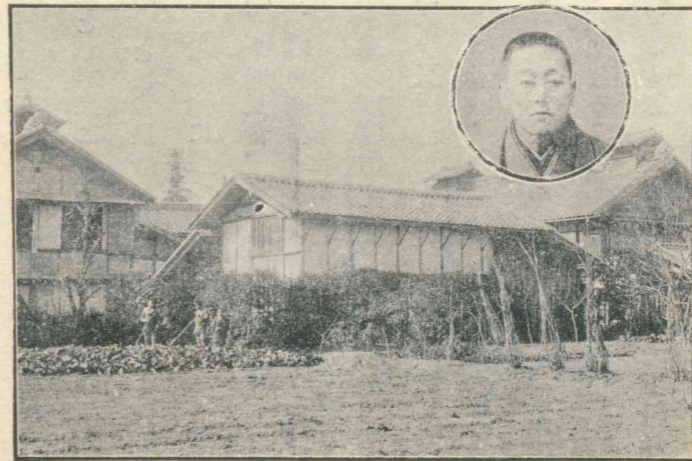
君は多野郡吉井町の人安政四年正月に生る、家世々農蠶を業とし君又之を承繼す養蠶の失敗は蠶種の劣悪なる所以と自ら良好ある蠶種の製造に着手し明治十七年より之を他に頼つゝ至る、氏の製造に係る蠶種は白綾、金城又昔、なり君は農蠶の傍ら賣藥、煙草、穀類、日用雜貨を商ふ、一面又町治に與る、今其の一般を舉れば明治十五年より三十五年迄、町會議員を勤め、又明治十八年には縣會議員に當選し四年間無事に勤了し、尋で郡會議員たること二回、又卅五年より區長となり爾來今日に至る、消防組の組織成るや組頭たること七ヶ年、多野郡に蠶種同業組合の成立するに際し評議員となり、次で組長に就任す、氏の長男寛次郎氏又志操堅實にして克く家務に膺り専ら蠶業を營み居れり

蠶業家 小茂田藤橋君

君は慶應元年五月を以て佐波郡豊受村大字長沼村に生る、同村の名家として累代里正たり、古くより蠶業を事とし明治の初年蠶種の海外輸出せらるゝや同業者と結社して盛な斯業の改良増殖を計れり之れ現下長沼社の創始あり、明治十二年の頃本邦蠶業衰退せるを憤慨し島村の田島彌平氏本邦蠶絲の海外に於ける聲價如何を視察し渡航し歐洲にあり伊佛に於ける改良及び蠶病艾除の方法等を詳報せらる、茲に於て改良を施さずんば其害毒の影響甚大なるを認め奮て改良を企て高價を拂て顕微鏡を購入し一蛾撰法を行ひ其無毒卵を飼育し成績良好なるを以て大に之を唱道鼓吹し愈々本社の名聲を舉げ全國の蠶業改良の先覺者を以て任するに至る

蠶種製造は大に進歩の功を爲せしも飼育法の尙慊焉たらざるものあり益々實驗研究を重ね一種の育法を案出せり所謂清温育之れなり然れども該社は之を浩然育と名け専ら普及を圖れり

次に桑の奈何は成繭の結果に及ぼす影響の大なるを認め幾多の試験を重ね適當の良種を撰出し長沼桑と稱して汎く之を當業者に頒つ時勢の進歩に依り現今秋蠶の飼育大に世に行はるゝに至る是又良種の必要を認め風穴種の製造に力め其の販路擴大に至りつゝあり要するに親戚たる同姓丈衛氏と共に此地方蠶業家の重鎮を以て其名噴々たり



小茂田藤橋氏肖像及邸宅全景

繭絲問屋 清水傳三郎君

君は利根郡沼田町清水忠兵衛氏の次男にして、安政六年を以て生る

明治十年分家して沼田町字坊新田に住し、爾來繭絲の賣買を業とし

各地方製絲會社の買繼きを爲し、年を逐ふて業務の盛大に赴くと共に

一依託會社設立の必要を認め、同志を糾合して明治三十三年繭絲の

依託賣買及乾燥を目的とせる丸信依託株式會社を組織し、躬ら社長

となり、茲に十年の星霜を閲し、其間幾多の艱苦に遭遇せしも機敏

なる君は、毎に克く機宜を制し銳意業務の發展を圖りし爲め、大に

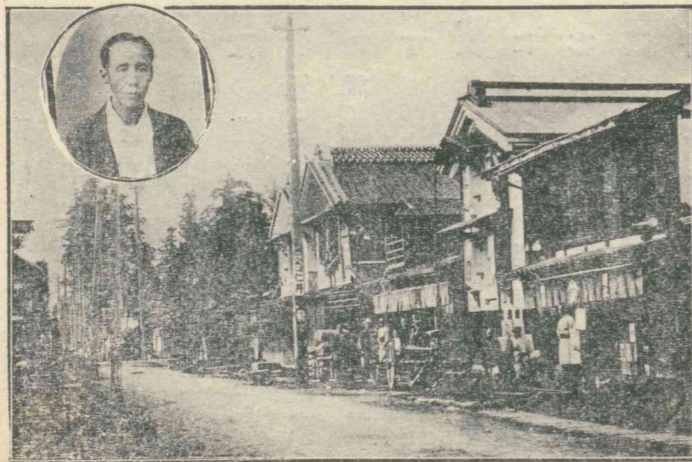
斯界の信用を博し今日の盛況を呈するに至れり、君は亦外に個人として

紙油砂糖米穀肥料等の販賣業を營み、是れ亦頗る繁昌せり、君

は亦公共事業の爲め盡瘁する所尠からず、或は學務委員として、

或は區長として、用意周到事々膺り、現に町會議員として殆ど二十

年の久しき町政に參與し、郷黨の重望を荷へ居れり



清水傳三郎氏肖像及舖店全景

養蠶家 木暮角次郎君

木暮角次郎君肖像

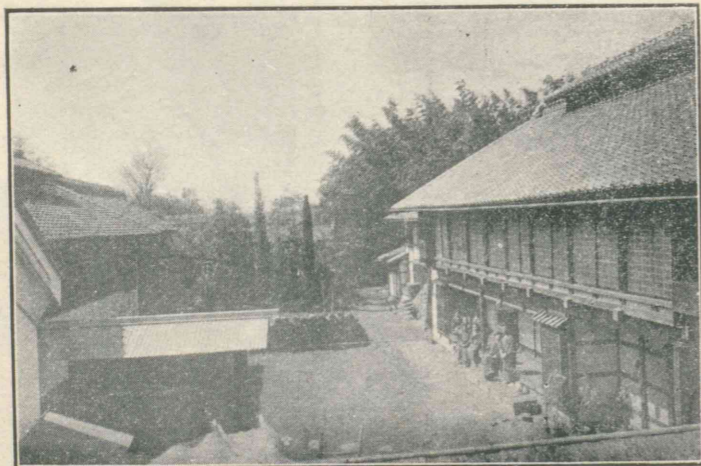


君は勢多郡南橋村大字上細井村に住す、明治二年四月に生る祖先より農蠶を業とし君其の業を継ぎ最も熱心な稼穡を努む嘗て高山社に入り育蠶の濫奥を究め明治廿年の頃内務省勸業寮佐々木長淳來りて蠶業上の講話を爲すや之を聞て大に感奮する所あり、斯道の改良を奔走せり、又蠶種の製造を創め専ら之を遠近に頒つ、君の製造に係るものは春は亦昔、風穴は國富なり、君が自家の養蠶結果大に良好なるを喜び嘗て口吟みたる一句あり

おのづから

蠶種家 塚田源十郎君

君は万延元年群馬郡國府村大字東國分村に生る祖先を長次郎と云ひ蠶業を業とし嘉永年間より蠶種を製造す、現今製造に係る分は春蠶又昔、白姫、白玉、風穴は國一、飛白、白鶴、白玉等にして何れも普通製、框製とす、販路は本縣、茨城、八丈嶋、北越等とす、君曩より率先して村内に群馬桑蠶改良社と稱する組合を組織し後ち解散して現今は蠶業同盟組合に變更す、嘗て博覽會、共進會、品評會等より出品して受賞すること前後五回なり、君の蠶種を供給するや團體よりは努めて割引の方法を採り居れり



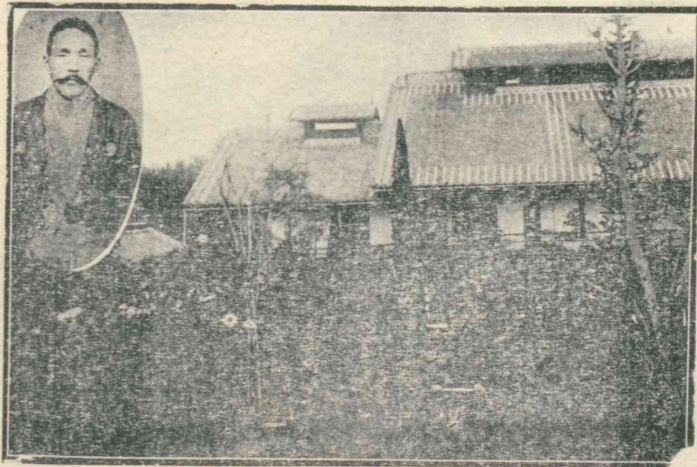
塚田源十郎氏邸宅全景

五十嵐榮三郎君

君は佐波郡豊受村大字上蓮中村に生る少年より學を好み小學を出で、明治十三年舊伊勢崎藩士新井雀里翁の門に入り漢籍を修め明治十六年東京に遊學する事二年、十八年郷里に歸り専ら蠶業に従事す、此年外國に蠶種の競争者出て我國地方蠶種輸出の途頓に頓挫を來たし爾來蠶業界の不振を呈せり氏は大に憤慨し蠶業は國家事業の大事にして忽諸に附すべからざる事を覺り地方有志者を勧誘し蠶業眞摯組合を設け爾來益々改良飼育法を研究し大に其發達を謀り爲めに組合員も亦増加せり

明治廿年組合員熟議を以て更に同志を糾合し益進社と改稱す同年社員職金を以て養蠶傳習所を新設し該擔當人撰拔せられ同廿六年まで同所教授を擔任し養成生徒百有餘人を出せり明治卅四年より本縣蠶種検査員に任命せられ同卅六年まで勤績

明治卅九年郡の輿望を擔ふて郡會議員に當選し四十年再選せり同年十二月大日本蠶種會群馬支部佐波委員部委員を囑托せらるる明治四十三年前橋稅務所郡部所得調査委員に當選したり



五十嵐榮三郎氏肖像及邸宅全景

蠶種家 茂木谷五郎君

君は文久元年を以て群馬郡金島村大字南牧村に生る、氏の家は舊家として又豪農たり祖先より蠶業を事とす氏常に謂ひらく養蠶家の多く失敗するは蠶種の不良あり如かず自ら理想の製造を試み之を普及せしめんよはと明治

廿三年より蠶種製造に着手し専心研究を重ね大に理想的蠶種を發賣し遠近其の成績の良好なるを慕ひ需用頼みに増加せり

又君は一面公共事務に膺り大に村治に貢献す町村制施行以來村會議員に擧げられ爾來當選を重ね現に其職にあり明治卅年自から率先して結社の必要を唱道し製糸家を糾合して碓氷社金嶋支部を設置せり、元來碓氷社は他に支部を設けざるの規定なるも氏の熱心なる畫策其の當を得て碓氷社重役も支部の設置を承認せざるを得ざるに至る支部成立するや支部長に

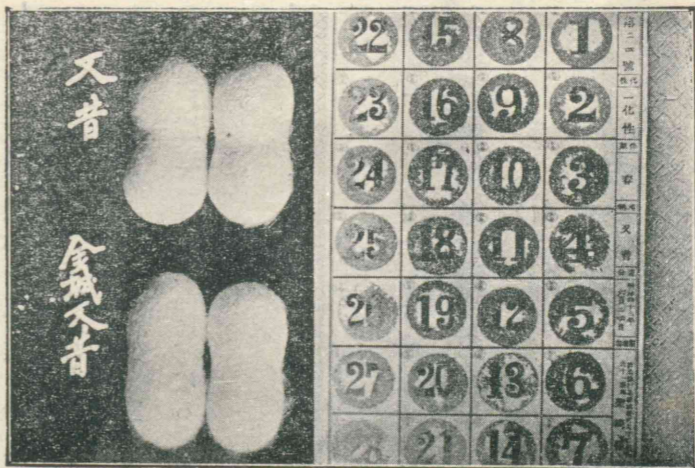
茂木谷五郎君肖像



擧げられ其の事業の發展に盡瘁たらざるはあし、四十三年信用組合を組織し其の牛耳を執る又郡の輿望を擔ふて郡會議員に當選し克く郡治に造詣する所多く尋て衆望の歸する所郡會副議長となり今尙は其の職にあり

蠶業家 柴崎種吉君

君は群馬郡國府村大字引間の人安政元年を以て其家に生る幼年より蠶業を好み専ら研究を積み頗る發展をなす、君又春蠶種又昔、金城又昔の蠶種を製造販賣す、嘗て第五回内國勸業博覽會へ蠶種及繭を出品して二等賞を、明治四十一年長野の共進會へ出品して三等賞を得たり、君の長男彦作氏又父の業を繼ぎ大に産業に勵精しつゝあり



柴崎種吉氏蠶種標本圖

繭糸業 原澤武一郎君

君は利根郡沼田町の士族倉内家に生れ原澤家を嗣ぐ、資性温厚にして寡言、幼より商業を好み十八才して繭糸商となり、主として沼田繭を前橋市場に出荷し、後ち千葉縣地方の繭糸をも盛んに買入せられ、同縣安房國の蠶繭の如きは、實に君と見城形作氏が前橋送りの嚆矢にてありし、而して君の商業は幾多の波瀾ありしは勿論なれ

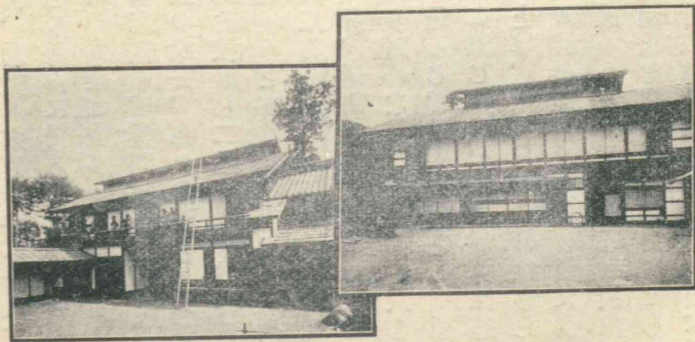


原澤武一郎君肖像

と、手腕愈々老熟し、業務益々擴張し、數多き沼田商人中、山五の武井、山キの原澤と並び稱せられて確か一頭地を抜きし二星たりき、著者偶々門を叩へて抱負を聴かんとすれば、君曰く、余は抱負とか主義とかの鹿爪らしきもの無し、唯だ武家に生れて商人となりし身、所謂士族の商法に終らざるを是れ力むの他何れの野心なし、又曰く、武も、商も、徳を尊び、義を重んじ、誠意を經とし、信義を緯とするの點と、時々應じ、機に乗じ、勇往邁進、果斷敢行を要する點とは、全く其間に軒輊あしと、あ、君の一語は實に君の性格を現表して又剩す處なし、明治四十年君感ありて、從來卸取り製絲を爲して下仁田社に組せしも廢めて、前橋市國領町に於て器械製糸業を營み、二男英治氏を以て専ら之を監せしめ君又萬般の事務を指揮し成績頗る見るべきものあり、長子新太郎氏は家居して月夜野銀行役員として信用實に重鼎を爲しつゝあり、君又年々數百貫の收繭を爲す、利根郡屈指の大養蠶家たり、年五十八歳の半白紳士、肖像は君の壯年撮影せしもの

蠶業家 塚田貞次郎君

君は群馬郡國府村大字東國分村の人本年三十
八歳あり父勝藏氏の代より蠶業に從事し明治
三十三年より蠶種を製造す現今蠶量八十匁を
掃立春秋蠶種は二千枚を製造して販路は遠近
に及ぶ其の種類は又昔、伊達錦、白姫、金城又昔、等
とし重し利根吾妻兩郡の外越後地方へ輸出す
君は村内消防部頭とあり又村治に對しては大
字衛生長とあり數年勤績せり
又曩には長野共進會へ蠶種を出品して三等銅
牌、名古屋共進會よりは四等賞状を受領し、郡農
會主催の品評會にては一等賞を受けたり



塚田貞次郎氏邸全景

高山勝太郎君肖像



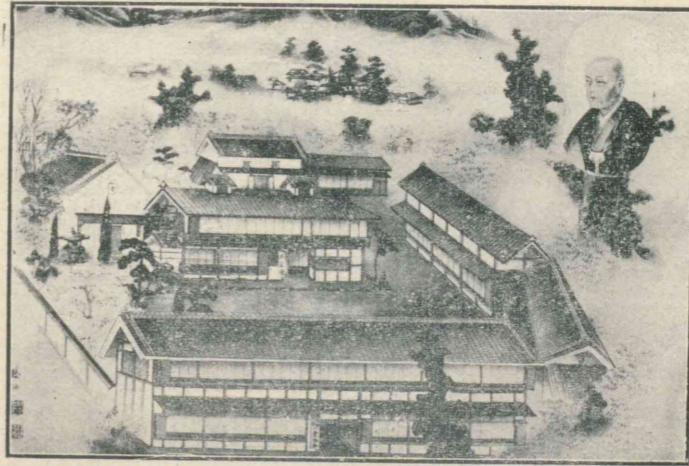
蠶業家 高山勝太郎君

君は多野郡美九里村大字高山村の人明治八年其家に
生る、祖先以來農蠶を業とし亡父幸次郎故高山長五
郎の門に入りて研究を重ね、全十七年撰まれて鑑査
役となり社業の發展清温育の普及に努めたりしが四
十年病魔に襲はれ遂に歿す、勝太郎氏は其遺業を嗣
ぎ明治廿九年高山社に入り卅一年卒業、卅三年同社
授業員とあり同年静岡、卅四年埼玉、卅五六年熊本
の各縣を跋渉し、次に卅七八の兩年岩手縣下閉伊郡
に、卅九四十の二ヶ年は愛媛縣の授業員となり、爾
來自宅に傳習所を設け専ら生徒を養成せり、傍ら亡
父の遺志を繼ぎ蠶種製造業に從事し年々數千枚を各
府縣に分譲す
明治四十年高山社第二回共進會に繭を出品し時の知
事より一等賞の金牌を授與せらる
明治四十一年長野市に於ける一府十縣聯合共進會に
於て出品繭に對し二等賞銀牌を授與せらる
君の製造に係る蠶種は又昔、青熟の二種にして其の
成績良好なれば需用者一年に増殖しつつあり

蠶種家 一倉九平君

君は嘉永三年四月を以て群馬縣古卷村大字有馬村に生る、家代々農桑を業とす君は箕箒を繼て専ら其業に従事す、明治六年より蠶種の世に需用高まるを察し其の製造に苦心を重ね村内有志と謀り共愛組なるものを組織し蠶業改善を努む傍ら蠶絲改善を付屢々講話會を開き斯道の智識を普及せり、隣村相馬村へ支所を置き蠶業に發展を期せり、氏は又昔、青熟、亦昔三種を第一とし其他數種の蠶種を製造す、框製二万三百八十四蛾、平製一千餘蛾を使用す其製種飼育上に容易なりとて需用遠近に普ねし

君は又公職を任じ村治上に貢献すること多し其の概要を記さんか明治十四年より十六年迄同大字の衛生委員兼用係を勤め、全十七年より十九年迄八木原外二ヶ村聯合用係を勤む、二十年村會議員に擧げられ、卅一年本縣蠶種検査所澁川詰を命せられ、卅二年九月郡長より同郡六郷農會品評會審査員を囑托せらる、卅五年十一月同郡農會品評會審査員となる、其他各所蠶業改良講話會に招聘せられ斯業の改善を裨益すること多く又蠶種及收繭を各地の品評會及共進會に出品して受賞する事算ふるに遑あらず氏の養蠶飼育法は一倉流として別に一派を立て此の流を汲む者近來特多し、現今郡會議員として又群馬縣蠶業聯合會議員として同僚を推重せられつゝあり



一倉九平君肖像及邸宅全景

玉繭商 大林善太郎君

君は滋賀縣甲賀郡高野村に生れ、父を佐左衛門と稱し世々農業を營む、而して君は其次男にて十一歳にして山田郡桐生町大林惣吉と謂ふ伯父の許に養子となりしが、當時養蠶の營業たりし雜貨商は不幸にも振はざりしが爲め君は桐生に至り幾くも無くして同町石井五右衛門と稱する織物買次商店に入り奉公を爲すととなり、爾來十年の間主家は忠勤すると實は一日の如くなりしに、同店



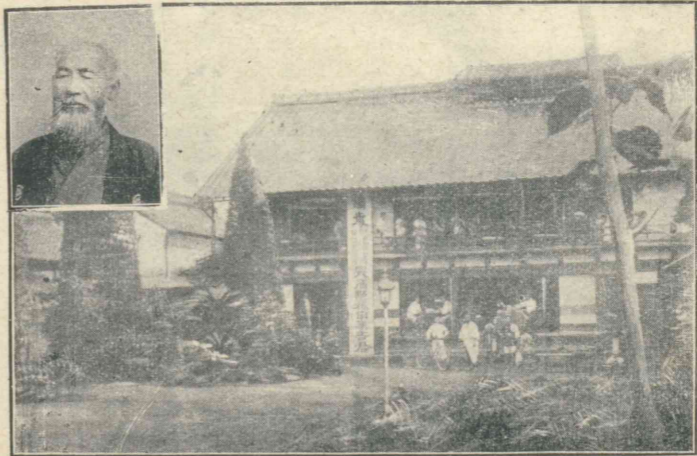
大林善太郎君肖像

又不幸にも會津戰爭のありし頃より家政俄か衰へ遂に倒産の悲境に陥りしより止を得ず同店を退きしが、更に四丁目の機業家として岩下才助方に入りて機業を研究し常に糸張りの業を擔當す、三年にして辭し養父の許に歸りしが、君、天性經師を好みし結果自から進んで、進堂榮助氏に就き斯道を修得す、明治十五年前橋市に大火ありしに際し經師職として來り、小柳町に住居を定む、時に前橋市場の繭絲取引の旺盛なるを見て大に感奮する所ありて、男子生れて僅か一職人として終るより寧ろ商界に投じて一浮一沈を決せんと、忽ちにして繭絲商人となり斯業を開始す、然れども不馴の業なれば失敗と困難は數々君の身を襲來す、君、堅忍力闘更屈せず、更は片野久太郎氏と共同して玉繭商を營み、後ち獨立して今日の成功を致せしは、蓋し君の實直にして勤勉、克く万難を排せしの結果に因らずんばあらず、店舗は前橋市佐久間町橋際、安政元年の生れ、一男、四女、長男峯太郎氏又専ら商務に當りて人望あり

益進社長 福田庫吉君

君は佐波郡豊受村大字國領の人天保七年十月を以て其家に生る祖先は新田義貞の顯臣大館左馬守源家の末裔として連綿同氏に至る往昔世々里正を勤む父を吉藏母を幾子と稱す父母男女四人を擧げ氏は其の長男なり資性潤達大度あり幼にして文學を好み長じて蠶業の爲め専ら發展を圖る諸國に遊説して至る所は斯業の講演會を開き又蠶種を製造して四方に配布し其一ヶ年の製造三千枚に及ぶ其の蠶種純良にして結果又優良なる爲め需用者頗る多し

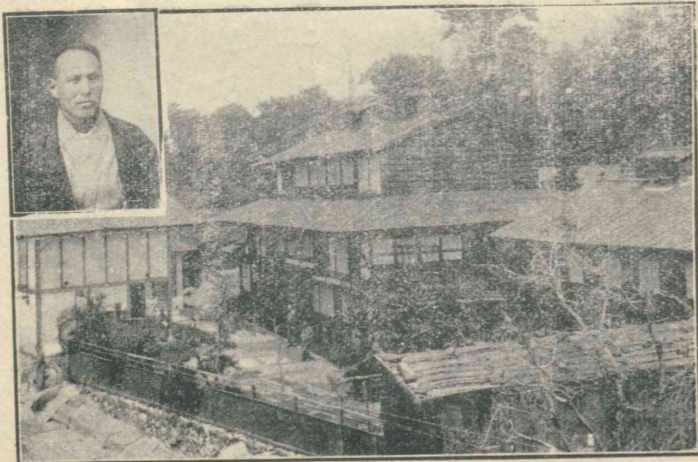
一君は明治十二年岩鼻縣の時戸長を勤め治績顯著たり此年大洪水あり人家の流失多し氏は大に之を憂ひ地勢を察し堤防改築を縣廳に申請し其保護を仰ぎて河身工事を起し翌年五月に至り竣工を告ぐ村民爲めに其の堵は安んず翌年戸長の職を辞し専ら蠶業の改良に努め飼育又舊法を棄て、清温育に改め熱心自ら其の衝を膺る自ら理想的飼育を社會に擴布せん第一着歩として傳習所を設け多くの生徒を教育せり氏は之を満足せず村内有志を糾合し明治十八年蠶業眞撰組を組織し其副組長に擧げられ爾來蠶業に關する新智識を得る毎之れが普及よ力めたり、二十年其組合を上毛蠶業益進社と改稱し其の社長となり老軀を提げて鞠躬盡力毫も怠らず、爲め益進社の名聲噴々たり翁の如きは全く蠶業界の爲め一身を犠牲に供したるもの其偉績永く没すべからざるなり



景全宅邸及像肖氏吉庫田福

蠶業家 劍持源吉君

氏は吾妻郡中之條町の養蠶家なり、祖先より累代の實業家として氏に至りて一層業務を擴張せり而して時勢は蠶種の需用増進の時機到達を洞見し明治十三年郡内未だ他は蠶種製造者なき時代より之を創始し盛に製造して他に販賣せり、又氏は秋蠶の發達を唱道し率先して東谷風穴を經營せり、又製糸業者を糾合して碓氷社中之條組を組織し製絲改良に盡瘁しつゝあり



景全宅邸及像肖氏吉源持劍

永井源吉君肖像



蠶業家 永井源吉君

君は勢多郡南橋村大字川原嶋の人
安政六年に生る幼年より農蠶を好
み父祖の業を継ぎ専ら之に従事す
蠶種製造は嘉永年間横濱開港以來
の事業として其の製法注意周到な
り現今の製造に係るものは亦昔角
又、其他試験種數種なり、頭腦明晰に
して思想細密地方に穀菽繭絲の品
評會ある時は必らず其の審査員に
擧らる、氏平素の時論は桑園の改善
蠶種の改良及び完全なる乾燥室の
設備にあり

小林幸藏君肖像



絲繭業 小林幸藏君

君は佐波郡境町の人元治元年正月
を以て生る、君の父は農桑を業とせ
しが君は之を好まず十五六歳の頃
より糸繭賣買に従事し克く商機を
悟る、又君は尾嶋、境の兩銀行に出資
し兼て其の重役たりし事あり君は
町内に徳望あり五七年前より區長
に當選し又昨四十二年より佐波郡
新田繭絲組長に擧げらる君は一女
を擧げ之に配せし養嗣子又繭糸賣
買に従事すると云ふ

蠶業家 大井菊松君

大井菊松君肖像



君は群馬郡惣社町大字植野村の人明治四年九月に生る幼より學を好み明治十五年三月小學校を好成绩を以て卒業し同年六月より隣村清里村大字青梨子村湯淺文吾氏に就き漢籍を修む、祖先より農蠶を業とし君之を繼承するや頗る勵精す、又育蠶法の研究の必要を覺り明治四十年福嶋郡伊達郡山戸村山戸組に遊びて大に研鑽の功を積み之を家蠶に實施して大に好結果を得たり、又蠶種を製造して之を販賣す、君が至誠以て製造する蠶種は結果良好なる爲め其名聲遠近に聞ゆ、君の現下の大問題たる蠶種統一は大に賛成を表せり、君は生産組合の組織成るや組合長理事を推され、又有限責任信用販賣組合碓氷社惣社組長たり

明治廿八年顯微鏡使用法を研究し益々蠶病消毒の實行に努め、卅一年碓氷社惣社組の副組長に擧げられ卅七年同組長とある同年碓氷社商議員に選まる、四十年町會議員に當選し大に村治を幫助せり

蠶種家 高山武十郎君

高山武十郎君肖像



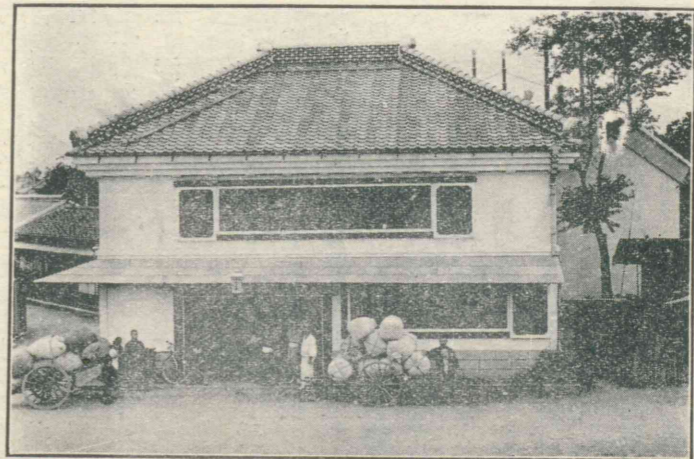
君は万延元年八月生れ多野郡美九里村大字高山村なる彼の蠶業の淵藪を以て有名なる高山社は同氏の養父長五郎氏の創設せる所、氏は同家養嗣子となるや、父の傍らありて清温育の蘊奥を究む、爾來繭品評會、共進會の審査員となる數回明治十六年矢場村外四ヶ村の聯合村會議員となる、全年高山社授業員として各町村を巡回教授す、翌十七年高山社副社長に擧げられ、十八年本縣及び埼玉縣に渉る授業員派遣地二十五ヶ所の巡回監督をなす

明治十九年佐々木長淳氏より顯微鏡を譲り受け時の副社長町田菊次郎氏と共に上武に渉る社員原蠶種病毒検査をなす、同年十一月社長高山長五郎病に罹り又起つ能はざるを知るや町田菊次郎氏を後任に遺言して逝く是に於て現社長を輔佐し社業の發展を圖る明治二十年三月先考の遺志に依り現社長と協議し本社事務所及び傳習所を藤岡町に設立す、明治二十二年佛國巴里萬國博覽會に於て出品繭の褒賞を受く明治廿五年三月賞勳局より養父長五郎追賞として金、東京、神奈川縣等に巡回し清温育法の講話をなす、明治三十三年高山社蠶業學校基本金壹千圓を寄附す、明治三十四年新潟縣中蒲原郡の招聘に應じ蠶業講話をなす、全三十六年第五回内國博覽會に蠶種を出品して一等賞牌を受く、其他公共事業學校等に金品を寄贈して受賞する事數回、各地の共進會品評會へ出品受賞又枚擧に違あらず、君が父の遺業を繼ぎ明治二十年より四十三年までに自家に於て卒業生を出す八百四十五人の多きに至る

繭糸問屋 關東商會

昔しは堂々たる前橋の繭糸市場運び去り搬び来る荷物の集散日、幾千戸々店頭人を以て填められ、算器の響き、拍手の音、喧々、囂々、朝より夜も徹し、眞に前橋の花と誇りし繁華の巷も移れば渝る世の習ひ、破壊の魔神は容赦なく其斧鉞を揮ひて家は毀たれ草は生ひ、秋風落葉市人をして坐るに長恨悲愁の感も堪へざらしむ、此の寂寥の一街角に宏壯なる白壁の建築廣大なる店舗を構へ、世の變遷を外に見て其商業の繁盛なる人々して僅か昔の光景を偲ばしむるもの之を關東商會あり

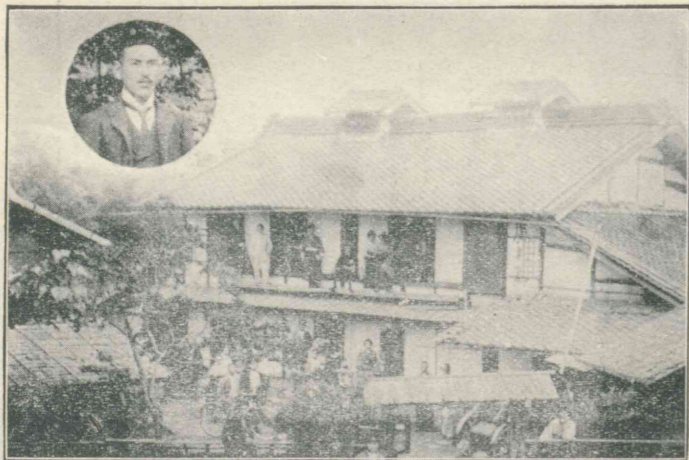
とす抑關東商會は加藤兼次郎君の經營に係り、明治二十九年茨城縣宍戸の人和田喜七氏と共同して始て之を組織し、三十六年大和田氏の退くや爾來君の管する所たり、君は下総國香取郡金泉村の人明治十二年を以て前橋に移住し繭糸業を營みしが、當時各地より繭糸の賣買を目的として前橋に來るもの其適從する所を知らず、往々意外の失敗を招くを見て君は頗る之を遺憾とし、始めて依託問屋なるものを興として大に營業者の便益を計れりといふ、其後業務は益々擴張し四十年春今の店舗を新築し大乾燥場を造り、諸般の設備の完全なるは大に君の誇りとする所なり君本年五十二歳眞に老成の實業家なり



關東商會店舖全景

蠶業家 清水恒太郎君

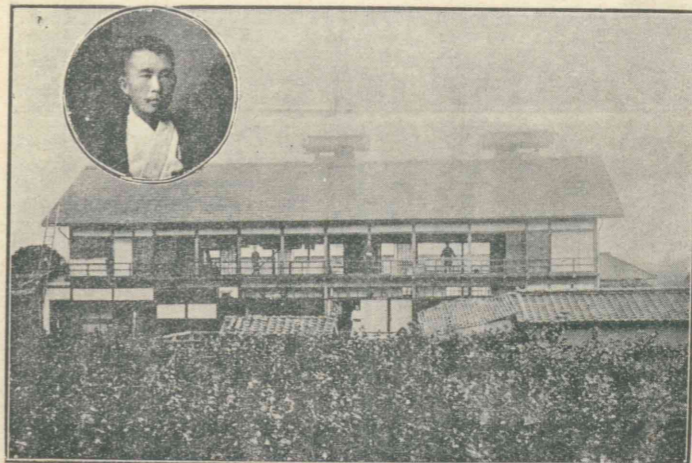
氏は多野郡平井村大字鮎川村の人青年時代東都に遊學し歸郷の後ち高山社傳習所に入り養蠶飼育法を研究し同社授業員として各地を跋渉すること七ヶ年に及ぶ、蠶種検査法の發布せらるるや其任命を受け、三十八年蠶病豫防法の發布あるや豫防吏員に任命せらる、氏は家は祖先より蠶業を營み明治二十年より蠶種の製造を創始せり春蠶は又昔、青熟、の二種を専らとし之れは大巢、中巢、小巢の三種あり、自宅は高山社分教場を設け後進を薰陶せり、其他蠶業教師として四方に派出し斯道開發に資すること多く君は本年三十六歳として前途多望の身將來の發展又知るべきのみ



清水恒太郎氏肖像及邸宅全景

蠶種家 葦塚卯三郎君

君は甘樂郡新屋村大字白倉の産、落合松五郎氏の四男、代々農業を營む、君、資性明敏よして着實、志想堅固にして謙讓、幼より蠶桑を好み、三十四年葦塚家の養子とある、爾來故佐藤國太郎氏の創業せる甘樂養蠶傳習所を經營し、大に斯業の研究を積み、今や君の製産に係る春秋蠶種は年々歳々遞増を爲すも、尙且つ購求者の満足する供給を爲す克はざる有様にして、其信用實よ驚くべし、加之、君は極めて寡言にして決して自己を誇るが如き事無く、蠶種の賣込上に於ても亦單よ自然に委する風ありて、名を求めず、利を逐はず、真に敬服すべき態度なり、君又諸種の器械發明に熱心にして、母蛾整理器、煖爐等の發明を爲し既に特許を得たるありて、實よ蠶業界よ貢獻する所大なる人あり明治丁二年の生れ、前途多望の人と謂ふべし、居宅は富岡町よして同驛より僅かに五町、目下製産の春蠶種は又昔、金城又、青熟、鬼縮にして、二化性は中巢、日本錦等なり



葦塚卯三郎氏肖像及邸宅全景

繭絲業 武井新一郎君

君は明治十年を以て利根郡利南村に生る、父兼吉氏は縣下屈指の繭絲商よして、其稱号の山五は斯界の東西よ鳴る、古來明君の子に暗主多く英雄の後よ弱嗣饒しといへるにも拘はらず、君天性穎敏、豪邁不羈、加ふるに商才に富み、曾て數々父君をして驚嘆せしめし事ありしといふ、君父祖の業を繼承してより、才略縱横益々業務の發展を圖り、繭絲業者としては實よ利根郡の重鎮たり、君感ありて、繭絲賣買の傍ら製絲業を企て、躬ら地を利根郡沼田町字倉内よトし、蒸氣機關五十人取器械製糸所を起し、下仁田社に加盟し新盛組と稱し、是が組長となれり、君の如きは商業家として、亦工業家を攝ねたる眞の實業家として、前途亦有望ありと謂つべし



武井新一郎氏店舖全景

蠶業家 町田龜市君



町田龜市君肖像

君は明治十五年三月を以て呱呱の聲を多野郡美九里村字本郷に擧ぐ、幼より學を好み、居村の小學校を卒業し、高山社養蠶傳習所に入り、別科を卒業し、三十三年縣立前橋中學多野分校に入り、後東都に遊學して、日本中學校を卒へ、早稻田の門に出入し、一意學業を以て身を立てんと謀りしも、會々令兄三郎氏日露戰役の出征に會し、止むを得ず、歸省して家事を視、専ら蠶種の製造、養蠶の改良に就て、苦心研鑽を積み、三十八年三月、高崎十五聯隊補充大隊に入營し、除隊後三十九年より四十二年迄、高山社長町田菊次郎氏の宅に於て、生徒を養成し、注意周到授業懇切を極むるより、常に衆生徒の尊敬する所たり、亦毎に外出勝ちある町田氏をして、内顧の患ひなからしむるは、實に君の處置薰陶、宜しきを得たるに由る、四十三年五月、原富岡製糸所養蠶教師改良部監督巡廻員を囑託せられ、各地を巡遊して至る所歡迎せられたりと云ふ、以て君か人となりを知るに足らん、

製絲業 須田玉吉君

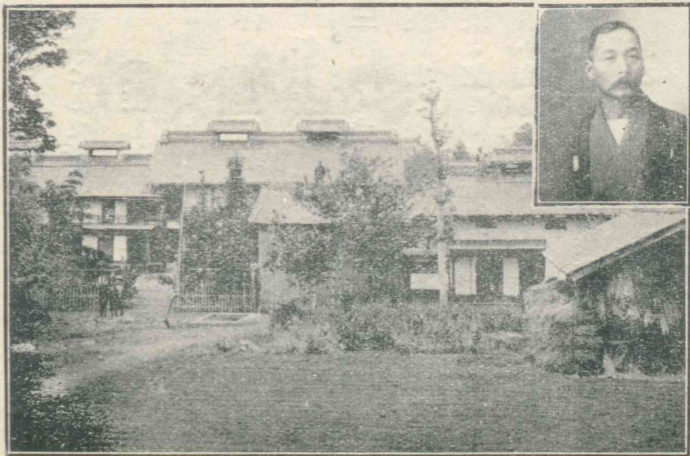


須田玉吉君肖像

君は新潟縣北魚沼郡小千谷町の人、壯年にして雄圖を抱き工業家として世に立たんと企て、明治十三年前橋向町に移住し初めて製絲業を營む、當時微々たる事業に過ぎざりしが君が勤勉と努力とは其施設の宜きに伴ひ業務は著しく發展し年々長足の進歩を爲し、四十年春新たに蒸汽機關五十人取の工場を設立し未だ三年ならずして一躍百十二人に増加し、今や前橋の製絲家中個人經營として其數に於ては實に一二の上班に位せり、是れ蓋し君が非凡の伎倆に依ると雖も亦令弟淺井金次郎氏が用意周到能く内外の事に膺り、誠心以て君を輔佐するの功與つて大い力ありと云はざるべからず、兄弟相和し能く其業を勵む眞に一段の美事と謂つべし、君本年五十二歳元氣益々旺盛なり

蠶業家 山口清兵衛君

君は多野郡小野村大字中栗須村の人年齒四十八、祖先より蠶業を營み順清館と稱して養蠶製種の業を傳ふること五世、前館長清平氏は明治以前世は未だ斯業に對し理論の如何を識らざる頃より養蠶書類の蒐集と氣象が如何に蠶兒に影響するかを辨知し氣象知識の探求とに苦心を重ね本館一流の飼育法を擴布せり、其後佐々木長淳氏が順氣育を發表するに及び現館長清兵衛氏を其門に入らしむ、前館長は明治八年同志と謀り綠野組を起して斯業の改善發達を計畫し同年熊谷縣令より蠶種検査役を命ぜらる、同十四年綠野組を綠野明業會社と改稱するに方り其社長を舉げられ、前後十餘年間開港場に往來して社員の爲め蠶絲業貿易の衝を膺りしが同二十年に至り佐々木長淳氏を推戴して順氣育を普及せしめんと會社の幹部を率ゐて順氣社を成立せしめたり現館主清兵衛氏は先考の業を繼承して二十一年は順氣社教部長に就任し、二十四年群馬縣蠶種検査を囑托せられ勤續九ヶ年、二十八年順氣社副社長に舉げられ勤續十四年要するに氏の後半生は順氣社の爲め犠牲となりしと云ふも過言はあらざるべく、其他半面は碓氷社小野組副組長に舉げられ明治卅六年多野郡會議員に當選し同年副議長に選ばれる、三十七年郡參事會員に進めり四十一年多野郡桑園品評會、四十二年順氣社繭蠶種共進會等に何れも審査部長に選ばれる



山口清兵衛氏肖像及蠶室全景

蠶種家 關口嘉衛門君

君は佐波郡島村の人本年二十八歳なる前途多望の身なり其先を嘉兵と云ひ十八歳の時蠶種業に従事す、文久元年の頃既に現在の蠶室を造り一意専心蠶業の發達を圖る、又多忙の身を以て奥州に到り良種を携へ歸國して之を飼



關口嘉衛門君肖像

育し以て一般當業者に頒つ又蠶蛆の大害ありて蠶種製造上に一大災厄あるや挺身研究して之れが豫防の方法を立つ以て慘憺たる蠶種製造より來れる需用供給兩者の大恐慌を和げ海外輸出不足の憂ひ無からしめたり、爾來十年間一命を賭して毎年奥州に到り一万枚内外の良種を求め來りて以て遠近に配布せり、年漸く老ひて山谷の跋涉に適せざるに及び附近の蠶業發展に努力し殆んど終生斯業の燈明臺となり羅針盤となり造詣する所極めて多く鏗鏘として老餘を送

り居りしが明治四十一年三月八十七歳まで歿せり、嘉衛門氏は其の長男にして克く父の遺志を繼ぎ又蠶種製造に従事せり現今製造種は、春蠶は白龍、青熟、改良又昔、金城又昔、風穴秋蠶種、白鶴、國富、の數種なり其の蠶兒は頑健にして飼育容易なりとて需用者年々に増加しつゝあり、氏の居宅は東は境町東武線一里、南は武州本庄町院綿へ一里半として交通便利なりと云ふべし

蠶業家 加茂下小六君

加茂下小六君肖像



君は明治十一年を以て多野郡上野村に生る普通小學の業を卒へ明治三十三年高山社蠶業傳習所に入り蠶業上の智識を習得し卒業後關東關西、東北、北越、四國九州等蠶業教師として殆んど跋渉せざるの地なし四十二年蠶種統一問題起るや劈頭第一之に贊し原富岡製絲所にて其の實施方法の第一着歩として無代配種を爲すに方り其の囑托を受け飼育巡回監督員として各地に出張せり、君は斯業に熱心にして現に高山蠶業學校に教鞭を執り居れり君の前途は遠遠其發展又計り知るべからざるものあり幸に健在なれ

玉糸製造業 北澤仁作君

君は安政四年を以て勢多郡富士見村字時澤村に生る、天性穎敏、壯年にして、農業の側ら一の業を起さんと企て、是れが考案中、會々青柳の人、塚田某なる者、平常繭糸商を以て、縣下の機業地を巡遊し、大間々町に至り

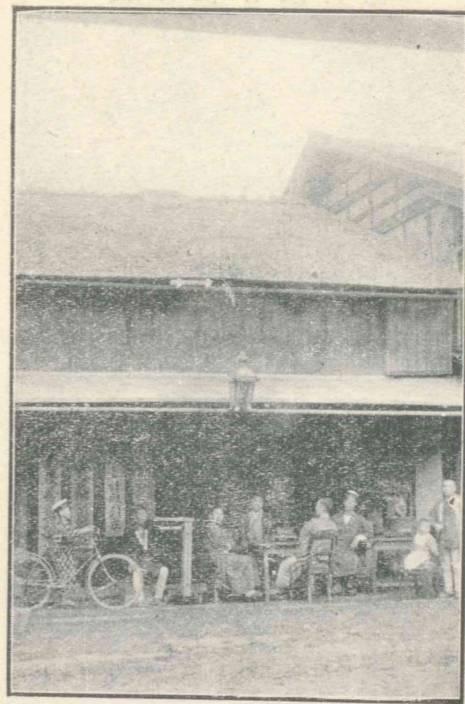
北澤仁作君肖像



し途次、一把の太玉糸を持ち歸り、之を君に示し、頻り前途の有望なるを説くや、君大に感ずる所あり、將來玉糸製造を以て、自己の素志を貫かんとを期し、直に之に従事したるは、實に明治十二年なりき、當時業は頗る幼稚にして、其製絲の括り法の如きも、今日は稀に見る彼の大間々鬘斗の一つ結びなるものに装ひて、少數の製絲を試みしに過ぎざりしが、焉ぞ知らん、君か多年の苦心研鑽と、奮勵努力との結果は、今日(馬上の少年金星を握む)の商標を貼付したる長牛造りとなり、到る所の市場に於て、歓迎を受け、機業家の愛用を買ふに至らんとは、君は資金豊饒にして原料の支那玉繭を直接横濱より購入する如きは、他に多く見ざる所、又往年、前橋監獄署の工場に託して、輸出羽二重を製造して販賣せし事あり、君亦公共の事盡瘁し、學務委員區長たるを數次、村會議員たるを十一、郷黨の信望を荷ひ、現に前橋繭絲同業組合の四部長たり、

繭絲家 金井佐市君

金井佐市君邸宅全景



君は文久三年を以て生る、利根郡利南村大字横塚村の豪農金井五左衛門氏の次男として、出でて縁家なる金井久兵衛氏の養子たり、君は少年の時より早く既に立脚地点を産業界と定め、店舗を沼田町上ノ町に開き、繭絲業に従事して嶄然頭角を顯せり、由來利根郡地方は蠶業の隆なるため、沼田町は繭絲の集散地としては、縣下有數の市場たり、而も地は利根郡の北南に位し、四面山岳を以て回繞し、人馬の交通物資の運搬等其不便言ふべからざるなり、卓見なる君は夙く茲に着目し、明治二十八年乾燥場を設置し、超へて三十年運送業を開始し、大に一般に便宜を與へしを以て、君か名聲は一時に斯界に喧傳するに至れり、此の如く鋭敏達識の君は克く衆庶の信望を買ひ、三十三年繭市場株式會社の成るや、推されて社長となり、尋て町會議員となり、公共の爲め盡せし事も尠からず、現に利根繭糸同業組合の組長たり、君も亦偉丈夫あるか。

蠶業家 伊藤政次君

伊藤政次君肖像



氏は群馬郡元惣社村の人伊藤金七氏の實弟なり年齢三十三歳前途又多望なり、氏の家は世々農蠶を業とす氏は學業卒へて父祖の業を繼ぐや率先農蠶の改良を唱道し大に村内斯業に貢獻する所あり氏又時勢に鑑み村内に青年會を起して青年の氣風矯正に努め其の徳望頗る高し、又蠶種の製造に従事す、春蠶種は又昔よして風穴種は白鶴なり

福田唯七君肖像



蠶業家 福田唯七君

氏は群馬郡惣社町の人年齢三十七歳なり、先考の時代即明治三年より蠶種製造業を創む氏の代に代り至誠以て之に従事するものから其信用頗る高し其蠶種は春蠶種一化性金城又昔、改良白玉の二種を製造す明治十四年十月上毛繭共進會の開催せらるゝや繭を出品して銀盃を受領せり其他斯種の會より出品して受賞せし事枚擧げ違あらずと云ふ

瀧上高四郎君肖像

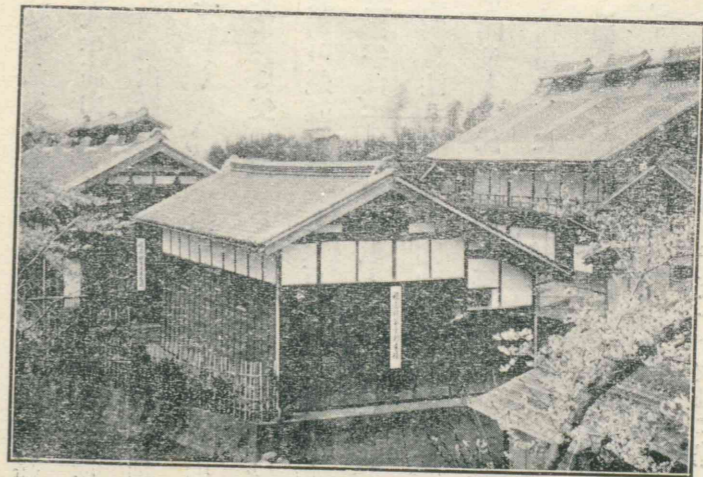


蠶業家 瀧上高四郎君

君は多野郡美九里村大字本郷に生る氏の父を嘉六と云ひ明治八年高山社に入り蠶業を研鑽を積む明治三十四年甲種高山社蠶業學校の設立せらるゝや別科分教場を設け多くの後進を指導したりしが三十七年病歿せり氏は直に父の遺業を継ぎ高山社監査員となり一層分教場の規模を擴大し數百の卒業生を出し是等の卒業生過半は本社の授業員となり各地に出張せり特に氏は飼育法に付空氣利用法を案出し大に斯界に一生面を開けり、氏の製造に係る蠶種は其結果良好なりとて需用者日に月に増殖しつゝあり、明治四十年十月高山社第二回共進會の開催せらるゝや其の審査員となり又同會へ出品せる蠶種及繭は各一等賞金牌を受領せり、其他此種の受賞一々枚擧げ違あらずも茲に省略せり

蠶業家 福島清八君

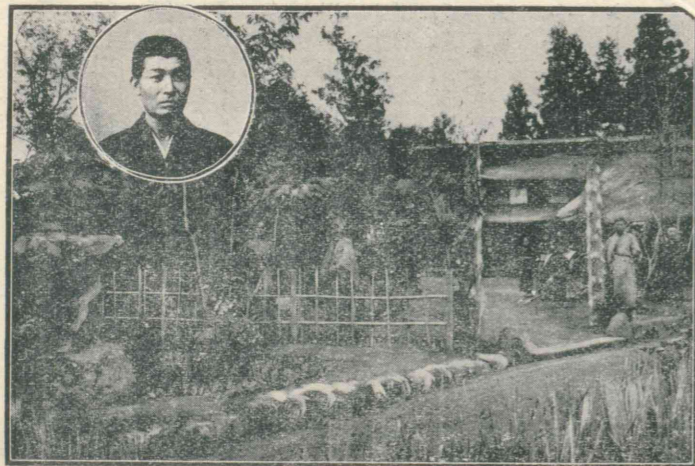
君は新田郡世良田村大字平塚村の八年齢本年六十歳あるも尙ほ鏗鏘として元氣人に過ぐ文久平間より蠶種の製造を創め大に斯業に研究を重ね、明治三十四年より秋蠶風穴種の製造に着手し専心之が改善に努め其の製種を各地に供給せしよ一として豊作を見ざるあし、故に年々需用者増加して各地方より歓迎せらる、特は碓氷、群馬、利根、吾妻、甘樂、の各郡に於て風穴種の中興の祖と稱せらる、又一時は世良田の風穴とまで稱せられ斯業界に其名顯著たりき、爲めに各地養蠶家より原種の譲渡を希望せられ本種の製造者を増すと共に自己の掃立蟻量を減じ病毒除却少費多穫の最良法として秋蠶種は全部を擧げて框製となして汎く需用に應せり、君の製造に係る蠶種は春蠶に於て金城又昔、白玉、亦昔、伊達錦、風穴種は大総、白鶴等の二種とす、氏の家は境町停車場を距る僅かに三十町交通便利なり同村は上武の國界たる阪東太郎の北岸に位し地質多く砂礫を交へ高燥にして廣潤ある桑園有り桑樹の繁茂地方無比と稱せらる是れ即ち蠶種製造の供養たり空氣の流通良く爲めは蛆害の如きは些か念頭を措かず又霜害の如きは他地方の激甚なる際も被害ありし事なし洵は天賦の寶庫地なりと云ふも豈は過言ならんや、君は此地にありて此業を爲す是又天與の幸福なりと云ふべし



景全室蠶及像肖氏八清嶋福

蠶業家 早田藤太夫君

君は勢多郡南橋村大字關根の八年齢五十一歳なり、君は群馬郡國府村大字北原加藤泰造氏の次男なりしが明治十七年早田家の養子となりて其家を繼ぐ養家元來大養蠶家にして又蠶種を製造す、四十年大日本蠶絲會より下野支會品評會に於て二等賞を受領せり、四十一年長野共進會に蠶種及繭を出品して三四等賞を受く、四十年七月群馬新聞募集の縣下養蠶家十傑投票に當選す、其の製造に係る蠶種は春蠶亦昔、風穴種は白玉、大白龍、亦昔等にして其販路頗る廣し



景全宅邸及像肖君夫太藤田早

玉糸製造業 内田才吉君

君は勢多郡南橋村大字上細井村の人、天性鋭敏にして夙く時世の進歩は長く農民として舊慣を墨守するを許さず、將來生存競争の場裡を馳驅するには必ずや農事の傍ら一の工業を起し以て自ら利し又世を益せざるべからず



内田才吉君肖像

を傲し、頻り苦心焦慮せしが恰も善し維新の際知人某氏奥羽戦争に参加して無事凱旋するの日、一束の奥州玉糸を携へ歸り、之を君に贈るや、慧眼なる君は奇貨以て措くべしと爲し直ちに之を摸倣して初めて玉糸製造業を開始したるは實に明二年ありき當時百般の事猶未開は屬し商工分業の端未だ啓けず原料の購入製絲の販賣其苦心は實に今人の想像の外ありしと云ふ、君は主として(本づく)と稱する女帯地の緯として亦(ふしなんぶ)の緯として自家の製絲を供給せしが、大に機業家の稱贊を博し販路年を趁ふて廣く君又熱心研鑽製糸の改良を圖り製産額も亦年々共に遞増し、斯くて四十年の星霜は幾多の波瀾起伏を繰り返し、今や前橋の玉糸を語るもの君の商標若松を知らざるものなく、又之を標準として採算せざる者はあしと云ふ、以て君が如何に斯業に於て成功せるかを知るに足らん、君本年六十歳朴訥眞摯實に斯界の成功者なり

繭絲業 片野久太郎君

齊しく是れ人にして倅しき職業に従事し均しき經營の下に等しき年月を閲し、幾多の人は失敗し蹉跎し困憊し然らざるも又甚だ振はざるの間ありて獨り超然として、群を抜き、業務は益々發展せられ資産は滋々増殖せられ能く重要な地歩を占め得たる者を實業界の雄物とあ

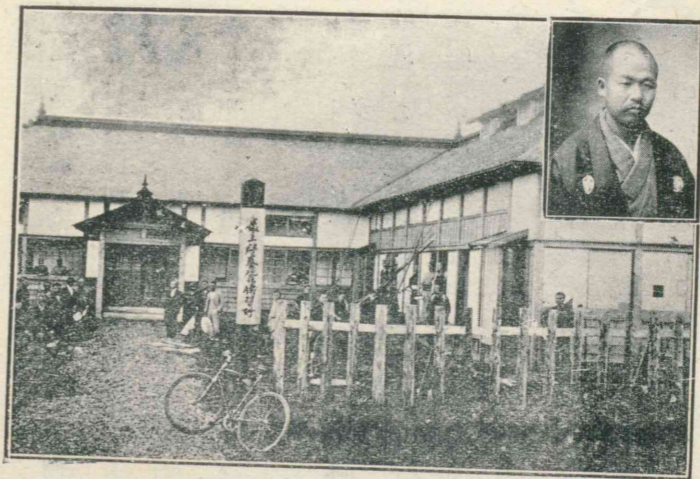


片野久太郎君肖像

し成功者なりとせば片野君の如きも蓋し其一人たらずんばあらず
君は神奈川縣足柄下郡下曾我別所の人、夙に壯圖を抱き白骨を埋むるの青山は獨り故園のみにあらずとなし、瓢然郷里を辞し前橋に移住せしは實に明治二十六年なりき、爾來繭絲商を營み孜々營々其業を勵精し大に諸人の信用を博し業務は益々擴張せられ、雄才大畧巧みに多年の起伏波瀾を操縦して數々奇利を占め、四十二年繭絲依托問屋を細ヶ澤町に開始し其資金の豊富なる營業の隆盛なる確か一方の驍將として同業者の畏敬する所たり、君本年四十四歳温厚篤實會々人の經歷談を聞かんとする者あるも謙遜して亦多くを語らず、然れとも其抱負の遠大ある他日必ずや一大飛躍を試むるの時機あらん

蠶業家 狩野逸平君

君は明治六年九月を以て勢多郡敷島村大字津久田村に生れ小學の門を出つるや直に親の業に従事し特に蠶桑の道は先天的嗜好する所にして熱心之に従ひしが養蠶の業たる地方未だ幼稚なれば早晚之が大改良時の來るべきを察し明治三十五年東京西ヶ原蠶業講習所に入り卅二年七月其業を卒へしも歸らず更に全所試験部に入り學理に實地は幾多の研鑽を重ね蘊奥を極めて歸郷す、爾來本縣を始め東京、山形、青森、愛媛の各府縣を歴遊し或は養蠶教師とあり或は蠶病豫防吏員となり多年の經驗を積みて郷里に歸り將來秋蠶の大に勃興すべき時勢を看破し三十九年より自宅に於て風穴秋蠶種の製造に従事する事となり、自己の理想的蠶室を建築し専ら秋蠶用の桑園を培ひ家號を西原館と稱して風穴蠶種を發賣せり、然れども個人事業よては其規模の小なるを以て有志を糾合して合資組織となし東谷風穴蠶種貯藏所を設立し大に其の完備を爲せり、種類は數十種の中より其成績の良好なるものを選抜して之を選定せしが最も優良なるは一化性五大洲二化性國一の二種が健全無毒なるを認め盛んに此二種を製造して販路は東北地方より關西に至るまで其の區域甚だ廣く毎々其の成績良好を以て稱せらる、同氏の家は前橋を北に距ること五里餘利根川沿岸ありて、車馬の交通は前橋澁川間に通するものに接近し僻遠の割合は便利なる所とす



景全宅邸及像肖氏平逸野狩

製糸業 早川權三郎君

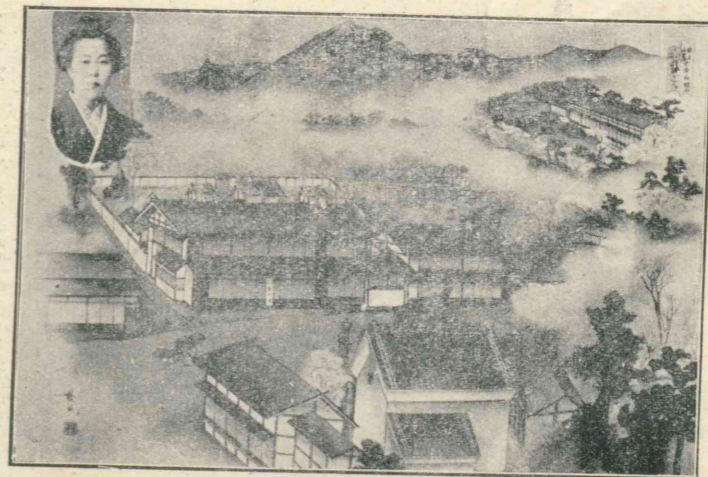
早川權三郎君肖像



君は新田郡新農村の人壯年にして夙く時世の推移に鑑み生絲貿易の前途が多々益々有望なるを認め奮然蹶起明治十七年を以て前橋に移住し自ら製糸業を營まんとを企てしが時恰も先興の衆潤社僵れて整理中に屬し君亦債權者の一人として之に參與し更に松本源五郎、星野長太郎、宮崎有敬、笹尾清憲等と謀りて新勢社を組織し社運隆盛を極めたるも廿四年商法の實施と共に解散し社業は殘餘の社員山崎某等より依りて繼承せられ君は陰に後援を與へられしが、三年にして瓦解の悲運に陥り同社は一時中絶せしが此間君は製糸改良に就て苦心研鑽を積み三十三年更に捲土重來の勢を以て獨力蒸氣機關五十人取の製糸工場を才川町に建設し新勢館を命名して華々しく業務を開始し翌年更に工場を増築し六十一人を増加して百十一人となし専ら國用向きの生絲を製出し縹子羽二重等の經絲用として其優良なるを常に需用者の稱讚する所たり曾て第三回内國勸業博覽會に出品して宮内省御買上の光榮を蒙り又同博覽會に出品して褒狀を授與せらるる業の爲めに盡瘁する所不尠眞に温厚篤實の人にして本年五十九才君の經歷は波瀾曲折頗る饒く取て以て他山の石となすべきもの許多あれども今茲に之を叙するの餘白なきを憾みとす

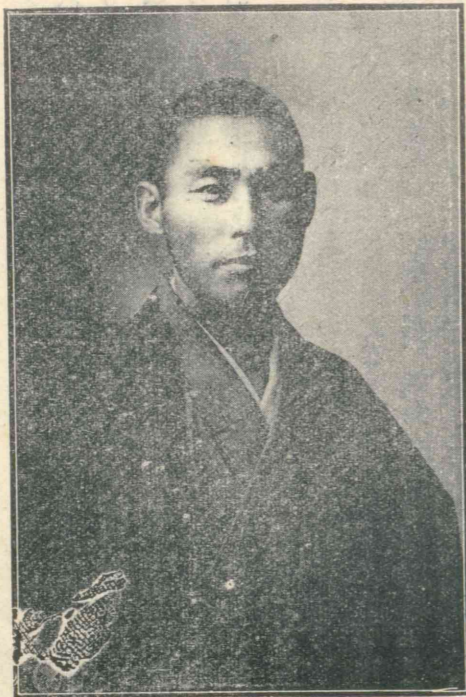
蠶業家 堀口ソウ子

子は女丈夫たり万緑叢中紅一點の觀ある婦人の名を此の冊子に掲ぐる或は未亡人ならんかとの疑を起すも決して左よあらず藤藏氏と云ふ歴々の夫あり藤藏氏は東京西ヶ原蠶業講習所を卒業し専ら技手として其筋を奉職せるもの、兎角外出勝ちにて家よあらず爲めに同家の蠶業は全く此の女傑の手よ待つもの多ければ茲よ蠶業家の斑を列して其の經歷及び肖像を掲ぐる事とせり、子の祖先五郎兵衛なる人は元祿十五年同町堀口家より分家し紺屋業を營み世々其業を繼承して今日に至る祖父藍園の時よ至り吉田友直の書を著はし躬から耒耜を執り農産の業を附近に勧奨す、澁川河原は即ち利根吾妻兩大河の湊合點ある土壤礪確の地よして桑園の栽培に適せり此桑にて飼育せし蠶は克く製種よ好適なり、子の家は此の給桑にして明治卅九年より蠶種を製造す、子は夫の不在に子女の教育に又農蠶よ指揮監督の衝よ膺り些か間然する所なしと又女丈夫よあらずして之を得んや特よ徳望普き儒者藍園先生の直統あれば名家として町民よ畏敬さる



堀口ソウ子肖像及邸宅全景

須川五作君肖像



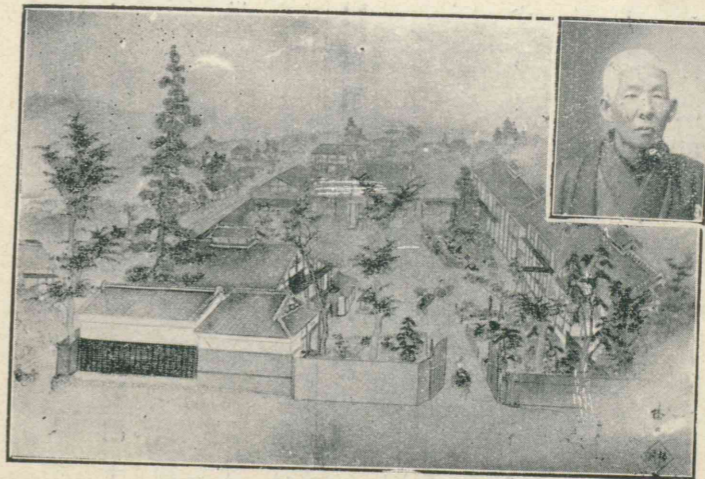
蠶業家 須川五作君

氏は勢多郡南橋村大字田口よ生れ年齒卅八歳頗る元氣の人明治十七年父存生の時より蠶種製造を始め氏は卅七年より父の遺業を繼ぐ種類は亦昔一種よして又他を顧みず亦昔は飼育容易解舒良好好絲質優美なるを以て製絲家一般の大に歡迎する所なるも憾むらくは成繭小粒よ偏するより之れが改良よ苦心を重ね當今漸く稍よ理想的よ近き成繭を得一升二百五十粒まで進歩せり特よ君は農事改良よ熱心にして克く村内の指導者となり裨益する所頗る多大なりと云ふ

蠶業家 山田鷺五郎君

氏は多野郡美土里村大字不動堂村の人嘉永五年十一月に生る(五十九年)祖先より養蠶及蠶種製造を業とす氏は初め佐々木長淳氏に從ひ實地及び學理を習得して卒業證書を受く、明治十九年農商務省蠶病試験所に就き研究を重ね、同二十年順氣社創立に付大に奔走する所あり結社の後同社の教授長に擧げられ勤続十ヶ年として辭し自宅に順氣育研究所を設け數多の生徒を養成せり二十四年に贊飼のちかみち一冊を著し、二十六年は秋蠶の飼育一冊、三十四年に秋蠶實業談一冊を編纂して何れも社友に頒つ、氏が心血を凝ぎ専ら製造せる蠶種は順氣育改善より成れる佐々木系の宮白種にして平附及び框製とも産出す其の製出に方つてや百蛾一枚の計算にして年額千五百枚前後を製す、而して明治六年に改良の功成りたる宮白種は同氏研究所に於て二十二年の第一回、三十三年は第二回を、四年は第三回の改善を工風せり、蠶種業に對する氏の意見は左の如し

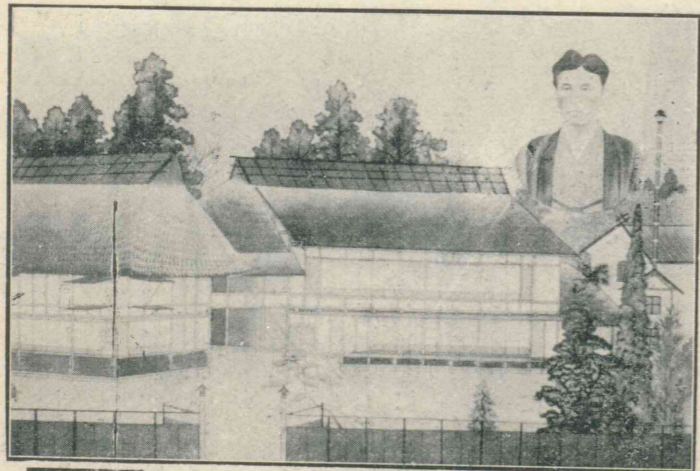
- 一、蠶種統一は大體に於て同意なり、蠶種官營も不可能あり、但し其の以前に全國現在の種類名稱、性質の善惡利害及び經濟上の得失に付き公平明晰なる批評的調査の實行と發表とを望む
- 二、共同製絲塲を各大字或は各村に有せしむべき保護獎勵法の發布を望む
- 三、専門的養蠶を排斥し農家の副業として養蠶を全國に普遍ならしめ度き私見なり、隨て桑園獎勵も現在の耕地を流用するを好まず新地植付を獎勵せしめられんことを當局者より希望す
- 四、一戸内に數種を混育する風習を成るべく根絶せられんことを期待す



山田鷺五郎氏肖像及邸宅全景

蠶種家 一倉儀平君

君は文久元年群馬郡古卷村大字有馬村に生る氏は壯年より蚕業の改良に志し種々の研鑽を重ね遂に飼育に付一倉流の一派を立つ其特長とする所は一般の蠶室は空氣の新陳代謝を謀らん爲め天井又は其他の穴及び窓あるに氏は決して之を爲さず其の理由は折角に火力を以て蠶室を暖むるものなるは空氣抜を開けんか暖氣逸出して火力の經濟上損失頗る多しとして却て天井は板を用ひて目張りを爲し暖氣の逸出を防ぐ、而して此の飼育法にて一大好成绩を表はし一倉流として遠近之を傳へ此法に據るもの多し、氏は養蠶傳習所を自宅に設け生徒を養成すること頗る多く卒業生を各所に派遣して自流の傳播に努め斯道開發の爲め裨益する所極めて多かりしが不幸二豎の冒す所となり四十二年六月不歸の客となる、氏死亡後は未亡人のくに子十五歳を頭よ七人の子女を引受け養育し外に八十歳以上の舅姑に事へて克く家事を治め些の缺點のなき女丈夫なりとす特に儀平氏故人となるや十五歳なる長男孝之助氏を指揮し多くの奴婢を使役して養蠶製種の事に従事して間然する所なしと云ふ、蠶種は春蠶又昔、改良又昔、白玉等の數種なるが品評會其他等へ出品して受賞する數回なりと云ふ



一倉儀平氏肖像及邸宅全景

蠶種家 田口長次郎君

氏は多野郡新町の人氏の父を六兵衛と稱し夙に意を養蠶に留め天保年間己に蠶種を製して世に頒ちしが當時未だ蠶業幼稚にして斯業の有利なる事さへ知るものなかりき六兵衛氏は深く之を憂ひ先づ養蠶思想の發展に努め或は農家に就きて其利を説き或は附近の村里に往來して其の有益なることを説けり、然るに飼育法の未熟なる失敗も終るもの多かりければ是即ち蠶種の不良より來るもの

田口長次郎君肖像



とし尙ほ互に研究すべく約して分れたるが之れを佐々木氏が蠶蛆發見の端緒にてありきと
長次郎氏は幼年より父を助けて養蠶に従事し又蠶種販賣に努め更に飼育法を一大改善を加へ製種又良好ければ製額二千枚以上に及び埼玉、栃木、千葉、茨城、静岡、岡山、諸縣に及び其の好評を博しつゝあり、氏は郡會議員、町長、助役となり町治に造詣する所極めて多し

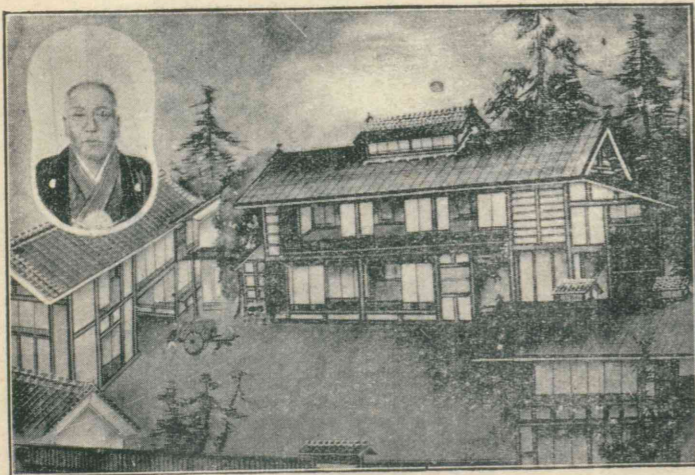
の其一因なるべし育法と良種と並び備はらば必ずや良果を得べきなりと爾來専ら蠶種に意志を傾注し自己の損失を顧みず研究を重ねれば或時は里人に嘲笑を買ひし事さへあり、其の効果空しからず遂に良種を製造することを得て其の名聲頓に高く上武兩州は云はずもがな遠くは横濱相州邊より續々注文し來るに至れり、其の後嶋村蠶業組合の成るや氏は舉げられて其の検査委員となり大に斯界に貢獻せり翁は早くより蠶害研究に心を砕き明治十年新町紡績所開業式に斯界の泰斗佐々木長淳の臨場あるや六兵衛氏は其の實驗に付質疑したるに佐々木氏も之を奇

蠶業家 松岡倉八君

君は群馬郡明治村大字北下の人嘉永四年に其家を生る君の家は代々名家たり、君は幼少より農蠶を好み自ら研究して發明する所多く之を村民に施して裨益を與ふ故に皆其徳を服して名聲噴々同大字にて殆んど神の如し、君は常に馬場重久(元祿年間の人)の傳記及び養蠶教育年鑑と云ふを愛讀し大に斯業上得る所あり大農、大養蠶家を以て土地の重鎮たり

明治十年附近人士の要求に依り蠶種製造の業を始む其の發賣の蠶種成績良好なるを以て販路大に擴まる君の専ら製造するは春蠶は又昔にして其他試験種數種あり各地の共進會品評會へ蠶種を出品して賞状を受領すること頗る多し

君は又一面村治に參與すること多く村制施行以來村會議員に當選する數回、又明治卅七年より三年間村役場助役を勤む、製絲確永社明治組の組織成るや組長又は副組長とあり其の發展に努む



松岡倉八氏肖像及邸宅全景

蠶業家 堀口嘉平君

君は明治六年多野郡平井村大字鮎川村の家に生る明治十八年四月祖父堀口瀧次郎高山社に入り清温育の方法を學び大に改良の實を擧げしが君も同社に學び二十八年四月撰ばれて同社授業員となり東北或は關西と蠶業の爲め東奔西走し、四十年より甲種高山社蠶業學校分教場とあし生徒を養成す、自己の大字蠶業組合を設けらるゝや推されて組合長となり組合事業發展に努む、君は現に青熟、又昔の蠶種を製造して之を遠近に配布しつゝあるも成績良好高評を博せり



堀口嘉平氏邸全景

製絲家 須田茂平治君

苟も容貌風采を以て其人を律すべくんば君の如きは遂に一個の野夫たるに過ぎず、單身孤劍異邦に帝王の尊榮を贏ち得たる偉人は果して如何なる風采なりしか、矮小猿面の豪傑が如何に我日本の歴史を飾る事よ、須田君の風貌や揚らず、然れども親しく君の經歷を採ね君の事業を見而して君の抱負を聞く者、誰か駭然として其豪膽と雄



須田茂平治君肖像

圖を稱せざる者あらんや君をして亂世にあらしめば蓋し一廉の英雄たるに庶幾からんか
君は慶應三年を以て勢多郡北橋村字八崎に生る、天性穎敏頗る放膽にして雄志を抱き明治二十七年單身前橋に來り材木商及び建築業に従事せしが、其工人を役して深山幽谷より木材を伐採し搬出するや時として君自身實に凡人の企及すべからざる危険を冒し數々生死の巷に往來して奇利を博せしとも不尠、三十七年前橋商業會議所議員に推選せられ翌年米國に渡航し親しく商工業の視察を遂げ大に得る所あり、歸來吾妻郡一木挽器械工場を設け大に業務を擴張し亦前橋市萱町に蒸氣機關二百人取の製糸工場を建設して製絲業を開始し、四十二年更に澁川町に同百人取を新設し直ちに横濱市場に出荷販賣を爲せり、君が苦心勵精製糸法を研究せし結果は其ライオンの商標が今日非常に聲價を博しつゝあるに依つて知り得べし、君亦公共の事盡瘁し、橋十五區々長たるに十年爲めに其賞として銀盃を贈らる、現に前橋市會議員たり君の經歷は頗る奇話珍談に富めるも一々之を叙する克はざるに遺憾とす

蠶種家 青木要吉君

青木要吉君肖像



君は勢多郡南橋村大字河原島新田の年五十歳なり沈黙寡言只實行の人也遠く祖先より蠶種を製造し之を遠近に配布す君の代に至り一層之を擴張し製造高二千枚に及ぶ種類は亦昔一種にして近くは流行の金城又昔をも製造す君は斯業に最も熱心にして毎々良繭良糸を得其の名聲遠近に聞ゆ特に斯業の改良に注意し屢々研究を重ね世の先輩を以て稱せらる君の家は前橋驛を距る一里弱の處あり且つ前橋澁川間の沿道に近く交通極めて便利あり

蠶種家 三木與四郎君

三木與四郎君肖像



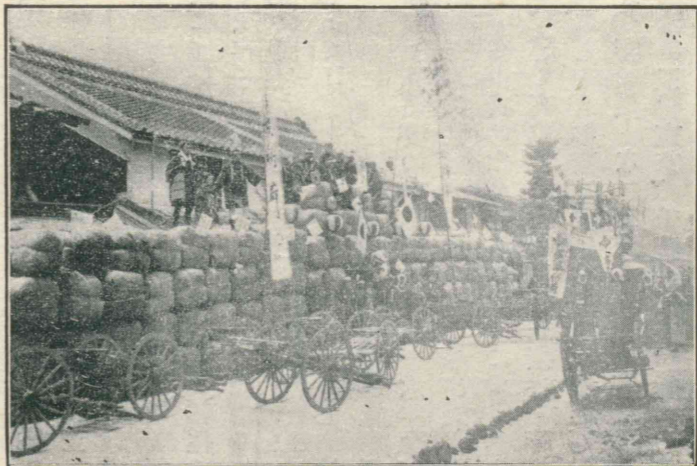
君は多野郡新町字河岸町に住す祖先は武田家遺臣にして最初武藏國賀美郡毘沙吐村に歸農し世々蠶業に従事せり居村は烏、神流二川の間より夾まり今を去ること五十有餘年即ち弘化年間の洪水にて全村擧て流亡するに至る、是

よ於て一村離散の慘狀を呈せり君惟らく上野國綠野郡新町字下河原は土地廣潤にして住居するに便なり宜しく茲に居を移すべしと乃ち率先之に移住す衆皆之に従て又移る今の河岸町之れなり、此地や他の産物を得るに由なく蠶桑を業とするより他に求むべきものなし依て蠶業を以て立んと大に決意し明治二年の頃より盛んに蠶種製造に着手せり、其成績良好なるより四方より需要の申込多く明治十六年全郡高山村故高山長五郎に就き清温育の法を學び大に得る所あり十七年高山氏高山社を設置するに方り其の世話役となる、尋で高山氏の説に従ひ三撰法を行ひ無毒蠶種を製造し十八年東京上野共進會に出品し木杯一

組に授けらる、爾來地方の招聘に應じて養蠶教師となり或は繭種品評會審査員となり斯道に貢獻す明治二十七年より自宅に蠶室を設け高山社分教場となり生徒を薰陶し之を本縣は勿論埼玉、東京、千葉、嚴手、静岡、兵庫、熊本等の各府縣へ派遣し本邦蠶業の爲め造詣する所多く、其の製造する蠶種は數種あれども氏の生命とする所のもの又昔なり之を各所に開催の品評會へ出品して賞牌を受くる數回、又蠶種検査員として其筋の任命を受けたる數回なり氏は嘉永五年三月の誕生あるも今尙鏗鏘たり

繭絲商 淺川忠太郎君

君は富岡町絲繭商として其名既古く家號を和泉屋と稱し明治元年より斯業を開店せり明治八年の頃より營業の範圍を擴め専ら熨斗絲其他の屑物を買入れ第一絹絲紡績株式會社原料の買繼をなし爾來會社の本社たる京都絹絲紡績株式會社の爲め原料買繼をなせり其の爲人沈着にして、商機を看ると頗ぶる機敏能く薄利を安じて懇切商務を執るを以て中外の信用益々厚く同地方の雄將として同業者の畏敬する所なり



淺川忠太郎氏店舖全景

玉絲製造業 今井庄平君

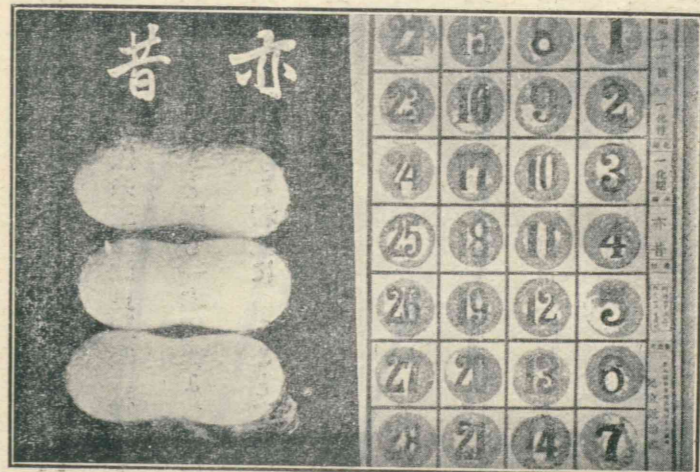
今井庄平君肖像



君は前橋市小柳町三十六番地に住す、明治五年の生れ明治二十七年より撚糸玉糸改良製造に従事す前橋市に多數の同業者ありと雖も一本撚絲にして伊勢崎織物の原料絲を精製する者他にあることなし君は原料繭を買入るゝを決して普通商人の手よりせず數名の仲買繭に資金を托し其地方々に於ける最良の玉繭を買入るゝを常とす是れ原料不良なれば良絲を得難ければなり、撚絲の商標は月及時鳥、太玉絲の商標は恵比壽なり、君は繭絲同業組合三部の成立するや部長に擧げられ又繭絲組合會議員たり、一面町内よりは推されて區長代理、衛生副組長となり其の信任頗る厚し

蠶業家 足立近次郎君

君は明治七年を以て群馬郡相馬村大字柏木澤清水仲次郎の家に生る君は二男たり明治廿年入つて現在の勢多郡南橋村大字關根の足立家を繼ぐ資性謹直よして村内の信用あり、常よ勤儉の美德を養ひ深く驕奢を戒む故に其の家産日に月よ進み村民の羨む所とある氏の養蠶飼育法は頗る他よ超越する所あり附近皆之れよ倣ひ頗る好結果を得つゝありと村公職に勸むる者あるも農蠶の疎ならんことを憂ひ固く之を辞して常に耒耜を採るを氏の最も愉快とする所なりと云ふ下圖は同氏の蠶種と收繭との形状を示したるものなり



足立近次郎氏蠶種標本圖

繭買屋 高間政次郎君

君は前橋立川町に住み三全商會と稱し専ら繭糸依託賣買に従事す、氏は新田郡敷塚本町に生る本姓椎名、市毎に同町より來橋する椎名真太郎氏は君の實兄あり普通小學卒業の後新田郡太田塾に漢籍を學ぶこと六年後ち小學

高間政次郎君肖像



校助教を勤む傍ら國學を修め大に皇典を涉獵せり、君の青年の當時は未だ兵役の何物たるを知らず爲めよ之を怖るゝ事蛇蝎の如し君も御多分よ洩れず徴兵免れの爲め尾島町の親戚志村磯五郎方の養嗣子とあり蠶業の傍ら繭糸賣買に従事し大に斯業の趣味を會得し明治十六年の頃より前橋市場に入せり尾島町に居ること八年よして離籍し二十八年前橋立川町高間兼吉方の養子となり二女と配せられ五十三番地に一戸を構ふ三十年五月同町の大火に類焼し家財全部を失ひり、二十九年より卅五年まで七年間三井の囑托を受け名古屋に生繭買入係として出張し三十六年より八年まで横濱原商店の買場たる宇都宮大崎商店に買入繭の鑑定人として傭はれ隨時出張したり、三十七年、町田、椎名の二人と合資して甲辰商會なるものを組織し繭糸賣買に従事せしが時の不可なるものありて三十九年よ解散し夫れより三全商會と稱し單獨にて斯業を營み居れり斯業よ老熟せる進退駈引他の遠く及ばざる所斯界の先輩として繭市場に割據し盛んよ賣買よ従ひつゝあり

蠶業家 成川信平君

君は元治元年佐波郡宮郷村大字田中村七番地に生る明治十九年高山社に入り専ら蠶業飼育の蘊奥を究む、廿一年東京西ヶ原蠶病試験場聴講生となる、廿二年福井縣大飯郡立養蠶傳習所の教授となる二十三年千葉縣長柄植生二



成川信平君肖像

郡の養蠶巡廻員となる、二十四年静岡縣駿東郡の巡廻教師をなす、二十五年福井縣遠敷郡養蠶傳習所教授に招聘さる、二十六年如上に再勤せり、二十七年より九年まで三ヶ年兵庫縣朝來郡養蠶傳習所の教授となり、三十年より二年間熊本縣阿蘇郡養蠶傳習所教授をなす、三十二年より二年間熊本縣下益城郡養蠶傳習所に教授たり、三十四年より四十二年の夏まで十ヶ年間岩手縣下閉伊郡養蠶傳習所の教授担任、四十三年原富岡製絲所改良部監督巡廻員となる君は

蠶業家 福島藏之助君

君は元治元年一月十二日を以て惣社町大字高井村に生る爲人資性温厚にして克く人に親む、明治十三年普通小學を卒へ後ち元惣社淳風學校、清里村森安陽等の諸門、出入し和漢の學數理の蘊奥を極む業を卒へて直ちに箕裘の業を繼ぎ専ら蠶桑を勞む、爾來飼蠶製種の改良並に地方蠶業の發達を圖るを以て自ら任じ大に研鑽を積み明治廿



福島藏之助君肖像

三年蠶業改良の目的を以て汎く同志を糾合し相提撕して上毛精繭社を清里村に起し、二十五年其の居村なる高井村に養蠶傳習所を設け専ら生徒を養成せり二十八年二月蠶病豫防法を研究し有志と共に惣社町顯微鏡使用法研究会を起し地方の同業者をして之に關する智識を開拓せしめ、明治廿八年四月群馬縣蠶種検査員養成所に入り出て本縣蠶種検査員に任命せられ勤続九年大に其の功績を收む、三十年蠶種の改良を目的として群馬縣蠶業合資會社を組織し推されて其社長となり、翌三十一年奔走して惣社町碓氷社支部を設置し惣社組と稱し其役員を擧げらる、三十八年大日本蠶絲會に加盟し、翌年群馬縣蠶業同盟組合副社長に撰舉せられ現に之を勤む同年蠶種組合聯合會の開かる、や其評議員に擧げらる、四十二年有志と機械製絲を始め、君は斯く蠶業に勵精の傍ら農事改良農村の經濟に付大に研究を重ね、一面には耕地整理の有益を説き率先して其の指導の任に膺れり

君は二十八年五月町會議員となり爾來數回の改選を経たるも尙依然として其職に在り、三十六年九月郡の輿望を擔ふて郡會議員となり、四十三年推されて村長に就任し現に其の職にあり

蠶業家 柄澤 最吉 君

柄澤最吉君肖像



氏は碓氷郡八幡村大字八幡村の人、明治十二年に生る學業を了へて明治廿七年より父祖の業を繼ぎ蠶業に従事し三十二年より蠶種製造に着手せり、氏は常ニ謂ふ事業は誠實の二字を守らるにありと以て氏の爲人を知るニ難からず、氏は三十三年三月歩兵補充教育として近衛歩兵第二聯隊に召集さる、明治三十六年二月群馬縣農會開催の蠶病消毒法講習會ニ入會し其の蘊奥を究む、明治三十七年二月日露戰役に召集され各地に轉戰大に功績を齎らして三十年十二月凱旋し爾來其家ニあり専ら農蠶に従事しつゝあり氏の家は安中驛を距る僅かよ一里交通極めて便なり

製絲家 鈴木 小十郎 君

鈴木小十郎君肖像



君は前橋市一毛町に住す精絲交水社の西隣に白壁巍峨たる門戸は即ち君の邸なり、君は弘化二年九月市内國領高須家に生る父を安右衛門と云ひ松平家の臣下たり三十三年間精絲交水社の社長たりし泉平氏は君の實兄なり、明治五年出て現在の家たる故鈴木昌作氏の養嗣子となる、昌作氏又松平家の藩士にして廢藩置縣後同志と製絲に従事し明治の初年松平家資を供して領内の百姓及び士族の製絲を一手に販賣する爲め横濱開港の當時家號を敷島屋と稱して店舗を開き昌作氏は其の總支配人たり、明治十四年五十五歳を以て病歿し支配人を失ひし敷島屋は間もなく閉店の運命に接せり小十郎氏は養父の遺業を繼ぎ製絲の釜掛をなし一面には明治十年士族共同の精絲交水社の組織ニ參し取締役となり四十二年まで累任し兄泉平氏を輔けて克く社務の發展を圖れり、四十二年六月交水社の組織を信用販賣組合ニ變更すると同時に高須氏高齡の故を以て退隱するや理事長ニ推され現任す、要するニ實兄高須氏と同じく殆んど専心一息後半生を擧げて製絲界に貢獻せるものと云ふべく、君一面は前橋製糸同業組合評議員となり、又四十三年五月より前橋商業會議所常議員たり、君は夫妻間一男哲雄氏(本年十七歳)を擧げ妻はすゞ良嫁を以てし近く一孫を儲け家運益々長久を示せり

木村農夫吉君

木村農夫吉君肖像



君は前橋向町に住す弘化二年三月東京芝區二本榎に生る實父は松平大和守の藩士として穂積丹曹と云ひ君は其の二男なり文久二年其の親戚たる同藩士木村撰介三十六歳より臨終の際入て養嗣子となる、明治元年前橋に移轉し來り最初士族屋敷たる御貸屋に居りしが明治三年向町なる現在の場所にて邸宅を構へり明治九年同町頭取(今の區長)に就任し其の後區長の制を設けらるゝや明治廿四年まで之を勤め、翌廿五年より前橋市收入役となり三十六年助役を當選し任期滿了辭職して専ら交水社の事業に従事す君は廿三年より提絲製造に着手し地遣に販賣し卅一年四月より交水社株主となり同時に監査役に當選す、爾來同社の重役として四十二年六月に至る、此月交水社の組織を信用販賣組合に變更するや常務理事に推され現に其職にあり、君は四十年より居町の區長となり勤績今日に至り區民の安寧を圖りつゝあり、君は一男三女を擧げ嫡嗣子は本年十六歳あるも長女に迎婚(縣屬)して一時の安を偷まんとせしが世人君を閑地に置かず鏗鏘孜孜として公私の用務を辨じつゝあり

平田健太郎君

平田健太郎君肖像



氏は前橋市才川町の人慶應元年に生る資性温厚にして寡言、幼より學を好み明治廿二年慶應義塾を卒業し廿七年聘されて京都三井銀行に牙籌を執る事二年ありしが家事の繁劇は氏をして長く外遊を許さす三十年歸家して父祖の業を繼ぐ、家世々糸繭賣買に従事す氏は謙徳よし

て容易に出づるを欲せざりしが三十二年前橋商業會議所議員に擧げられ又前橋商業銀行の頭取に推さる明治三十六年輿望を擔ふて市會議員に當選し三十九年名譽職市參事會員に擧られ現に其の職にあり克く市の財政料理に當る氏は沈黙寡言の人なるも事より意見を表白する時は克く利害得失を探究して徐ろに口を開く其の言ふ所一々肯綮に中る、故に人之を畏敬して措かず、氏は公職を勤むるの間玉絲製糸改良及び熨斗絲改良に盡瘁され又四十三年一月熨斗絲乾燥場を邸内に新設して自から其の經營に膺り地方同品の輸出を盛ならしむ本年の春前橋市長の改選あるや市長に擬せられ推獎最も努めたるも謙讓の君は先輩ありとて肯んせず遂に江原氏の就任を見しが未來の市長は又君あるべきか氏は又一面には風俗頹廢世道人心の愈々澆季を趨くを憂ひ風教矯正の爲め市内の志士と通俗講話會を開きつゝあり春秋に富めるの君は前途又多望なりと謂つべし

岡部傳平君肖像



製糸家 岡部傳平君

君は前橋市向町に住居し嘉永元年六月を以て生る、
明治の初年より製糸業に従事し多年の経験に富めり
最初提絲を製し後座繰製糸を爲せしが座繰製絲は
時勢に不適合なるを看破し信州其他の製絲業を至細
に視察し來りて應用斟酌し工場を新設して明治廿八
年五月より器械取製絲を始む是れ前橋に於ける器械
製絲の鼻祖とす、久しく交水社の協議員たりしが交
水社は四十二年六月組織變更して有限責任信用販賣
組合となるや理事に當選して現任せり君は事物に當
り親切丁寧克く町民の便宜を圖る爲めは伍長、區長
委員等に就任すること枚擧げ遑あらず性快活にして
且つ元氣あり人と談する長時間に渉るも人を嫌厭せ
しむることなき特性を有す、蓋し同町内一方の人物
を以て指を屈せらる

角田久吉君肖像



製糸家 角田久吉君

君は前橋市本町に住す父雛吉氏は
絲繭商なりしが君の代に至り製糸
を始む嘗て精絲交水社に加盟し久
しく同社協議員たり、明治四十年六
月諏訪町の人梅澤惠三郎、本町の人
小山秋次郎氏等と協同して製糸丸
交組を組織し専ら改良製糸業に従
事す、明治四十二年六月交水社組織
を變更して有限責任信用販賣組合
となるや推されて理事に當選し重
任して現に其の職にあり、君は子福
者にして四男三女を擧げ皆成長し
て各自其業に就きつゝあり

製糸家 梅澤惠三郎君

梅澤惠三郎君肖像



君は明治七年諏訪町に生る、父直藏の時代より製糸の業に従事し明治三十七年五十七歳を以て父の歿するや専ら其業を繼承して益々業務を擴張せり、君は縣立尋常中學校三學年を修業して後ち直に實業に就けり、資性温厚篤實にして克く人に交はる、嘗て青年矯風の趣旨を以て友人田村作太郎等と諏訪町青年會を組織し其の幹部となつて大に盡瘁する所あり、又衆望の歸する所四十年より同町區長に擧げられ現之を勤續す、同年角田久吉、小山秋次郎の二氏と協同事業たる製糸丸交組を興し交水社構内に工場を設け工女二百人を以て専ら改良製糸に従事しつゝあり明治四十二年交水社の組織を變更して有限責任信用販賣組合とするや理事に當選せり

製糸家 田村作太郎君

田村作太郎君肖像



君は前橋市諏訪町の人明治九年に其家より生る父を新三郎と云ひ明治の初年より製糸に従事し居たるが三十八年七月五十九歳を以て病歿せり、君は幼年より學を好み高等小學校を卒へ尋で縣立中學校に入り好成绩を以て卒業するや直ちに父の業を助け専ら製糸業に従事せり、父歿するや一層奮勵し四十年東京西ヶ原蠶業講習所より製糸に關する短期講習あるを好機として大に得る所あり之を實地に應用して理想的製糸を試みんと從來座繰製糸なりしを四十年春より機械製糸に改め五十釜を据付け優良工女を選び遺憾なく其設備を爲せり、四十年六月友人梅澤惠三郎、角田久吉、小山村次郎等が丸交組を組織するより方り加盟の勧誘を受けしも理想的製糸を爲すは獨立の有利あるを思念し之れに加入せず製出絲は依然交水社に持寄せ協同販賣の方法を探れり、三十九年六月より三ヶ年間交水社の協議員たりしが四十二年六月交水社は組織を變更し

て有限責任信用販賣組合とあるや同社監事と擧げらる

君は頭腦明晰にして又辯論に能くす町内青年が日に月々懦弱の風に流るゝを慨し率先唱道して青年會を組織し講話を開き青年の氣風矯正を主とし傍ら辯論を養ふ、爲め其德望頗る厚し、四十三年市會議員の半数改選に際し與望を擔ふて當選し現に其職あり又實業青年俱樂部を組織して其牛耳を執る、君は春秋に富み現狀維持に甘んずる人にあらず市民皆大に其前途の發展を望み囑し居れり

繭絲商 見城形作君

君は利根郡沼山の産父を見城倉吉と謂ひ代々農業を營む、君は實に其一人息子にして、文久三年を以て生る、一粒種の君固より家を相繼して此事を勵むべく父を命せらるるも、性極めて商業を好み、拾六歳にして繭絲業を開



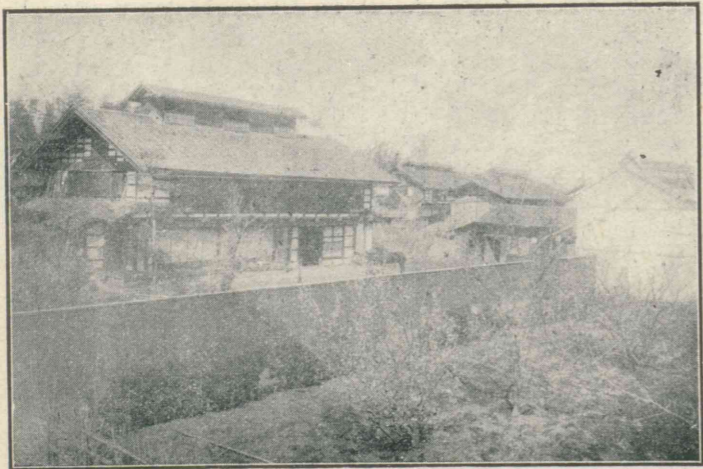
見城形作君肖像

し選ばれて之が組長となり、悪習慣の矯正に力むる所あり、翌三十二年繭糸問屋業を開始したり、君、性最も義氣に富み、義の爲め、情の爲めは時に或は水火を避けざるの概あり、回顧二十有餘年の君が經歷は、實に千難と戦ひ、万艱と争へし活歴史なり、然り而して君は確かに前橋繭糸問屋の鼻祖として、最も古參の最も元氣男として東西に知らる、明治四十二年舊來の商店と東洋商會とを合併して、君其全般を支配す

始し、爾來四年にして自から地の利を得んとて高崎市に轉居す、是れ明治拾七年にして君の恰も貳拾歳の時なりき、爾來生地沼田方面より繭糸の仕入を爲し、之を前橋、高崎に於て販賣すると實に拾ヶ年、其の間千葉縣房州に聘せられて養蠶教師となると二蠶期、安房半島の蠶業を開發せし功績益し大なり、明治二十七年更に前橋市立川町に轉居し繭絲仲買業を營むと依然たり、同貳拾九年製絲業に志し精絲交水社員となり、斯業に従事すると五ヶ年、擧げられて同社の協議員となりて大に斯業の改良を呼號したりき、明治參拾壹年繭糸市場の商風益々狡猾な流れ、不正商人の跋扈甚しきを慨して繭絲組合を組織

蠶業家 住谷孝三郎君

君は明治六年を以て群馬郡國府村大字國分村現村長住谷友太氏方に生る友太氏は君の實兄なり出て、住谷長次郎氏の養子とあり卅一年分家して克く業務に従ひ又蠶種製造を業とす特に蠶業改良に熱心として斯道の爲め奔走至らざるはなし氏の製造に係る蠶種は又昔、白玉白姫、風穴種は白姫、白鶴其他數種にして飼育の結果良好なるを以て其の販路頗る廣し、就中白姫種は如何なる飼育の未熟者にても容易にして山間又は濕地にて飼育するも必らず良果を收むるを以て需用者年々増加すと云ふ



住谷孝三郎氏蠶室全景

藤岡町 笠原重太郎君

君は多野郡藤岡町の人祖先は信濃國佐久郡志賀の城主笠原新三郎吉重の後裔なり、天文元年より吉重居、上野國甘樂郡一ノ宮町に移り住す吉重愛藏する所の緋威の鎧一着同町貫前神社へ奉納せしが今尙物として同社にあり

笠原重太郎君肖像



吉重より十八代目を笠原源兵衛と云ひ其の二男安兵衛は弘化元年に縁野郡藤岡町釜屋七兵衛の養嗣子となる、七兵衛氏は明和元年より生繭商を始め上州信州より専ら買入れて武州の小川町附近へ賣却す、重太郎氏は即ち安兵衛の長男にして明治元年二十歳の時其の家督を嗣ぐ此時は維新の際として人心動搖し中には祖先の遺業を棄て、東西に奔走し人は只浮華懶惰に陥らんとするの際君は雖乎不拔の精神を以て之れは惑はず克く蠶業を勵精せり、現今製絲を製造して販賣しつゝあり其の販路は京都北越地方を始め近くは桐生、足利、前橋地方等なり

氏は常に信用を以て世に立んことを熱衷し口を開けば即ち營業上の信用を得んことを説き誠心誠意以て蠶入者に蠶種を供給して収益を得せしむる、からず彼の偽善的手段を以て得たる信用は恰も砂上の樓閣を築くが如し只至誠以て信用を得んか富貴、權門、名譽などは自然と身邊に蟬集し來るべしと以て氏が平素如何なる行爲の人あるかを察するに難からざるなり

蠶業家 樺澤友松君

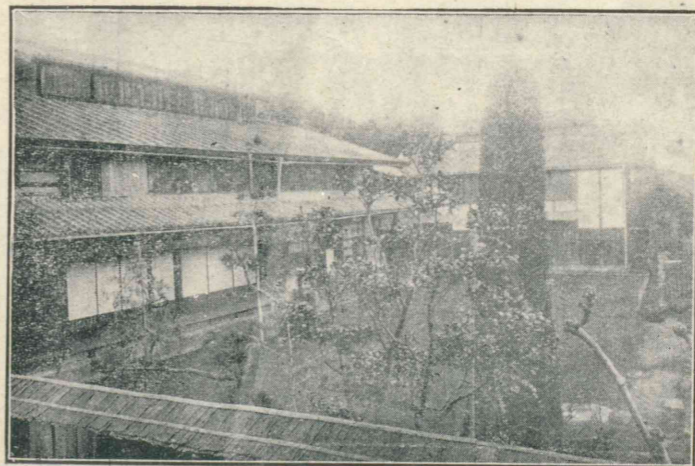
樺澤友松君肖像



君は勢多郡富士見村大字石井村の人嘉永四年三月に生る氏の家は世々蠶業を事とす明治十四年山林を購求して開墾し理想的桑園を栽培す、全三十三年蠶種貯藏庫を新築し之が貯藏法を完全ならしむ、三十九年には蠶室を改造して蠶業の改善を企圖し幾ばくならずして良繭良種を得るに至れり、君の製造せる蠶種は春は亦昔、青熟、秋は亦昔、白龍等とす明治廿二年地方有志者と謀り石井組なるもの組織し大に蠶業の發達を圖る是れ皆君の率先唱道する所なり故に村民皆之を徳とし敬慕して措かずと云ふ、君は蠶業石井組幹事富士見製絲合資會社副社長、石井乾燥場組合理事、扶桑會々長、學務委員、區長、村會議員等の肩書を有したるの人以て如何に多方面に信用厚さを察するに足る

蠶業家 住谷友太君

君は元治元年群馬郡國府村大字東國分村に生る父を彌次平と云ひ町村制施行以來村會議員となり、本年推されて村長とある、祖先は今より九十年前に於て進歩せる育蠶を爲せること府老の口碑は詳なり、十數年前より蠶種、白玉、又昔を製造して専ら配布に努む、各地に開設せる品評會及共進會に繭及蠶種を出品して受賞すること數回なり



住谷友太氏蠶室全景

蠶業家 岩田岩次郎君

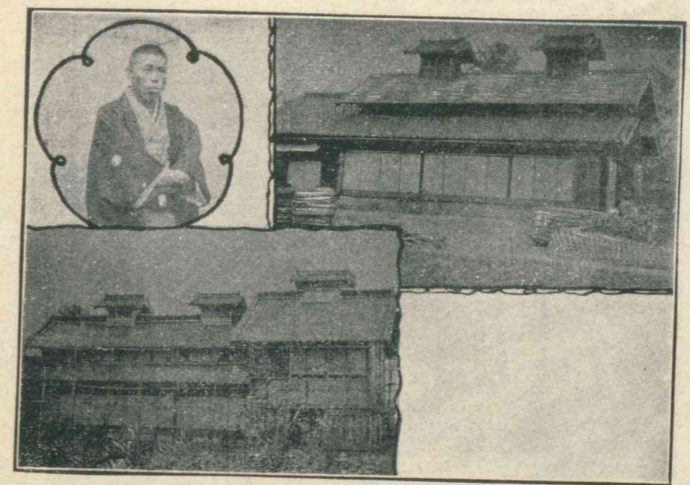
君は勢多郡桂萱村大字上沖之郷の人、本年四十歳なり性温順にして信用頗る高く數年前より大字區長を勤めて今日に至る、君は明治廿年より春蠶種亦昔、青熟、風穴種は大白龍、五大洲を製造す其の良好にして無毒なる需用者日に月増加するの勢ひにして、之を品評會共進會等より出品して賞を受くる數回なり



岩田岩次郎氏蠶室全景

蠶業家 新島茂三郎君

氏は新田郡尾島町大字堀口村の八年齒三十九春秋に富めり、氏は幼より蠶業を好み明治二十八年競進社に入り養蠶飼育法の蘊奥を究む三十五年有志と謀りて碓氷社尾島組を組織し専心製絲の改善に努む、氏も又蠶種白玉、又昔を製造して配布するの傍ら長野縣下の秋蠶種取次をも爲す、氏は事に當り熱心にして且つ親切なれば其の信用頗る高し



新島茂三郎氏肖像及蠶室全景

繭糸業 小田平六君

君は前橋の人、享保年間より數代連綿なる舊家なり、父祖の業を繼承して、繭糸業を營み、明治十八年中、若尾逸十氏の爲め、提絲の大買次きをなしたるは、今尙世人の、記憶に存する所なり、先是、君は熨斗糸賣買の前途有望なるを認め、盛之に從事し、明治十二年、



小田平六君肖像

熨斗糸組合の成るや、選ばれて副組長となり、大に熨斗糸の改良を計り、數々當業者の困苦を救ひ、諸人の畏敬する所たり、其後横濱貿易商會のため、熨斗糸の買次きを爲し、明治六年、有名なる阿部彦、山田某等か合同して、熨斗糸の大買收を行ひ、佛國に直輸を企つるや、君聘せられて検査役となり横濱に出張して、英名を揚ぐ、明治十八年より、京都第一絹糸紡績會社の爲めに、買次きを開始し、赤心誠意を以て同社に盡せし賞として、十年祭には木盃を贈られ、三十六年全社が、岡山、郡山、和歌山、新町等の各社と、大合同成るや、多年の功勞を對して、金牌を贈與せらる、以て君が如何に着實として、斯業に堪能なるかを知らし足らん、店舖は本町の中央にありて、營業益々隆盛なり、君本年五十九歳温厚の風丰、一見人をして眞に老成の實業家たるを想はしむ

繭糸問屋 福田五三郎君

君は安政六年十月野州下都賀郡穂積村大字間中よ生る、家は世々豪農たり氏十三歳の時父を喪ふ氏壯年となるや商業を好み最初穀問屋を開業せしが幾ばくならずして廢業し次に土地の有志と謀り製絲穂積組を組織し専ら座繰製絲に従事し明治廿三年の頃常州笠間の商人木村和藏前橋本町中澤屋の家を繭商を開店するあり茲より出荷し販



福田五三郎君肖像像

入に囑托せらる尋て三十五年交水社鈴木小十郎氏の囑托を受け奥州、常総方面へ原料繭買入に出張せり是れより又繭商人とあり三十六年板町三十番地即ち現在の住所に移轉し爾來營業恢復して今日前橋に於ける斯界の重鎮として一方の覇權を握り居れり君今は一商人なるも郷里に居るの際は後藤伯の組織せる大同團結に投し各所の政談演説に臨みては政黨の爲め奔走盡力する所あり、又失敗したる時は死を決して他に救はれたることあり商人としては頗る波瀾多き人と謂ふべし

蠶業家 新井忠三郎君



新井忠三郎君肖像像

氏は慶應三年新田郡世良田村大字米岡村に生れ常々地方蠶業の開發に努め改良の模範を示し風穴蠶種の如きは明治十八年より製造す其種類は一化性白鶴として春蠶種は一化性亦昔なり、何れも飼育の結果良好として高評噴々たり、自己又飼育する春蠶は毎に理想の收繭をあり、年々原富岡製糸所へ供給し居れり、各地の共進會及び品評會へ出品して賞状を受領する數回なりとす

蠶業家 住谷芳三郎君

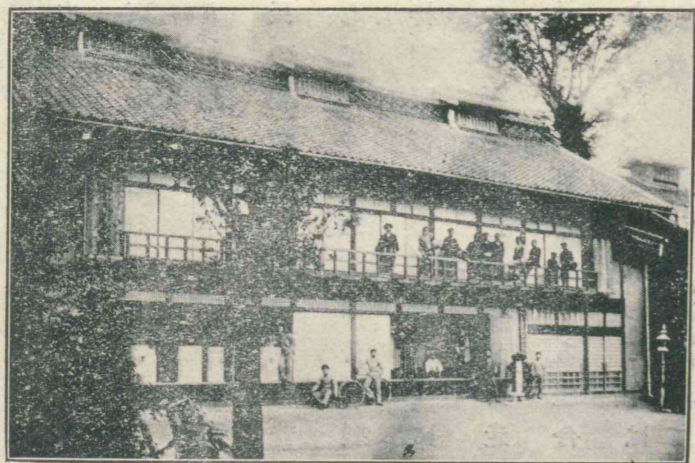
住谷芳三郎君肖像



君は群馬郡國府村大字東國分の人天保九年十一月を以て生る、父祖の業を繼で専ら農桑に努む特に氏は蠶業に熱心にして克く飼育の法を先輩に學び其の改善に向て率先し大に斯道に盡瘁する所あり土地の蠶業發展の域に進む此地に有名なる桑蠶改良社なるものあり氏の唱道に依て設置せられ其の飼育の方法、無毒蠶種の製造等に付大に地方人士の開拓に裨益せり君が専ら製造する蠶種は又昔、白玉、白姫等にして其他に試験的製種數種あり何れも其の成績良好なるを以て其の販路極めて廣し數年前退隱して家を息金一氏に譲り専ら閑雲野鶴に老後を送り居るも別に嗜好なく老軀を提げて養蠶には指揮監督の任に膺り必らず良好の結果を收む、息金一氏又熱心なる實業家にして家産益々増殖すと云ふ

蠶業家 塚越源藏君

氏は多野郡小野村の人にして祖先は往昔より養蠶をなす、蠶種製造を創始せしは明治の初年なり、現今の種類は又昔、二號又昔、伊達錦あり框製普通製を爲すは通常の如し、氏は明治十七年故高山社長高山長五郎の門に入り明治二十年同社教授となり、廿一年高山分教場を自宅に設け後生を教導せり、爾來持續今日に至る自宅收繭高年平均五十石、四十二年長野共進會に繭を出品して一等賞牌を受領せり、當年四十五歳前途未だ遼遠なり



塚越源藏氏蠶室全景

塚田倉次郎君肖像



蠶業家 塚田倉次郎君

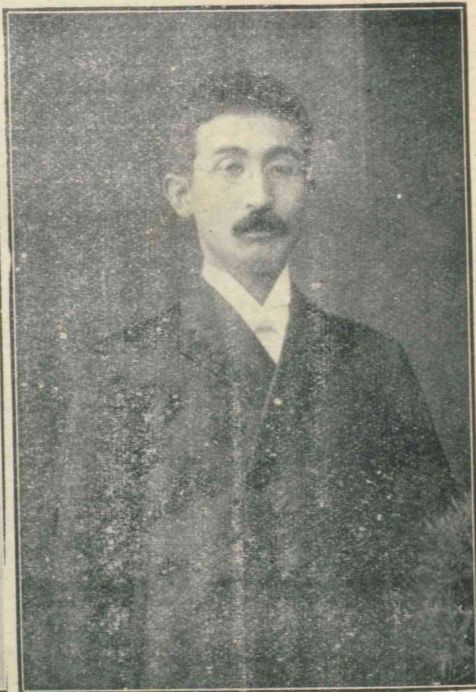
君は安政五年を以て群馬郡國府村大字東國分に生る故に年齢五十三歳なり、明治十九年より蠶種製造を始む氏の製造は春蠶白姫、又昔、白玉等よして其の製造高は普通製千二百枚、梓製四百枚なり、氏は曩に団体組織の必要を唱道し率先奔走して群馬桑蠶改良社と稱する組合を組織したるが、之を解散して今は蠶業同盟組合に變更せり、市の家は高崎市へ二里前橋へ一里の處にあり

高橋源之助君



高橋駒次郎君

高橋伊三郎君



繭絲問屋 高橋源之助君

君は碓氷郡安中町の生れ、商號を龜田屋と謂ふ、幼時を仙三郎と稱し、後父名を襲ふて源之助と改む、十九才よして横濱市茂木商店に入り、繭絲商を見習ふこと三ヶ年、明治二十四年、前橋市立川町に、玉繭及繭糸類の委託販賣を開始す、之れ前橋市場に於ける糸繭問屋の古株よして、君は幾多の弊風を矯正すべく、大に商取引の改良を唱道し、斯界に貢献する所頗る多大なりき、明治三十年本町九十一番地に轉居し、益々業務の盛大を致し、明治三十六年前橋繭糸同業組合の成るや、選ばれて副組長となり、其他市會議員を初め、諸種の役員又は名譽職等枚舉し遑あらず、君資性温厚にして、頗る圓満、交るに上下の隔なく、行ふ表裏の別なきが上に、極めて情義に富むの人、人情紙の如き現世、蓋し稀に見る所の實業家なり、曾て支那蠶業の踏査を爲すと、數次、現内外玉繭の問屋の外、屑物の大取引商として斯界に信望あり、君年四十五歳、三弟あり、次は掲ぐるは即ち其令弟あり

高橋駒次郎君

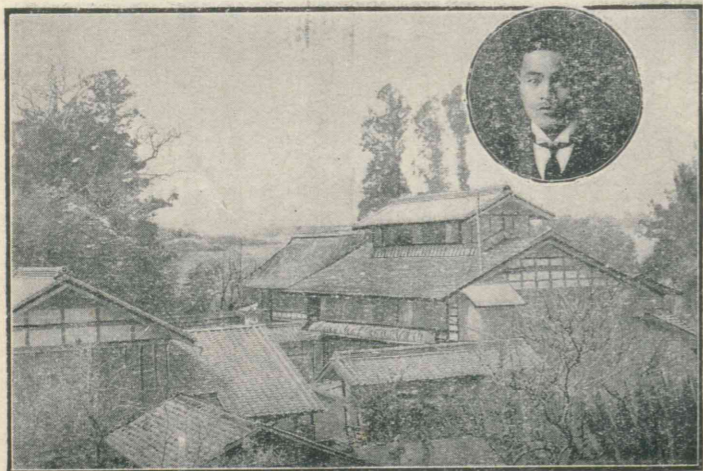
源之助君の直弟、性敏活にして頭腦又明晰、居町小學校を卒へ、後碓氷英學校及び東京國民英學會に於て、英漢學を修む、明治二十四年前橋に來り、兄源之助氏を輔けて商務に従事し、躬ら複雑なる、會計事務を擔任し、一絲亂れざる底の規律と整頓とを以て、處理せらるゝの技能は、是れ君の天性に因るものと雖も、亦敬服せざるを得ざるなり、明治三十七年君大に感ありて蒸氣取玉絲工場を新設す、之れ上州に於ける斯業の嚆矢たるなり、君又令兄と共に熱心なる宗教家なり

高橋伊三郎君

伊三郎君は即ち其次弟よして、天性頗る商才に富むの人、小兄と共に大兄源之助氏を輔けて、今日の隆盛を爲さしめし、所謂龜田屋商店の爲めは、小兄が左翼たれば、君は即ち其右翼たるなり、君明治四十一年より小兄の創業せし玉糸工場を引受けて、是が經營に膺り、具さに斯道の研究を累ねて、大に得る所あり、年齢未だ三十五歳、春秋に富む少壯實業家なり

蠶業家 都丸文五郎君

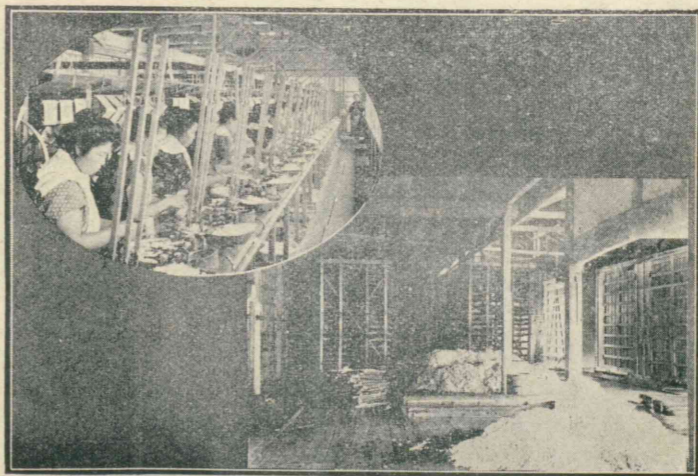
君は明治八年十一月を以て群馬郡惣社町に生る祖先より農桑を業とせり君は資性温厚篤實にして克く人に親む又品行方正にして別に嗜好なく能く家業に出精し父祖に譲與せられし資産を増殖せり、君は蠶業熱心よして本縣農會よて蠶病消毒講習會を開設せらるゝや第一回の當時入會し時の講師農學士辻暢太郎、全林彈作の兩氏に就き蠶病理及藥品論の講習を受け大に發明する所あり歸郷の上之を同業者に向て實施し蠶業上は多大の貢献を爲せり其他有志を説て稚蠶共同飼育の有益を勧誘し村民をして之を實行せしめ大に其便益を圖れり又有志と共同して群馬蠶業合資會社を起し資金を地方に供給して蠶業の發達を助け、明治二十九年より蠶種製造を開始し専ら其の販路を擴む君の製造に係る蠶種は又昔、白姫、金城又昔の三種、秋蠶種は風穴白鶴の一種なり此蠶種は無毒にして飼育簡易其の結果良好なりとて年一年に需用増加し近年は本縣は勿論關西諸縣に及ぶ君の居宅は前橋を距る一里、高崎を距る二里弱にして交通便利の位置あり



都丸文五郎氏肖像及蠶室全景

製絲場 龍 興 社

龍興社は前橋市才川町にあり合名會社竹内商店の經營に係る蒸氣機關百二十人取の製絲場にして明治四十二年六月新築工竣り直に事業を開始せり其諸般の設備の完全なるは實に稀に見る所にして努めて優良の生糸を製出するを以て創業日尙淺きにも不拘横濱市場に於て大に名聲を博しつゝあり特に前橋の人深澤利重氏斯業老練の手腕を以て刻苦勵精監督の任に當り能く成績を擧ぐ又同社の工女を待つや頗る懇切にして之に就き深澤氏は語りて曰く『練糸の業は女子の職業として最も高尚に最も適當なる作業なるも不拘世間動もすれば女を待遇するに道を以てせず只金錢を以て之を使役せんとするより工勢に工女の品性を卑下し爲に中流社會の人は其子女を工場に托するを厭ふの風を生じ遂に良工女を得るに由なく從て製絲改良の實を擧ぐると難し此の如きは斯業の前途に取ら洵に憂慮すべき事なれば努めて工女を愛撫指導し品性の向上を圖り他日良妻賢母として社會に立たしむるの方策を講じ以て良家の子女をして安んじて製絲工女たらしめざるべからず』善いかな言や茲を以てか同社の工場は常に缺員なく工女は日々楽しく其業を勵みつゝありといふ社運の隆昌なる又宜なるかな



龍興社工場全景

玉糸製造業 荒井多三郎君



荒井多三郎君肖像

勢多郡富士見大字時澤の人、慶應三年七月の生れ、資性極めて快活にして商事を好み、山野の林里にありて農事を業とするは固より天性の好まざる所、明治貳拾年より繭絲商を開始し、更に時勢に鑑みる所ありて玉糸の製造を始め、爾來幾多の研究を累ね現在の細玉糸を製造す、而して君の改良長手玉糸は、商標を金兔、銀兔、別金、甲金、乙金の五段とし、遠近機業者の信用最も厚し、加之、君の製産額は前橋市場の大手筋中の大手にして、玉糸、玉繭の取引を業とするもの東西一人として荒多なる大手筋を知らざるものなからん、君、近來時運の要求に應じて益々製品の改良を企てつゝあり、君繭絲組合の役員其他の名譽職に選ばれて、克く同業者の信望ある人なり

岩丸菊次郎君

岩丸家は群馬郡惣社村大友にあり代々農蠶を業とす、明治二十五年君初めて製絲業を開始し、爾來自から研究に苦心する所尠からず、明治三十拾年個人製絲と團体制糸の利害を覺り、甘樂社に組する事となりぬ、之と同時に甘

岩丸團次郎君肖像像



安政午年の生、漸やく老熟の域に入る、君の子息は團次郎氏あり、明治二十年の生れ資性聰明にして克く父業を助け、現は前橋市岩神の厩橋組の理事として精勤の功績少なからず、其他學務委員、村會議員、消防組頭等の名譽職に就く、岩丸工場的位置は前橋驛を距る三拾町ならんか

樂社厩橋組を創設し、他は又岩丸製糸工場を新設し機械製絲を營む、翌三十一年甘樂社評議員に擧げられ、本年該社の組織變更まで勤續す、温厚にして極めて事業は熱心の人、物に對し、人に接し、頗る親切にして又誠實、君曰く、余は製絲事業に關する意見として取立て表白すべきものなし、否な、絶對的無きにはあらざるも、余は既は甘樂社に組して甘樂社と行動を共するもの、余の事業は實に甘樂社を形成せる分子の一部分のみ、何んぞ、甘樂社の方針甘樂社の意見以外に、方針乃至意見あらんや、即ち甘樂社の意見は余の意見なり、甘樂社の方針は余の方針なりと、君の甘樂社に組みするや、又如何は本社と行動を共するの決心の堅きかを知るを得べし

原富岡製絲所工場長 齋藤勝次郎君

君は前田家の家臣齋藤之得氏の次男、明治九年六月の生れ、明治貳拾五年、即ち富岡製絲所が未だ政府の經營時代より勤續して、現は工場長の要職にあり、天性頗る着實にして極めて忍耐は富み、忠勤于茲拾有九年、孜々職

責を嚴守して倦まざること一日の如し、其寡言にして謙遜、其温厚にして忠實なる、蓋し得難き良工場

齋藤勝次郎君肖像像



長なり、加之、君が作業に熱心なる殆んど一身を製絲業に捧けて又他に顧みるものなく、銳意製絲上の研究を累ねて主家に盡す所あるの他、工場作業に關する万般一として精査考究を爲さざる無く、殊に同所の年々買入する百萬に近き生繭の乾燥及び保管は實は君の熱心と精力とよ依りて之を處置し、嘗つて一回の過ち無きを得しは是れ實に敬服し感賞すべき

所たるなり一國の戰闘は外劍戟の交戦に依つて勝敗を決せらるも、内國民の援助ありて後顧の憂無きを得ざらんは、奚んぞ、陣地に勝を得べけんや、富岡製絲所の事業日に月に隆盛を致し、所謂斯界の競争場裏に於て勝者たるを得るは、外、所長以下の武勇にあり、奇略ありと雖も、内、君の如き忠實にして熱心ある良工場長ありて、初めて内外相俟つて斯界の勝者たるを得るのみ

原富岡製絲所内 辻 信松 君

君は横濱市辨天通四丁目の生れ、明治三十三年三月横濱商業學校を卒業し、同年十月横濱市辨天通り原合名會社輸出部に入る、當時同店は創業日尙ほ淺く、店員僅かに三名のみにして、何れも兼務を要して分擔せしが、君は



辻 信松 君 肖像

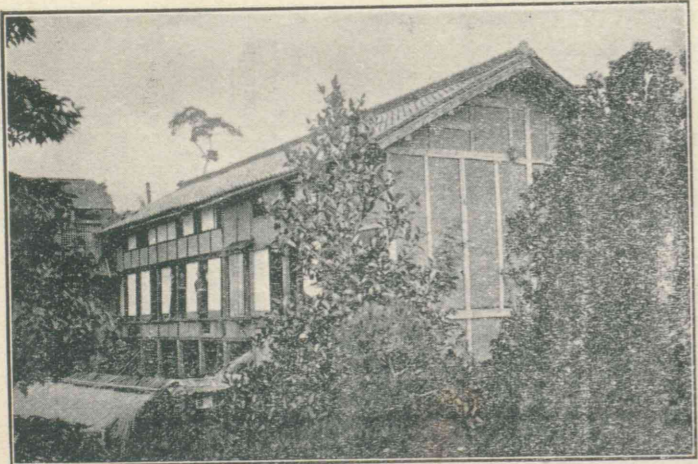
即ち會計、帳簿、庶務、文書係等の要位ありて孜孜忠勤すると一日の如く明治三十七年六月及び八月、偶々日露の戦役に際し、君又召應じて出征し、湖風肌を劈くの烈寒、滿州平原の野、草を食とし、屍を枕として各地に轉戦し、三十八年十二月無事凱旋除隊となり、再び原合名會社問屋部生絲賣込係りとして勤務す、三十九年六月原富岡製絲所へ轉任し爾來會計、文書係等の樞位を占めて勵精しつゝあるの外、機に應じ一般の事務を兼ねて活動し、昨年以

來蠶繭統一の議一度び上毛の蠶界に起るや、君即ち現所長大久保佐一氏と俱に熱誠之を唱道し、奮然各地に奔走し、本邦蠶業の改良に盡す所蓋し大なり、君、資性極めて淡泊、快活にして克く談じ、人々對し上下の隔て無く誇らず、媚びず、克く自己の信念を吐露して談論を試むる所など、一種凡俗を超脱せし人、明治十四年の生れ、前途又遠遠かなり

蠶業家 鈴木治三郎 君

君は明治十一年の生れにし資性伶俐克く人に交る普通小學を卒へて校門を出づるや直ち農桑に身を投じ父祖の業を繼げり同氏經歷の大意は左の如し

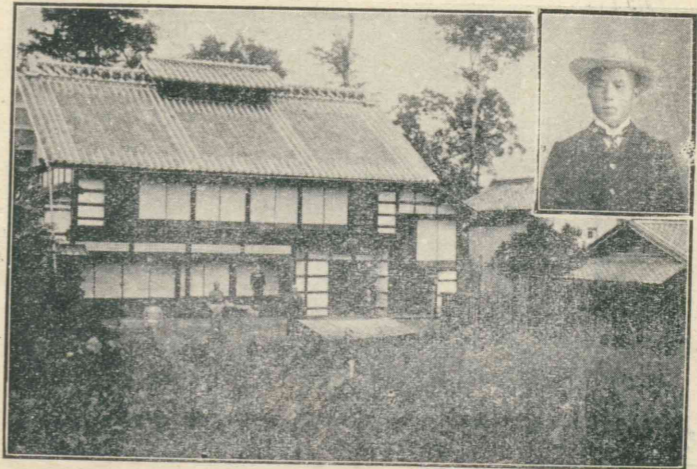
- 一 明治二十八年同郡養蠶傳習所佐藤國太郎氏の門に入り飼育法の一般を傳習して三十年に卒業す
- 一 明治卅一年九月同郡一の宮青年實業會を起し其牛耳を執る
- 一 明治卅三年二月友人佐藤辰太郎外數氏と西毛蠶病消毒法研究會を設立し大に其急務あることを遊説せり翌年顧問たる大日本蠶業研究所長農學士大森順造氏を招聘して蠶病消毒法を研究せり
- 一 明治三十五年三月町農會の組織成るや選ばれて其評議員理事並に技手等を兼ね之が發展改良に貢献する所鮮からず
- 一 明治卅五年十一月北甘樂養蠶傳習所総理佐藤國太郎氏より同所生徒の監督を囑托せられ一面同所より於て育蠶法、蠶種製造法等の授業を擔任せり
- 一 明治四十一年郡農會と協議上前項の傳習所は郡の經營に移れるを以て退職し爾來自宅に養蠶傳習所を設け蠶種製造と養蠶飼育法に付生徒を薰陶しつゝあり、而して氏は目下天下に呼號されつゝある蠶種統一は賛成を表せざるの一人なり



鈴木治三郎 君蠶室全景

蠶種家 杉山本次郎君

君は明治十五年十一月を以て群馬郡東村大字下新田に生る祖先より蠶種製造を業とす、君又斯業を繼で大に改良し、努め明治四十一年郡立農蠶講習所に入り優等を以て卒業し熱心に之を家蠶に施し頗る好成績を收む、又嘗て高山社競進社に入り蠶業の智識を習得す、爲めに君の養蠶は毎に良繭良種を得君の家蠶種製造を始むる實に父吉太郎氏の代にして明治三十年たり、其の種類は亦昔、伊達錦、風穴は新屋、白玉、白龍の三種なり、君の家は利根川を隔て、前橋驛を距る僅かよ三十町の處にあり



杉山本次郎氏肖像及蠶室全景

製絲業 多胡庄次郎君

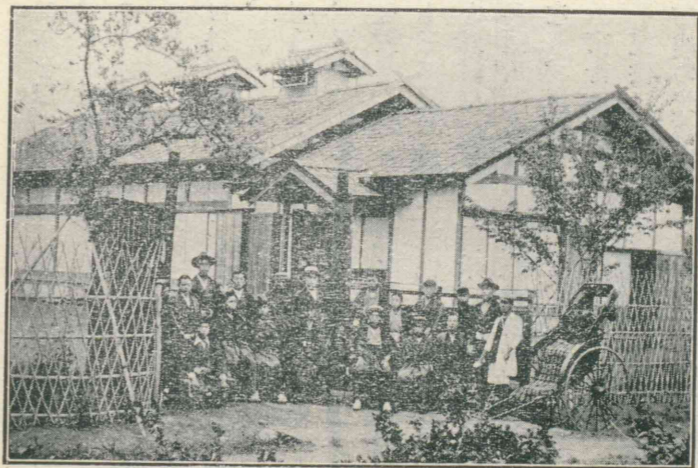


多胡庄次郎君肖像

君は弘化二年を以て碓氷郡秋間村大字下秋間村の農家に生る、天性穎敏壯年にして青雲の志深く、徒に鋤犁を以て終生の友となすを慨し、斷然意を決し家産の全部を擧げて之を實弟に譲り、自ら居を安中町よとし製絲業を營まんと企て、僅に數名の工女を役し、極めて小規模の座繰製絲業を開始したるは、實に明治九年なりき、爾來業務は年を趁ふて發展せられ、明治十八年同志と謀て安中共同社なる小製絲會社を設立し之れが支配人とあり、苦心經營せしが、二十三年製絲界の大恐慌の爲め、非常の逆境に陥りしも忍耐克く百難を排斥して狂瀾を既倒し回し、廿六年碓氷社と合併し碓氷社安中組と改稱して其組長となり、以て今日に至る、現に碓氷社商議員たり、君が宿昔の志未だ以て酬ふるよ足らずと雖も克く一身を提供して製絲業の爲め奮闘し、同地方に於ける斯業の先導者として亦開拓者として其偉功や真に没すべからざるものあり、而して君が個人として一年の製絲量は今や將に百捆と垂んとすと云ふ蓋し亦成功者と謂つべし

蠶業家 齋藤兵吉郎君

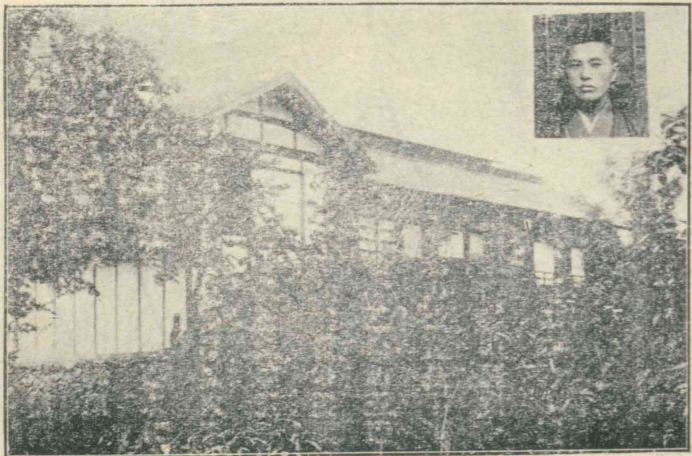
君は多野郡平井村大字東平井村に生る家世々農業を以て立つ農業の傍ら公職に身を委すること多く克く村治に盡瘁せり今其の経歴の一斑を記さんか
 明治十七年三月東平井村戸長を任命せられ、全十九年野精絲會社平井組々長に擧げらる、全廿年競進社にて三回共進會を開催するや選ばれて審査委員となり緻密なる頭腦は克く其任務を果たせり、明治廿年上大塚村外三ヶ村聯合用掛に當選す、廿一年緑野、多胡聯合町村會議員に推選せらる、廿二年平井村助役に就任す、廿七年居村の蠶業家團結して平井組を組織するや其の組長に選ばる、廿七年甘樂社評議員に推選せらる、同年三月縣會議員に當選し、議場に臨むや侃々諤々の辯を以て能く縣の財政を議せり、全三十年平井村小學校の學務委員となり校舎の建築教材の設備に盡瘁し能吏の聞へ高かりき、卅七年養蠶改良の目的を以て土地の有志と謀り友愛社なるものを起し其の社長に推選せられ君の熱誠克く社業の隆盛を計り社員信用頗る篤く前途の發展又多望かり、明治四十年郡會議員の選舉あるや郡の輿望を擔ふて當選し郡制の完備に努め頗る要領を得たり君は友愛社を經營する傍ら一面自宅に於て蠶種を製造し其販路數縣に及ぶ而して氏平素の持論は從來行はれつゝある養蠶業は割合に勞費多くして却て成績良好ならざるの憾みあれば學理と實際とを依り案出せる給桑温暖育と稱する飼育法を實行し汎く之を普及せしむるを以て本領とせるものゝ如し



齋藤兵吉郎氏蠶室全景

蠶業家 落合亥十郎君

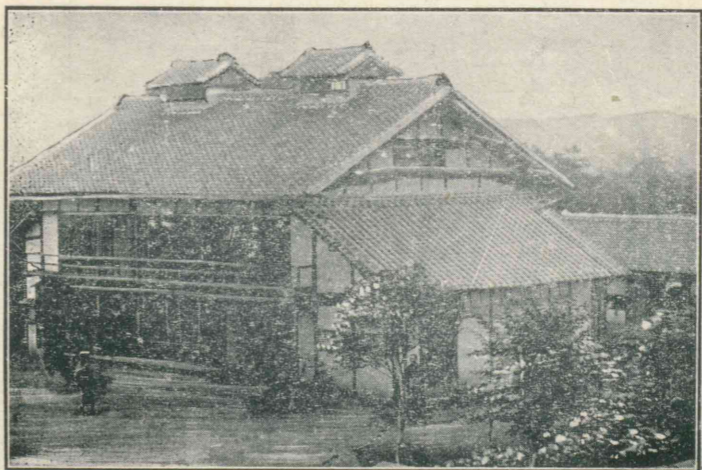
君は北甘樂郡新屋村大字白倉の人明治八年十一月を以て其家より生る幼年より農蠶を好み村農會試作場主任たること三年、又新屋、福島、小幡三ヶ村の聯合農産物品評會審査員とあり、又製絲白倉組の監査役たる三年、組長たること一ヶ年、現に其の理事長たり、君春蠶又昔、二化性、中巢の蠶種製造をなし頗る高評を博しつゝあり



落合亥十郎氏肖像及蠶室全景

蠶糸家 木谷傳次郎君

君は明治二年を以て多野郡平井村大字鮎川村野口伊三郎氏の家より生る、君は次男なるの故を以て明治二十年出でて同郡吉井町の八木谷松五郎氏の次女かつ子の智養子となれり、是より先き君は十九歳を以て高山社蠶業學校を卒業し養蠶及製種の術を攻究し、二十一年木谷家より分家するや自ら蠶種を製造して之を諸方に頒ち、大に稱賛を博せり、君の製造する蠶種は又昔、改良又、青熟、其他試験種數種なり、君は熱心蠶業の改良を唱道し自邸を以て高山社分教場となし、自ら教師となりて生徒を養成し年々多數の卒業生を出せり、曾て第四回及び第五回内國勸業博覽會に蠶種を出品して賞牌を受領し其他各地の共進會品評會等に出品して受賞すると枚擧げ遑あらず、君の邸宅は吉井停車場を距ると僅よ三町交通便利の地なり



木谷傳次郎氏蠶室全景

蠶業家 町田市之助君

町田市之助君肖像



君は佐波郡玉村町大字南玉村の人、幼名を憲一郎と稱し後年市之助と改む、人と爲り、温良沈毅、明治十八年東郡に遊學して今の明治大學に入り、専心學業を勉勵せし不幸にして半途二豎の冒す所となり涙を吞で歸國せり、而も君は青雲の志高く、其病癒ゆるや、明治廿一二年の頃我が群馬の政界に馳驅し新聞演壇に高津、中嶋、桑原等當時知名の士と時事を論議し、青年論客として大に其名を識られしが後ら感ずる所ありて斷然政界を去り、復時事を談せず、爾來専ら意を蠶業に注ぎ熱心研究する所ありし結果、君が收購は其品質優良にして糸量の多額なることを一般に認識せられ、年々新町山十組製糸所に賣却して毎に稱賛を博せり、君亦蠶種製造に腐心し専ら風穴秋蠶種を製造す、而して該蠶種は無毒にして成績の佳良なる、同郡蠶業豫防事務所管内の各製種家中に在て常に第一位を占むるといふ、三十一年明治大學校友に推薦せられ亦現時玉村町に於て幾多名譽職を帯び、公共事業の爲め盡力する所不尠、亦確氷社製糸玉村社々長理事を兼ね郷黨の信望を負へり

製糸場 麗水合資會社

麗水合資會社は群馬郡倉賀野町にあり、蒸氣機關二百人取の設備よして明治二十六年の創立より係り縣下屈指の製糸場たり、社長を木村島吉氏といふ、人呼んで麗水社の木村か木村の麗水社かといふも徴するも如何に氏か同社

を代表して中外の重望を負へるかを知らざるも足らん、

氏は安政三年を以て群馬郡佐野村大字下中井の豪家よ生る、令弟二人あり、兼吉、由平、安平と稱す、皆賢明の士よして夙に時世の進運に鑑み、生糸貿易の前途に多大の望を屬し、兄弟相謀り一大製糸會社の創立を企て、由平氏先づ起て光鹽社を倉賀野町よ興こし工女六十餘名を使役して盛よ製糸業を營みしが、不幸にして安平氏病を以て逝き、由平氏亦相繼で病歿したるを以て君出で、事業を繼承し、社名を

麗水社々長肖像及商標



麗水社と改稱し、君自ら社長となり同町の素封家五十嵐重五郎氏及び令弟兼吉氏を以て理事となし益々業務を擴張し、製糸改良の實を擧げ、斯くて幾多の星霜を閱し、幾多の艱苦と闘ひ、今や社運は益々隆昌よ赴き、其商標の二羽鶴は横濱市場よ歓迎せられ、其糸質の優良を稱揚せられつゝあり、君又公共の事よ盡瘁し曾て學務委員として、又村會議員として、克く其職責を盡し、郷黨の信頼年と共に厚く實よ温良の君士人あり

蠶種業 大河原茂平君

君は北甘樂郡馬山村大字馬山村の人、家代々養蠶を勵み又蠶種の製造に従事し、其名遠近に聞こゆ、君又熱心奮勵父祖の業を繼承し、蠶業の爲めには身命を犠牲に供するも辞せずとの決心を以て一意専念之に従事し、嘗て蠶種貯藏法の甚だ不完全なるを慨して、同志を糾合し地を全郡尾澤村大字星尾よ相して、一大貯藏庫を起し名つけて星尾風穴合資會社と稱し、現よ其社長たり、君又同郡蠶種組合の組長として常よ衆人の爲めよ盡瘁せられつゝあり、君資性敦厚、美髯を貯へ温容人に接す、眞よ好個の良紳士なり

大河原茂平君肖像



星尾風穴合資會社

星尾風穴は現任社長大河原茂平外七名の合資會社として、明治三十八年の創立に係る、本社を群馬縣北甘樂郡馬山村大字馬山村に置き、蠶種貯藏庫を同郡尾澤村大字星尾に有す、同所は有名なる黒瀧山の裏山に當り、戸澤を距る僅に一里、氣温低く空氣極めて清淨なる一仙境にして、撰び得て最も適所たり、其貯藏力は優に蠶種拾餘萬枚を入るに足る、毎年の成績頗る佳良なるを以て遠近より預托するもの極めて多し、蠶種の入穴時期は一月中旬より二月下旬迄を以て最も好期となすといふ、實に縣下最良の蠶種貯藏所なり



星尾風穴合資會社全景

玉絲製造業 矢野惣次郎君

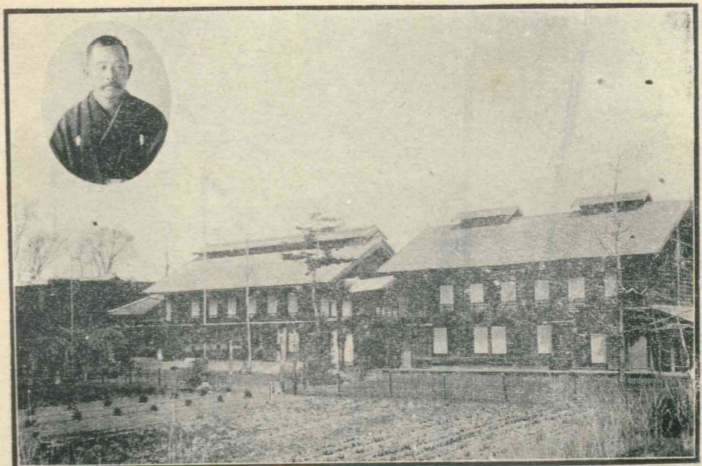
君は碓氷郡磯部村大字東上磯部の人、夙に製糸業に着眼し曾て碓氷社の組合員となり、座繰製糸業を經營したるも、慧眼なる君は一方内地向き玉絲の需用が前途益々有望なるを看破するや、斷然前業を廢止し一本撚玉糸の製造を開始したるは、實に明治二十三年なりき其後諸般の便宜上工場を前橋市岩神町に設け、又磯部なる本邸に於ては蒸氣機關を装置し、盛に製造に従事し、曾て八王子共進會及び第五回内國勸業博覽會等出品して賞状を受領せり、君亦熱心能く其業を勵み爾來改良に改良を加へ、目下其需用地たる伊勢崎市場に於て一般機業家の稱讚を博し、其信用頗る厚く方今一本撚玉絲製造家中に在て嶄然頭角を抜ける良工業家たり、君本年六十四才鏗鏘壯者を凌き自ら業務を指揮督勵せらる、眞に意志健剛の老翁なり、工場は磯部停車場を距る僅に拾町交通便利の地あり



矢野惣次郎氏玉糸工場全景

蠶業家 橋本春三郎君

君は本縣下蠶種製造業地として著名なる佐波郡島村の人慶應三年二月其家より生る祖先より斯業に従事し君又此業を好む明治の初年同業者と謀り嶋村勸業會社を組織して養蠶製種を改良し専ら海外輸出を企てたりしが一旦輸出の途皆無となりてより爾來内國需用者より配布せり、近く大日本蠶絲會員たり、又嘗て桑樹栽培法、養蠶法、顯微鏡使用法等を研究して専心斯道の發展を圖りつゝあり、家號を養源館と稱して蠶種を販賣す其の需用者頗る多し



橋本春三郎氏肖像及蠶室全景

蠶業家 桑原勝太郎君



桑原勝太郎君肖像

君は新田郡木崎町の人祖先より家世々農桑を業とす明治十九年より熱心桑園改良を圖り一反歩に付三百株を栽培し廿年より養蠶飼育に指を染む共進會社員北爪保五郎氏に就き大に飼育の研鑽を積む爾來斯道の發展より奔走し或は教師より或は講話より飼育の改良より指導する所あり、近年は良糸製造より専ら意を用ひ細密なる頭惱を以て研究中に屬し一面夏秋蠶飼育の流行に連れ之より使用すべき桑樹の仕立方に付苦心中心あり、君は宏大なる家屋より居住せしか三十七年隣家より火を出して類焼の厄より會ひしも蠶室のみは禍を免かる現今は此の蠶室の一部より居住して専ら繭糸の改善に努め殆んど他を顧みろの暇なき程なり蓋し多く得易からざる熱心家とこそ謂ふべけれ

蠶業家 高橋嘉策君

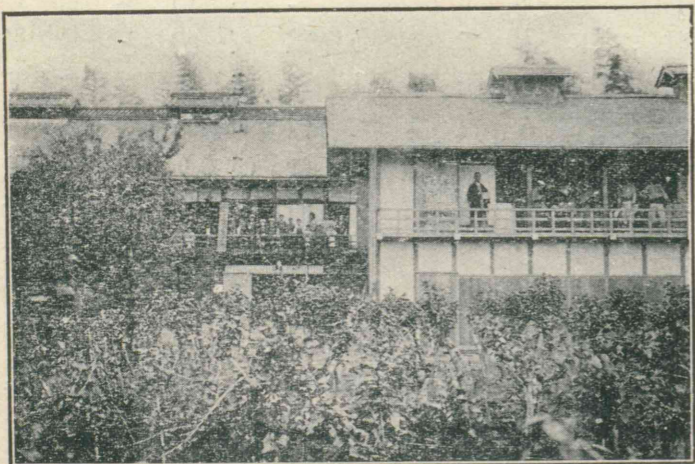
高橋嘉策君肖像



君は佐波郡芝根村大字沼之上村の人、本年五十六歳なり、初め本家高橋清平氏と蠶種の製造共同なりしが、明治二十年以來獨立にて之に従事す、春蠶種は大又、又昔なり大又は飼育容易、蠶体强健糸質佳良にして最も好評なり一升の繭數二百四十顆又昔は伯州又と稱し大又に次ぎ一升二百七十顆、秋蠶は風穴種よて白鶴、寶來、青熟よして春秋を通じて製造高一千五百枚よ及ぶ而して需用者は大方附近の諸村なり、共進會品評會よ蠶種及繭を出品して受賞すること數回なり

蠶業家 金田金藏君

君は多野郡小野村大字高尾村の人、明治十九年高山社へ入社し業を了へて出づるや同社授業員として各地に出張し二十六年より高山社分教場となり多くの卒業生を輩出し、斯業開發に貢獻する所多し、明治二十三年より蠶種製造を創め春蠶種、風穴種の二回製造をなす、其の無毒にして飼育の結果良好なるを以て名聲噴々たり、氏は一面よは牛馬賣買業を營む、由來牛馬を賣買する者殆んど公然の如く惡辣手段を講じて農民を苦しむる事なるが氏は資性着實温厚毅然として此惡風に染まらず斯界に一異彩を放てり



金田金藏氏蠶室全景

蠶業家 伊藤岩次郎君

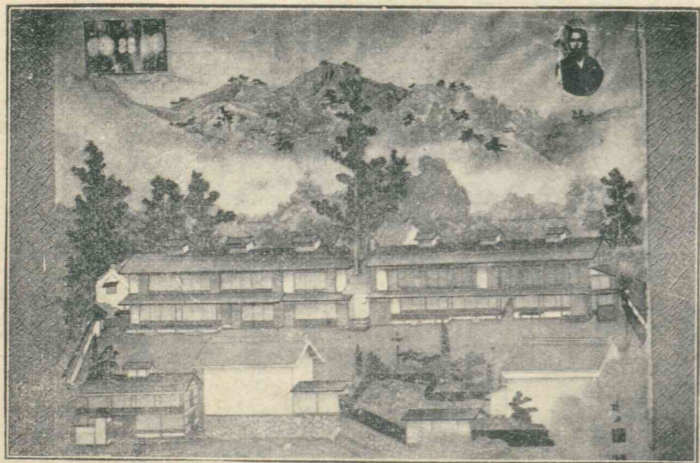
伊藤岩次郎君肖像



君は群馬郡清里村大字青梨子の人
 弘化四年其家より生る君の家も又農
 蠶を業とし、明治十九年より地方人
 士の勸奨より依り蠶種製造を始む氏
 の専ら製造より係る蠶種は亦昔より
 て外に試験種數種あり飼育の結果
 良好なりとて四方より購入者相踵
 ぐ、其の製種より従事するや極めて着
 實よりして飼育者の爲めより必らず有
 利ならしめんことを期す、爲めより氏
 の蠶種に據て飼育する者氣候の劇
 變に逢ふも失敗するものなし之を
 以て名聲噴々一年より其販路擴張
 されつゝあり、氏は公共要職に就く
 事又多年村治より貢献する所又人後
 に落ちすと云ふ

蠶種家 市川竹十郎君

君は明治三年甘樂郡丹生村の豪農町田角十郎
 氏の家より生る、角十郎氏は即ち君の實兄あり、明
 治廿五年下仁田町市川孫八氏の女婿となる、先
 是廿二年に東京西ヶ原蠶業講習所に入り、育蠶
 上の智識を得、歸郷して自宅より傳習所を設け専
 ら生徒を養成せり、氏の先祖は天明年間より蠶
 種製造をなして遠近に頒てり、現今氏の家より
 て製造する蠶種は又昔、下木村、諸柱（一名大圓
 頭）等あり、君又桑園改良の必要を認め自ら山
 林原野を開墾して六町餘歩の桑園を作り、盛ん
 より桑樹を栽培せり、君の邸宅は下仁田停車場を
 距ると僅より一町余、鐺川の河畔にあり



市川竹十郎氏肖像及蠶室全景

古澤小三郎君



古澤小三郎君肖像

君は富岡町の元老として現に同町長たり、天保十二年十二月の生れ相當の高齡なるも鏗鏘として公務に勵精しつゝあり、氏の略歴を記さんか文久二年より町の公務に盡瘁し、明治九年四月富岡郵便局長を拜命し二十五年十一月辭職せり、明治十年九月群馬縣第二課附屬養蠶世話掛及び北甘樂、多胡、綠野、三郡精選蠶種検査を被命、明治三十一年より三十四年迄精絲甘樂社取締に就任す、明治三十四年より今日まで町長勤続

氏の家は米穀商を營み傍ら養蠶をなし輸出蠶種を製造せり、明治十四年第二回内國勸業博覽會へ精絹織物及繭を出品褒賞受領、爾來各地の共進會品評會等へ出品して受賞すること十數回なりとす明治四十三年四月甘樂社理事に推さる

蠶種家 境野清衛君



境野清衛君肖像

君は多野郡新町の人弘化四年九月埼玉縣兒玉郡新井村に生る慶應二年出て、境野家を襲ぐ夙に産業に心を傾け銳意其改良を企圖し明治九年千葉縣印旛郡八街村に聘せられしを始め縣下は勿論埼玉、茨城、静岡、東京、等の各

府縣下の養蠶巡回教師となる明治十九年武州賀美郡那珂蠶絲組合事務所蠶卵検査役飯嶋辨次郎氏に就き蠶体解剖病理及微粒子病検査法の大体を學び二十年二月有志と謀り東部蠶業改良會社を組織し其監督員となり且つ各地を巡回して大に斯道の爲め貢献せり又同年十月より廿一年二月まで埼玉縣兒玉外二郡蠶絲組合事務所蠶卵検査員を勤め又埼玉縣原種検査員に任せられ其結了の際同縣廳より慰勞金下附せらる廿一年群馬縣十三ヶ町村を巡回教授し又全年農商務省に於て蠶種微粒子検査法の檢定試験を受け合格證明書を得たり廿二年新町養蠶傳習所を設け傳習生徒を養成す、二十五年より七年まで養蠶給桑園を培養

し東京大阪二府及全國三十縣下を巡回し其教授を爲せり、二十七年更に大日本養蠶改良社を設立し教授員を三府二十縣下に派遣せり廿九年農商務省に於て生絲欠点諮問會に招集せられ大よ自己の意見を披瀝し感謝状を附せられ三十一年生徒養成の傍ら天氣豫報を附近各町村に傳へ大よ效力あるを證せしめたり其他君は各地品評會展覽會へ繭及蠶種を出品して受賞すること幾十回殆んど氏の全生涯は養蠶製絲の爲め盡瘁するものと稱して敢て溢美にあらず

蠶業家 茂木吉三郎君

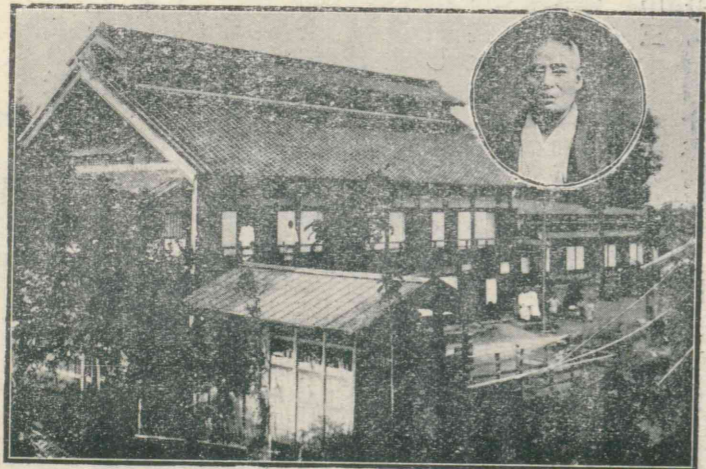
君は多野郡新町の人なり、家は烏川神流川の間に位し、年々洪水の難き苦めらるるを以て、代々魚獵を事とし傍ら荒蕪の池を拓きて桑園を起し、少許の養蠶を營みつゝありしが、數々有志者の來るあり此の地の川原を開墾して桑園と做すもの續々輩出し、桑樹亦非常に繁茂するを見て君は決然志を蠶業に傾け百方攻究すれども遂に好果を得ず、亦一面蠶種の海外輸出が年々増加するを見て、君も亦苦心製造に従事せしも意の如くならず、此に於て大に感ずる所あり、直ちを故高山社長高山氏に仰ぎ、爾來専心研究を積みし結果遂に清温育法の蠶奥を極め、桑園を改良して養蠶に好果を挙げ、優良なる蠶種を製造して各地需用者の歓迎を受け、業務は益々發展せり、二十一年高山社



像肖君郎三吉木茂

蠶業家 北爪保五郎君

君は文久元年を以て新田郡世良田村大字平塚に生る、先考の代より武州競進社の理事として鏘々たる社員なりしが、明治四十一年偶々君は貯蔵庫の事より衆社員と意見を異にし、斷然同社を去り、高山社員となり同社の爲めに盡力すると不尠、自邸を以て分教場となし、生徒を養成せり、君元來蠶業に就て造詣深く多年の苦心研鑽を積み斯業に貢献する所頗る多し、曾て平塚共同販賣組合を組織し之が組合長となり以て衆人の利益を計り又蠶種を製造して之を諸方に頒布せり、其春蠶種は又昔、秋蠶青熟にして共々成績良好なり、君が門下は六名の卒業生あり、克く師を輔けて蠶業に従事し、亦生徒を教導し熱心事を司るより君は深く其特志を賞し、年々利益を分與し之を蓄積せしめ、早晚彼等をして獨立自營の費途に供せしむるが如きは君が後進を愛撫誘導するを知るに足るべく、亦以て君が人格の一斑を知るを得べし、曾て自家製造の繭及び蠶種を第三第四第五各回の内國勸業博覽會に出品して各有功賞を受領し、其他大日本農會品評會及び各地の共進會品評會等も出品して受賞せしと枚擧ぎ違あらず、眞に斯業に於ける老練の大家あり



景全室蠶及像肖氏郎五保爪北

蠶業家 都丸時松君

君は本縣屈指の蠶種製造家として明治五年四月同郡豊秋村大字行幸田村關口氏に生れ十三歳にして都丸柳造の養嗣子となる二十五歳の時養父歿して直に家を襲ぎ父祖の業を承けて蠶桑の事に従ひ研鑽多年清涼強蠶育と名つ至り盛んに製種に従ひ今や鬱然たる斯道の重鎮たるべし



都丸時松君肖像

君は明治三十六年以來居村に農會の組織せらるゝや舉げられて其會長となり農蠶物の品評會を開催しては其の出品全部を寄附し小學校の基本財産を造成するの制を立て或は共同肥料購入を實施し耕地整理を勸奨し或は産業組合の必要を唱道し遂に信用購買販賣組合を組織して其組合長となり、一方には稚蠶共同飼育の利益を説き率先之を實施し種々の講習會を起して農蠶改良の智識を養成し其功績顯著なるを以て四十一年大日本蠶絲會總裁宮殿下より名譽賞状を授けらる、斯く農蠶改善に盡瘁せる傍ら一面には町

蠶業家 新井清六君

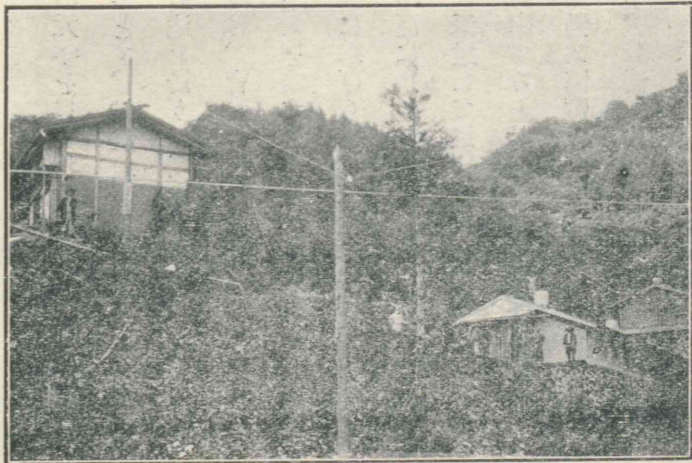


新井清六君肖像

君は元治元年を以て北甘樂郡富岡町に生る、家代々農蠶を業とす、君父祖の業を繼承するや、銳意蠶業の改良發達を計り、明治十八年同志を糾合して改良組合を設け、育蠶の良法を研究し、遂に温和育を發明し、衆人を利すると少からず、後ち大成社を組織して社長に舉げられ、二十二年以降生徒を養成し、二十五年更に規模を大にして傳習所を起し、卒業生を各地に派遣して巡回教授を爲さしむる等、斯業の爲め盡瘁すると尠がらず、君亦自家産出の繭を第四回内國勸業博覽會に出品して有功賞を受領し、其他八王子、新潟、山梨、長野、名古屋等の各共進會に出品して悉く賞典に與る以て、如何に其優良なるかを知るに足らん、蓋し、君が多年苦心研鑽を積みし結果と言はざるべからず

荒船風穴蠶種貯藏所

圖は北甘樂郡西牧村大字南野牧村荒船山の北麓にある荒船風穴蠶種貯藏所にして、海拔二千八百七十尺の高地、天與の冷風は岩石重疊と相俟つて蠶種貯藏所の最適地たり、而して之に巧妙なる人工を施したるものなれば、其成績實に本邦風穴蠶種貯藏所中の首位にありて貯藏力は優に一百萬枚にして、第一號は明治三十八年二號は四十一年の建設にて、設計者は東京蠶業講習所長其他斯業に經驗ある諸大家の合議より成りし模範設備なれば、其完全無缺なると、蓋し他に比類無しと謂ふ、今や連年の好成绩を知るもの益々多く委託者は實に二府三十一縣に亘り、四十三年度の貯藏高は二十餘萬枚に達せり、而して事務所より風穴迄の約二里餘の間に私設電話の架設あれば出穴其他の事務は極めて迅速に取扱はる、經營者は同村の人春秋館主庭屋靜太郎君にして、君は地方有名の素封家にて累代農桑を以て業とし夙に蠶種製造業に従事す、後ち斯業研究の爲め高山社長田菊次郎氏の門を叩き親しく清温育の講話を聴き深く感ずる所ありて同社に入社し、師を聘し専心攻究の結果は忽ちにして熟練ある技術家となり、更ニ托せられて私立甲種高山社蠶業學校分教場長となり生徒の養成を爲せり其他本縣蠶業組合より原蠶飼育の囑托を受け、又下仁田社の理事とし創業以來勤績し、四十年迄一期間縣會議員たる等の外公私に盡せし功績は枚擧に遑あらず、君又斷然政界を脱し専心實業に従事せんとする時左の一詩あり



荒船風穴蠶種貯藏所全景

誤參縣政四星霜 獻替無功愧選良 胸底別存經濟策 邦家貨殖在蠶業

蠶種家 山鹿兵七君

山鹿兵七君肖像



新田郡世良田村大字徳川郷は昔より蠶桑の盛なる土地にして、年々多くの良種、美繭を産出するとは既に斯界の知る所なり、君は即ち同村の蠶種製造家として古株の一人にして、温厚にして最も斯業の熱心家と稱せらる、而して今君の斯業に熱心なる一證例を擧げんか、由來養蠶家なるものは自尊自信の念過度にして、徃々我が短を捨て他の長に倣ふを爲さざるの弊風ありしは、君は時勢の進化を看破し徒らに舊轍を復踏すべからざるを覺り、意を決して競進社木村九藏先生の門に入り、熱心斯業の研究を累ねて大に修得する所あり、爾來君の技術は實に老熟の域に入り、年々歳々良好の成績を示しつゝあるは蓋し郷黨の畏敬する所、年齒干茲六十歳、健康尙壯者を凌ぐの概ある斯界の功勞者と謂ふべし

蠶種家 金井菊次郎君

君は群馬郡新高尾村大字烏羽村の人、祖先より農蠶の業に従事し村内屈指の大農蠶家たり、君の代に至りて業務は一層發展せらる、而して傍ら蠶種製造を營み其製出に係る春蠶又昔、改良又昔、飛白の三種は無毒優良にして到る所需用者の稱賛を博しつゝあり、君は沈着温良の人として常々意を蠶業の改良發達に注ぎ、多年苦心研鑽の結果は着々實地を施行して以て衆人を啓發し利益を與ふること不尠、一村の畏敬する所たり、君亦公共の事に盡瘁し明治廿六年消防組役員となり、三十二年推されて村會議員となり、三十五年迄勤績し、克く其職を盡し、四十一年より衛生區長に推薦せられ、現に勤務中よ屬せり、君本年五十二才其信望年と共に高し



金井菊次郎氏蠶室全景

蠶業家 淡路森平君

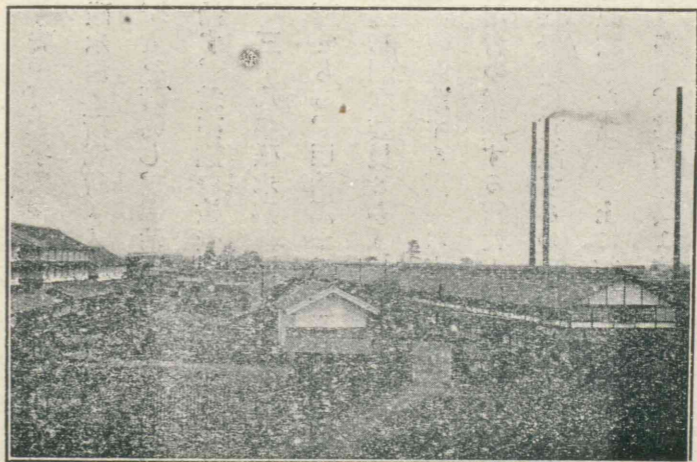
淡路森平君肖像



君は碓氷郡安中町大字安中驛の人なり、明治九年四月郡立碓氷養蠶研究所に入リ卒業以來蠶業に従事し、専心斯業を研究し、明治三十年を以て獨力蠶種製造を開始す、君亦蠶種検査の職を奉ること十年に及べり、三十八年碓氷蠶種同業組合を組織し、評議員に推薦せらる、明治四十二年二月安中製絲株式會社を發起し創立委員となり、次で取締役推舉せらる、亦君の製造する蠶種は春秋とも無毒優良よし、常に需用者の稱讚する所たり、君は終生を擧げて蠶業の改良發達に貢献するの決心を以て、着々多年の抱負と經驗とを實地の上に施行して、衆人を啓發すると頗る多く、其功や眞に没すべからざるものあり、君本年四十四歳、着實温良の人なり、邸宅は安中停車場を距る僅かに五十町の所あり

製糸場 新町山十組

山十組製糸場は多野郡新町にあり、蒸氣機關五百人取の設備にして明治二十八年の創立に係り、信州諏訪の人、小口村吉氏の經營に屬し、増澤源三郎氏の主管する所、縣下第一の大製糸場たり、其敷地一万餘坪、建坪二千餘坪を算し、五百人の工女を收容する整々たる工場と寄宿舎とを主とし、繭貯藏庫あり、乾燥場あり、機關室あり、事務室あり、文書庫あり、其他系藏、穀庫、屑物庫、食堂、病室、味噌漬物貯藏庫、物置等に至るまで結構堂々、秩序整然、其の設備の完全なる真に現代の文明的大製糸場と云ふも決して過言にあらず、其の一年の産額は優に千三百捆の上に出で、其の商標の金星、銀星及び地球印は現に横濱市場を濶歩して優良生糸の名遠く海外に聞ゆ、由來新町は上毛の一小僻地に過ぎず、而も況く世人に識られ天下に紹介せらるゝもの、實に山十組製糸場と絹絲紡績會社との存在に依る、同地方幾万の民衆が、此の兩工場に負ふ所、蓋し亦多大なるかな



新町山十組全景

榛名風穴合資會社

明治三十六年の創立にして群馬郡箕輪村大字矢原にあり現下の社長たる同村戸塚五郎作氏が東京蠶業講習所長の指導に依り有志五名と結社し設置せるものにて預托者頗る多し蠶種の入穴は一月下旬より二月下旬を以て好期と爲すべく預托者は此期を失はざらん事を要すと四十二年東京西ヶ原蠶業講習所夏秋蠶部長實地踏査せられ大に良穴なる旨賞讃せられたりと云ふ而して同所は前橋を四里伊香保より一里餘にして一日の清遊に頗る好適の地なり



榛名風穴貯藏庫全景

蠶業家 山鹿亮作君

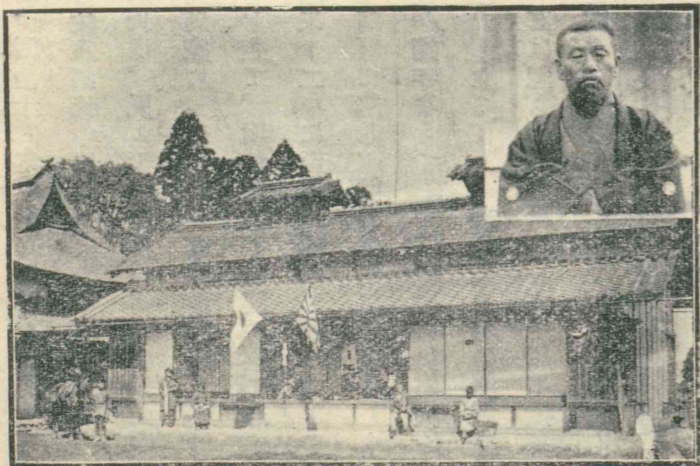
山鹿亮作君肖像



君は、新田郡世良田村大字徳川郷の人、明治七年九月を以て生まる、代々農蠶を業とし又蠶種の製造を爲すと久し、君天性勤勉として幼より蠶業を好み、自から蠶業研究の爲め武州競進社木村九藏先生の門に入り一意専心養蠶術を學びし結果、今や技術大に熟練して年々歳々製造する所の蠶種は、到る處非常の好成績にして業務年と共に盛大を致し、君の製造に關はる又昔、白玉の二種は一般需用者間に厚き信用あり、而して君の居宅は境、尾島、兩町共に僅かに卅町を距る交通至便の地あり

蠶種家 茂木平内君

君は新田郡世良田村大字出塚の人、幼より蠶業に熱心として夙に斯業の盛衰が國家經濟上に迨ぼす影響の甚大なるを想ひ、奮て蠶業の爲めに一身を貢獻せんことを期し、競進社に入り孜孜として業務を研究勵精し、大に得る所あり、亦良蠶種を得るの必要に逼まれ自ら之が製造に腐心し、明治廿八年蠶盛館と稱する蠶種製造所を起し、専ら之れに従事せり、而して其製産の種類は一化性青熟、改良白玉金城又昔の三種にして普通平附及び框製となし、是を諸方に頒布し無毒の優良蠶種として到る所稱讚を博し、製造高は年を趁ふて増加せり、四十三年名古屋大共進會に爾及び蠶種を出品して賞状並に賞品を授與せらる、君の抱負は國家のため益々蠶業の改良發達を謀り徒に私利を耽らすして普く世人と共に其福利を收め、以て國利民福を増進せんとするにありと、豈稱讚すべきことならずや、君本年五十六歳元氣益々旺盛なり、君の家は東武線木崎驛へ二十丁境驛へ一里交通頗る便利なり



茂木平内氏肖像及蠶室全景

徳江製糸場

徳江製糸場は佐波郡伊勢崎町にあり、蒸汽機關五十人取の設備にして、明治十二年の創立に係る、現主人徳江氏謙遜の徳高く、功を悉く先考八郎氏に譲るを以て、茲は創業者たる故八郎氏の畧歴を叙する事とせり

故徳江八郎氏肖像



徳江八郎氏は、夙より生絲貿易の前途に多大の望を屬し、身は農家に生れしも、商工業家として社會に雄飛せんと企て、明治三年より製絲業に志し、種々苦心の結果十二年に至り、始めて廿四人取の製絲工場を伊勢崎町に起し、熱心營業に従事せしも、不幸にして僅か期年ならずして、祝融の災に罹り多大の損失を來たしたるより、親戚知人等の極諫したるも不拘、君は忽ち工場を再築して不屈不撓多年種々の艱苦と闘ひ、其晩年の隆昌は個人經營としては恐らく縣下第一と稱せらる、君又横濱同伸會社設立者の一人として、生絲貿易の發展に盡瘁し、亦養蠶製絲の改良發達に貢献する所不尠、官數々其功勞を賞し、明治廿五年遂に綬綬褒賞を下賜せらる、又曾て其生絲を内國勸業博覽會、共進會、品評會等より出品して受賞せしと實に枚擧し遑あらず、要するは、君の如きは終生を擧て蠶業の爲めに鞠躬努力したるものと謂つべく、傳へて當主に至り其名聲の噴々たる業務の盛大なる、豈偶然からんや

甘樂社長 山口太三郎君

蓋世の英雄奈翁がプロメンの兵學校含ま在りし日に於て、誰か彼を以て後年歐州を席捲する快男兒と想はんや、三河の一小寺院に日夕軍談を寺僧に聽きし一少年が他日將軍の顯職に登り、日本全土の政權を掌握するを思はんや、境遇は人を造り、人亦境遇を作る、有名ある甘樂社の社長として其名聲赫々たる山口太三郎君が、身を小學校の教師より興し、遂に今日の位地と名望とを贏ち得たりと聞かば、誰か駭然として異様の感よ打たれざらんや

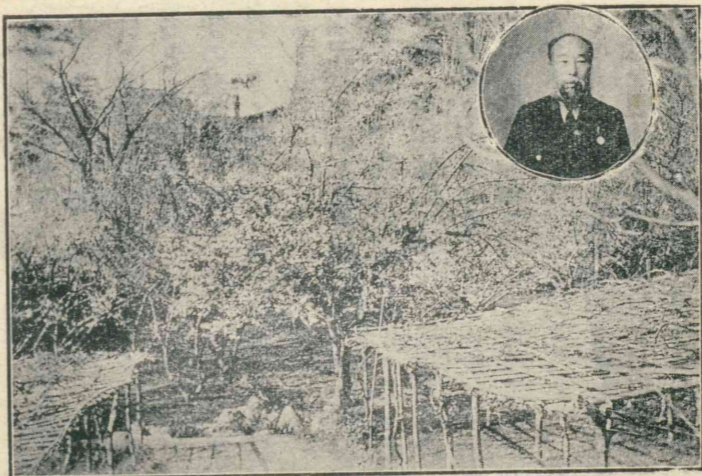
山口太三郎君肖像



會社南蛇井組を組織して其組長となり、専心製糸業の改良振興を圖り、廿八年甘樂社の副社長となり、次で社長に推薦せられ、明晰なる頭腦を以て事務を整理し、機敏なる手腕を以て社業の發展を期し、克く衆庶の信望を負ひ以て今に至る、甘樂社をして其の今日あらしめしもの實に君の功績に歸せざるべからず、是を以てか官數々其功勞を嘉賞し、特に紅白綬有功章を賜はる、君の光榮も亦大なるか

鈴木城作君

君は本年六十歳北甘樂郡一之宮町字宮崎町に
住す此地の名家にして世々豪農たり又養蠶を
以て鳴る、製絲は甘樂社に組し目下同社の理事
たり、君は宅地内に古くより栽培の梅園を有す
春時此處に杖を曳くもの多し、縣に知事たるも
のにして此の梅園に遊ばざるものなしと幽邃
閑雅にして一度斯園に遊ばば身仙境にあるの
惟ひす、君は資性謹直にして幼より學を好み漢
籍を涉獵す又公共心に富み、橋梁、教育、資を
投じて町治に補給すること多し爲め其筋よ
り受賞せし事數回なり



鈴木城作氏肖像及梅園全景

玉糸製造業 久保田常吉君



久保田常吉君肖像

君は安政元年勢多郡富士見村大字時澤村に生る、家
代々農蠶を業とせしが君は壯年にして夙に時世の變
遷に鑑み工業を以て副業とあさんとを期し明治十二
年を以て玉糸製造を開始したり、爾來其需用は益々
増加するを以て君も亦漸次業務を擴張し十五年より
釜掛けを始め、其産出額を激増し、傍ら苦心改良を
加へサゲよりチヅリとかし到る所需用者の稱讚を博
し、斯くて幾多の星霜を閱し、數多の波瀾を経て、
益々大成の域に進み猶改良の功を積み、三十五年よ
り長手造りとなし、名聲彌々高く曾て山梨、長野等
の共進會に出品して、褒賞を授與せらる、此の如き
は玉糸に在りては眞に異數に屬す、以て如何に其優
良あるかを知るは足らん、遠近の機業家にして君の
名を知らざるものなく、其福面の商標が今日市場の
歡迎を受くるもの決して偶然にあらず、君の如きは
實に同業者間の元老たり、成功者たる人なり

蠶業家 輿水陽三君

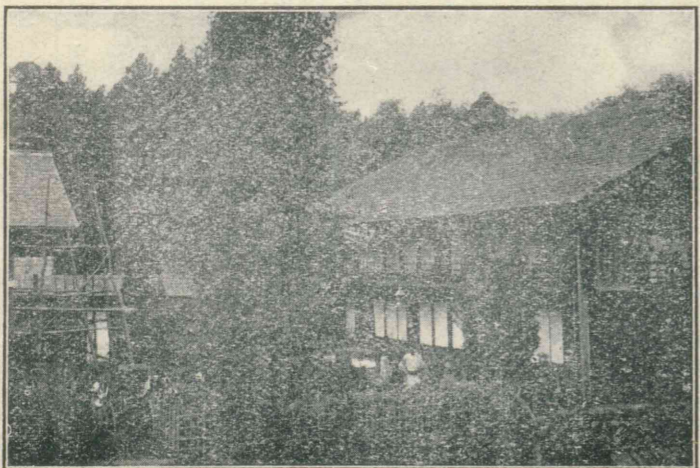
輿水陽三君肖像



君は嘉永六年三月、東京市京橋區本八丁堀二丁目五番地に生る、資性温厚篤實にして人に接する上下の隔なき頗る圓滿の人明治八年新町紡績工場工事監督として農商務省勸業寮より派遣せられ、全拾一年工事竣工せるを以て監督解任の後君は新町に轉籍す明治拾五年本縣下有志の改良會社創立の舉あるや、君は多野郡地方を代表して全社に入り専ら社務を執掌して内外に信望あり、明治十八年藤岡町に蠶業改良高山社の設立せらるゝや、君又社員となりて自ら蠶業を研究し大に郷黨を誘導して斯業に貢献する所極めて大なり、明治二十二年四月新町々會議員に舉げられしを初めとし、同町助役、多野郡會議員、群馬縣地方森林會議員、三等郵便局長等の職に従事して克く其職責を全ふせしは深く他の敬服する所よし、現は新町々長として熱心町治に膺り上下の信望愈々厚し、君の如きは單に蠶業界に功勞の大なるのみならず、公は、私に、社會の爲め貢献する所大なる人と謂ふべし

蠶種家 鹽原總平君

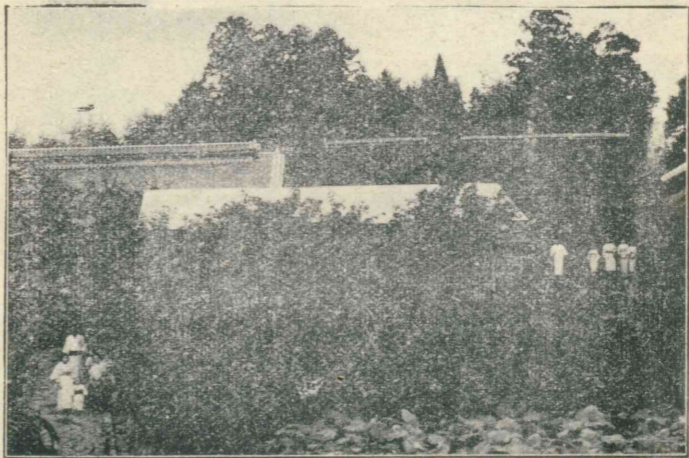
勢多郡南橘村大字田口村は古より蠶桑の業に好適の地、而して同村の蠶種は成績の良好なるを以て遠近の需用者日よ月よ増加し、今や田口の又昔は本邦到る處の蠶業地に於て賞讃せらるゝは勿論、遠く海外にまで其名を博するに至れり、君は祖先より農桑を以て業とせしが、偶々君の養蠶の年々歳々良好なるを見て製種を望むもの多きに際し、明治十一年初めて蠶種の製造に着手す、然るも多年の熟練せる手腕と、氣候風土の恰適せるとは幾年からずして、需用者の信用を博して今日の隆盛を見るに至れり、君は單に養蠶術に熱心なるのみならず、又桑園改良の大熱心家にて温厚にして實直なる實業家なり、君の製産は亦昔、風穴亦昔の二種の他數種の試験種を飼育せるも、其理想とする處は即ち又昔なり、安政二年の生れ、前途益々有望の蠶種家と稱すべし、君又刀川組合員たり



鹽原總平氏蠶室全景

蠶業家 高橋桂三郎君

君は勢多郡南橋村大字田口村の人、安政六年の生れ、家代々農蠶を業とし明治十一年初めて蠶種の製造販賣を開始す、君幼より蠶業を好み大に桑園の改良養蠶の研究に苦心する所ありし結果は、蠶種の成績も亦非常に良好にして忽ちよして今日の如き隆盛を致せり、而して君は刀川組合の副組長として大に信用ありて、製産の蠶種は亦昔、青熟にして到る處成績佳良あり、君は資性着實よして勤勉斯界の信望頗る厚し曾て第三回内國勸業博覽會に出品して有功二三等賞を授與せらる。



高橋桂三郎氏蠶室全景

蠶業家 岩瀬麗策君

君は北甘樂郡一ノ宮町大字宮崎の人、安政元年十二月を以て生る、爲人、温厚よして着實、明治八年宮崎學校保護役申付らる、同十三年二月學務委員に當選認可、同十五年八月北甘樂郡第三區學務吏員となりしを初め、宮崎衛生委員、聯合町村會議員、戸長役場用掛、衛生組長、一ノ宮役場收入役其他の公職にありて克く公共の爲に盡瘁する所ありて信用頗る厚し、而して君又幼より産業の奨励に力むる所少なからずして、即ち北甘樂精系組合長として生糸製産の業を奨励し、地方斯業の啓發を圖ると明治二十年より實に十ヶ年間の如く、大に製絲業の進歩發達に貢献するあり又明治二十八年一月より三十一年迄北甘樂蠶業社長として斯業に盡瘁し、更君の經歷として特書すべきは、君は二十九年より四十三年六月まで、甘樂社の取締役として最も正義に、最も誠實に社業の爲め奮勵すると實に拾有五年間、君の如きは實に製絲界の功勞多大なるの他、一般の公私事業も亦多大の貢献ある人と謂ふべし。



岩瀬麗策君肖像

蠶業家 黛 孝七郎君

君は碓氷郡安中町の人、夙に蠶桑業の進歩發進を熱心に唱道し、安中附近の産業は其風土、地勢の關係上桑樹栽培、養蠶飼育の他は無きを認め銳意之が發展に意を注ぎしが、蠶業の術未だ研究の中途ありし往時に於ては、



像肖君郎七孝黛

斯業者として失敗を招くもの少なからざるを以て、一時農家は養蠶を以て一種の危険なる事業と爲し、或は蠶桑を廢して再び農業に歸復するの傾きあるより、君大よ之を憂ひ明治二十三年郷友數名を説きて武州競進社に入らしめ、親しく木村社長の飼育法を研究せしめ、更ニ教師を聘して一般婦女にも其飼育術を修得せしめたる結果、幾ならずして同地養蠶の成績頗る良好となり、農家は翕然として養蠶業に傾くに至れり、君の地方蠶業に盡せし功や益し大なりと謂ふべし、加之、君は明治三十九年より蠶種製造を始め、幾多の經驗と苦心の結果、土地及氣候の關係上春蠶種製造の適せざるを知り、専ら風穴秋蠶種の製造を爲し之を各地に配布せしに、偶々氣候不良なる年柄に際するあるも君の秋蠶種は到る處に好果を收め創業日向淺きにも不拘秋蠶種製造家として其名斯界に高く、隨つて其の製産額も亦逐年の遞増を呈しつゝあるの他、君は製絲事業の有望なるを覺り、明治二十八年碓氷社扇城組を設立して之が副組長に選ばれ、大に斯業の發達に盡瘁すると十數年、君の如きは蠶業の獎勵者として又蠶種製造者として、更に製絲業者として我が蠶業界に多大の功勞ある人と謂ふべし

蠶種家 淡島 糸藏 君

淡島家は遠く明治十年より蠶種の製造を業とし、君又幼より斯業を好み熱心之に従事して大に貢獻する所あり、資性極めて着實よして丹精、一度び蠶種製造に熱心するや、爾來其全力を實業に傾注して他は何等の求むる所なく、現に衆望に依つて推されし公職の如きは其總べてを固辞す、君は常に蠶業傳習生を養成し、之を各地に派遣して斯業の發達を圖り、又進盛組合なるものを組織し共同催青を爲し、其他に蠶種の豫備掃立をなして組合員が稚蠶期に於ける萬一不慮の場合に備ふる等、地方蠶業の爲め盡す處又大あり、明治二十八年未だ他村に農會の設け無き時代に、君率先して村農會を組織して農事の改良進歩を計り、明治三十一年君又製糸改良の忽諸に附すべからざるを覺り、碓氷社揚返所を設立し生絲の製造を獎勵する所あり、明治四十二年更に從來の座繰製糸を廢して器械繰糸を改良する利を覺りて、蹶然器械製糸所を新

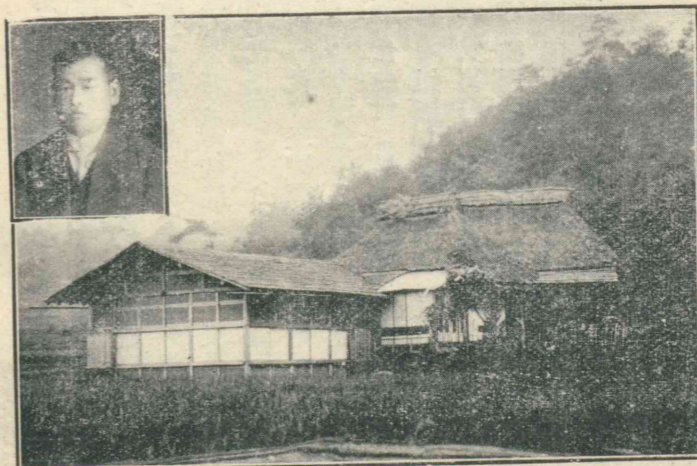


像肖君藏糸島淡

設して優良生糸の製絲に力むる事となりぬ、今の向坂生産組合なるもの即ち是なり、君又推されて組合長となる而して現今君の製造に關する春蠶種は又昔、青熟の二種よして、他に風穴種、青熟中集、青熟等あり、君曰く、微粒子病の増加を防ぐ唯一の方法は數ヶ所に分場飼育を爲し、發蛾催進器を求て該病の検査を行へ、無毒のものを製種して風穴種と爲すありと、君年五十二歳、前途又大に多望多事、居宅は高崎、澁川間の電車道三ツ寺驛より僅か三町

蠶種家 田中卓治君

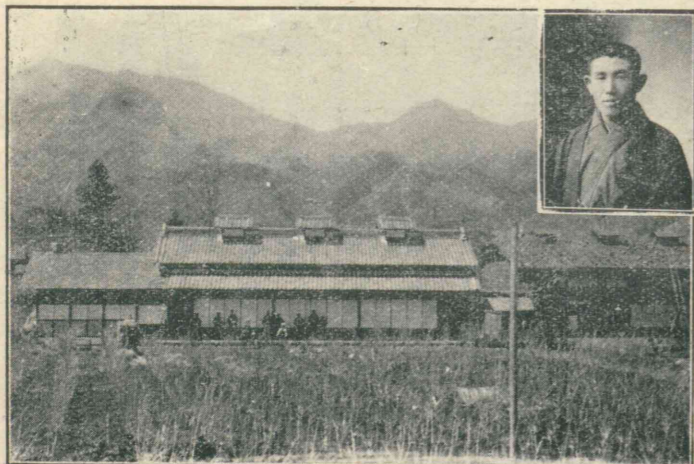
君は群馬郡室田町の人、明治七年の生れ、天性機敏にして時運の推移も着目し、専ら機業及蠶業に志し、明治二十五年より蠶業及び蠶種の販賣を開始し、殊に二化生蠶種は其本場なる信州安曇筑摩各郡より出張し、具さに該地の實況を踏査し、其完全無缺の良種を購入し、之を縣下の各地に配布し、今や一ヶ年の取扱高實に數千枚の多額に達せりと謂ふ、其他機業も亦各地に分工場を設けて益々斯業の發達に盡しつゝあり



田中卓治氏肖像及蠶室全景

蠶種家 恩田彦太郎君

君は甘樂郡馬山村大字馬山の人なり、家世々農蠶を業とす、君も亦頗る熱心家として十六歳の時より母を輔けて養蠶、從事し、刻苦勵精、衆青年の好模範たり、年々掃立蟻量八十、夕結繭三百二十貫、夕を收む、村内屈指の大養蠶家あり、君は苦心研鑽、多年蠶業の改良發達に就て、企畫し、自邸を以て競進社の第廿三支部となし、躬ら生徒を養成し、懇切教導して、年々卒業生を出せり、君亦傍ら蠶種製造を業とし、其製出高四千枚餘を算す、其種類は春蠶優等白玉、媛蠶、又昔、伊達錦等として、秋蠶は白龍一種なりとす、何れも無毒優良、蠶兒頑健、飼育容易、て、收購は多額の絲量を有し、爲めに需用者の讚嘆措く能はざる所なり、茲を以て其信用益々厚く、遠近相傳へて、蠶種の頒布を請ふもの年を趁つて多しと云ふ、君の如きは實に老練なる當代の蠶業家と謂つべし



恩田彦太郎氏肖像及蠶室全景

繭絲業 佐藤佐太郎君

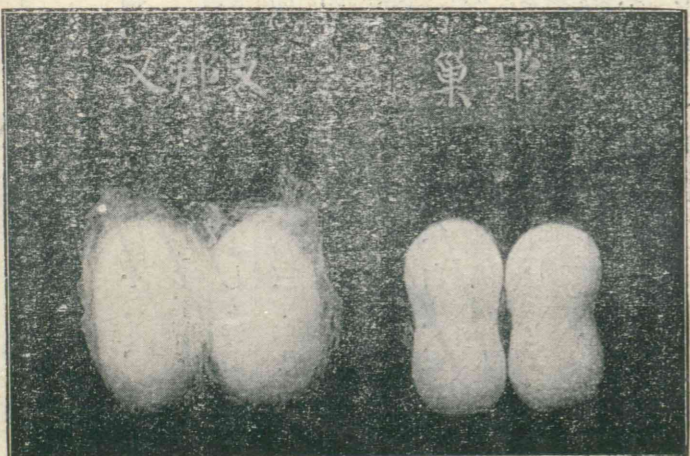
佐藤佐太郎君肖像



君は多野郡新町の人なり、幼にして聰明穎才嶄然頭角を群童の上より現はせり君夙に宇内の大勢を鑑み實業家として現代に雄飛せんことを企て生絲貿易の前途に多大の望を屬し爾來繭糸業を營み拮据勉年々業務を擴張し各地の製糸會社の繭買次ぎを爲し常に誠心誠意全力を傾注して事々膺るを以て其信用年々共に厚く明治三十五年より専ら原富岡製糸所の原料繭買入を爲し引續き今日に至る君の經歷を問ふ者あるも謙遜して亦多くを語らず然れども君は繭絲業者として多年幾多の艱難を遭遇しあらゆる苦心研鑽を積みし老練家あるとは一度ひ君に接せし人の皆知る所なり故を以てか斯業に關係ある者新町に赴けば必ず先づ君の店舗を訪はざることなしといふ以て如何に其の名聲の噴々たるゝと商業の繁榮なるかとを知るゝ足らん

蠶種家 柳澤芳太郎君

君は碓氷郡磯部村の人なり、家代々農蠶を業とす、君も亦熱心なる蠶業家にして年々の收繭額三百貫多餘より上り、而も品質極めて優良なりといふ、君は壯年の頃より盛に蠶業の改良發達を就て盡力する所あり、曾て國家のために未開の地に蠶業を開發せんことを企て、單身神奈川縣下より赴き高野郡、中郡、足柄上郡、鎌倉郡等の農民を勸奨して、始めて同地方に蠶業を起し、一身の利害を度外視して、衆庶の爲めを謀り誘導扶掖するに盡すを以て、今に其高德を稱せらるゝといふ、合息直次郎氏も亦父君より譲らざる斯業の熱心家にして、多年苦心研鑽斯道の爲めに貢獻する所不尠、兩氏亦深く蠶種の製造を研究し、年々多額の蠶種を諸所に頒布し、優良無比の良種として大に需用者の稱讚を博せり、其製造に係る蠶種は春蠶もありては、中巢、支那又、櫻姫、又昔、秋蠶は國一、大和錦等なりとす、君本年六十九歳功成り、名遂げて、業を令嗣に譲られたるも、猶獨精百事を統御せらるゝといふ、豈尊敬すべき斯道の先輩にあらずや



柳澤芳太郎氏標準繭

蠶種家 田子芳太郎君

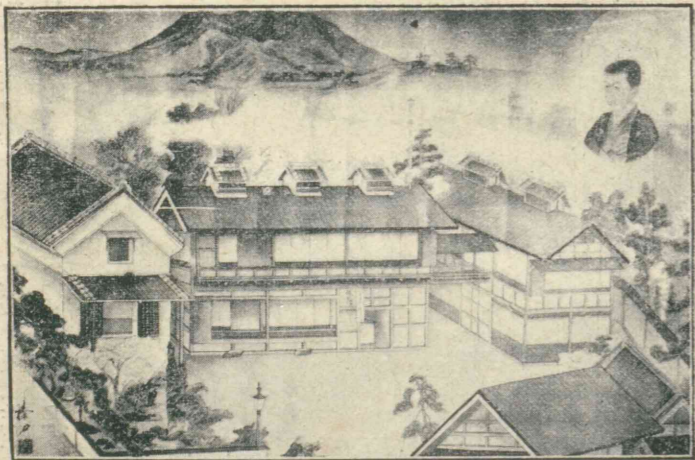


君は慶應三年を以て生る、勢多郡桂萱村大字片貝村石倉與五郎氏の三男なるを以て、出て、同郡南橋村大字日輪寺村なる田子家の養子たり、君資性豁達夙に蠶業の改良發達に意を注ぎ多年研究の結果自家用蠶種の成績が累年無毒優良にして好果を收むるより遂に其筋の勧誘に應じて明治三十年より、盛に蠶種製造を開始し之を諸方に頒ち、至る所成績佳良結繭優等の聲譽を博せり、其製出に係る蠶種は春蠶種、伊達錦、亦昔、又昔、風穴、白玉、五大州外試験種數種なりとす、君は頗る着實温和の人にして、誇大に吹聴して虚名を街ふが如きは斷じて君の爲さざる所にして、眞に實事に實行して常に美果を收むるを以て、衆人の信用殊に厚し、君の家は前橋より電車にて北行一里、荒牧停留場を距る僅か三丁交通至便の地にあり

田子芳太郎君肖像

蠶種家 高橋定吉君

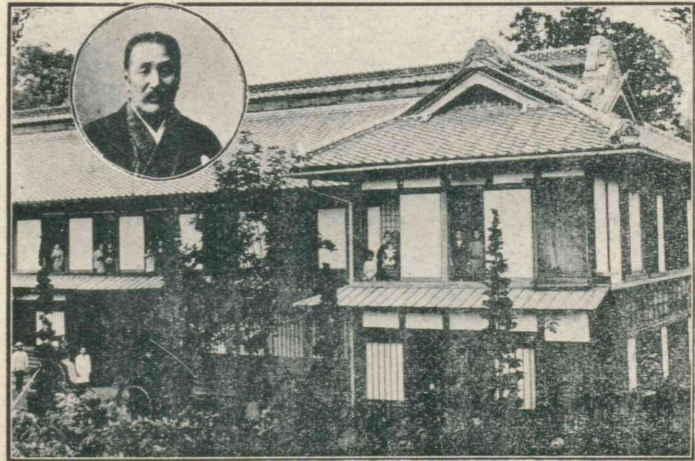
君は群馬郡駒寄村大字大久保村の人なり、弘化三年より三代繼續して蠶業に従事し、君亦熱心蠶種の改良發達を圖り、始めは白姫種を精選し大に名聲を博せしも、時世の進歩は年々蠶種統一の聲を大ならしめ、君亦此の趨勢に應ずるの必要を認め新に又昔を製造し之を試育せし大に好成绩を得たるを以て、年々多額に製出して之を各所頒ち、優に蠶種の名至る所喧傳せらる、現時君の製造に係る蠶種は、白姫、又昔、朝鮮、角又等として何れも春蠶種のみにして平製框製の兩種とす、曾て長野縣に開催の聯合共進會其他各地の共進會品評會等に出品して褒賞を受くると實に枚擧に遑あらず、君は現に群馬蠶業同盟會理事、駒寄生産組合理事の要職にあり、公衆の爲めに盡力する所不尠、君年齒三十七前途遠頗る有望の蠶種製造家なり、君の家は前橋市を距る東北二里弱の地点にあり



高橋定吉氏肖像及蠶室全景

蠶種家 鹽原佐平君

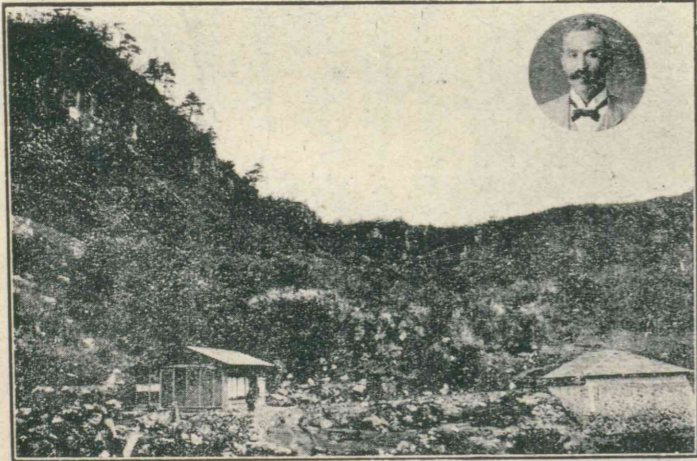
日本の蠶種を談ずるものは必ず上州の蠶業を語るからん、而して上州の蠶業を語るものは又必ず鹽原佐平君を説かざるは無かるべし、君は勢多郡南橋村大字田口村の人、資性温厚にして篤實、幼にして父を失ひ祖父権右衛門雄先生の門に入り劍道を修め遂に斯道の蘊奥を極む、其他公共事業細民救恤等に就き大に盡す所ありて信望愈々加はる、明治十二年蠶業の國家的事業なることを唱道し、地方農民をして栽桑養蠶の業を勸誘し、更に同村人鹽原萬平氏と謀りて共同推蠶飼育場を設け、蠶兒の二眠に至るまで飼育して之を農家に配付せしに成績頗る良好なるより、十四年之を養蠶試験所と改名して大に其規模を擴張す、而して之が收購を蠶種製造して各組員及び一般需用者に配付せし所、其成績愈々優良にして同地の蠶種が世に今日の如き大歓迎を受くるに至りしものは、其遠因蓋し此處より起りしなり、君は其間於て幾多の災難と戦へしも、始終一貫克く初志を貫徹して蠶業界の大偉人となりしもの、之れ實に君の天性の敏明あると、志氣健全なりしに因るものにして、寔に敬服すべき人たるなり、今や鹽原亦昔の名譽は獨り本邦の蠶業界のみならず、遠く海外にまで轟くに至りしは是れ實に君の名譽と謂つべし、君の製産に關する蠶種、蠶繭にして博覽會、共進會等に出品して受賞せしとは殆んど枚擧に遑あらず、女婿滿平氏又克く君の主義を守りて忠實と正義を旨として蠶業に奮勵す家運鹽原亦の名と共に愈々隆盛を致せり



鹽原佐平氏肖像及蠶室全景

東谷風穴合資會社

圖は即ち吾妻郡中之條町大字伊勢町にある、東谷風穴合資會社の經營に關する風穴、及び其社長奥木仙五郎君の肖像にして、風穴の所在地は吾妻郡名久田村大字大塚村字東谷にありて中之條町を距ると一里二十三町の地にして海拔約二千四百尺の地ありて、東谷山の北腹に位せる最も高燥の地にて、之に斯業専門の技術者諸士の設計を以て設備せしものにして、即ち天然の適地に巧妙なる人工を加へたる理想的蠶種貯藏所なり、而して今同所庫内の平均温度を示せば、一月二十八度、二月二十八度半、三月二十九度、四月三十度、五月三十一度、六月三十二度、七月三十三度、八月三十四度、にして、如何に蠶種貯藏庫として安全なるかは以上の温度に依つて知るを得べし、而して同社の社員は、群馬郡澁川町堀口藤造、全郡駒寄村大字漆原柴崎大太郎、全郡金島村大字南牧茂木清一郎、勢多郡敷島村大字津久田狩野逸平、吾妻郡東村大字新巻奥木仙五郎、全郡中之條町劍持源吉、全郡原町小嶋七平、全郡岩嶋村大字岩下片貝岸郎、全郡伊勢村大字蟻川蠟川伴次郎、全郡伊勢町小池彦平の諸氏にして、基礎堅牢として取扱極めて親切なりと謂ふ



奥木仙五郎氏肖像及風穴全景

繭糸業 上野宇平君



上野宇平君肖像

君は甘樂郡富岡町の人慶應三年を以て生る幼年より商業を好み製糸業か逐年長足の進歩を爲す。拘はらず世人が未だ熨斗、生皮等々の屑物の利用法を知らず従て其價值は知らざる時に於て君の炯眼は早くも之れに注ぎ試に購入して横濱市場に送り輸出を企て其目的を達し始めて屑物の眞價を世に紹介せしが如きは君の経歴史に於て特筆大書せざるべからず君は頗る商業に熱心として一面に於て繭及び生糸の賣買に従事し其商機を捉ふるの機敏なる數々奇利を博して同業者を驚嘆せしめしとありと云ふ斯くて多年の星霜は幾多の波瀾を繰り返し君の商業は益老熟の域に進み業務は年と共に發展し今や同地方に於ける斯業界の重鎮たり君亦現に町會議員として町政に參與し公共の爲に盡力する所尠からず信用最も厚し

蠶種家 鹽原英三郎君

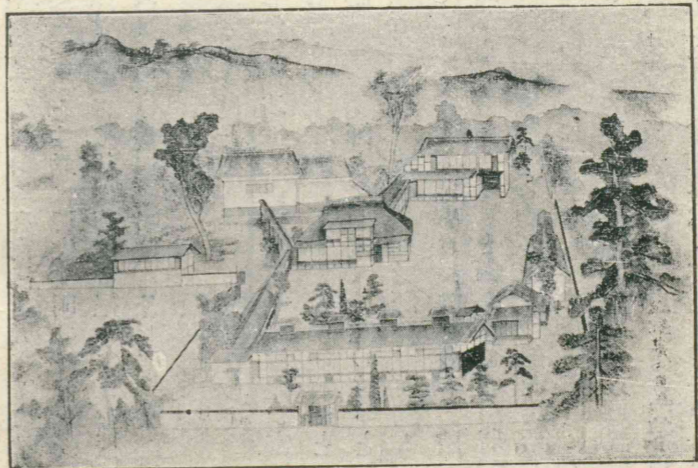


鹽原英三郎君肖像

君は明治六年を以て勢多郡南橋村大字田口村に産る家代々農蠶を業とす君は現代文明の教育を受け新空氣を呼吸せしを以て徒に舊慣を墨守するを厭ひ身を挺して蠶業の改良發達を唱道し廿七年農商務省蠶業試験所に入り具に研究の功を積み歸來群馬縣蠶業組合の蠶種検査員となり能く其職を盡し其後本縣を始めとし長野、埼玉、山梨、三重、滋賀、宮城、廣島等の各縣に涉りて或は養蠶傳習所の教師となり或は蠶業講習會の講師となり或は縣廳の技手となり或は蠶種検査員となり或は養蠶教師とあり到る所才能を發揮して衆人の尊敬を買ひ中には金盃を贈りて君の功勞に酬るし地もありしと云ふ以て君が斯業に就て造詣の深きを知るべし此の如く南船北馬殆んど寧日なく斯業の爲めに貢献せし君は今や郷里に在りて數年前より模範的良蠶種を製造して大方の需用に應じ其亦昔、又昔の如きは成績の良好なる天下無双と稱せらる、君は前途猶春秋に富めり將來の大活動期して俟つべし

蠶種家 氏家巳之吉君

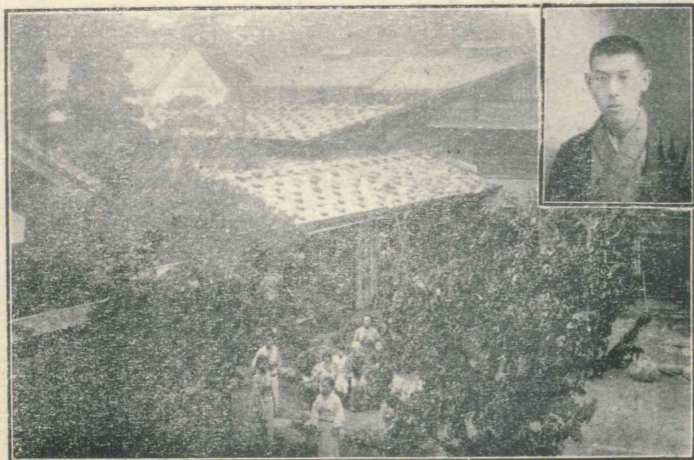
君は多野郡美土里村大字篠塚の人なり、家世々農蠶を業とす、君壯年より一意専心蠶業に熱中し、明治十九年高山社員となりて深く蠶業を研究し、二十年蠶種製造を開始し頗る好評を博せり、廿四年授業員となり、亦自邸を以て高山社分教場となし、生徒を養成し、懇切誘導至らざるなく真に良教師の名あり、君亦養蠶經濟の道を攻究して閩人を啓發し、蠶業の改良發達を熱心に唱道し、斯業に貢献する所尠からず、君の製造に係る蠶種は傳來の春蠶又昔よして蠶兒強健、飼育容易成繭極めて優良なるより、遠近相傳へて之が頒布を請ふもの年と共に増加し至る所稱讚を博せり、君年齒未だ不惑に達せず、前途の發展蓋し著しきものあらん、君の家は、新町停車場より約一里半の地にあり



氏家巳之吉氏蠶室全景

蠶種家 島田金一郎君

君は碓氷郡安中町大字下之尻の人にして家世々大庄屋を勤めし豪家なり君幼より學を好み小學校を卒へて東都に遊學し慶應義塾に入り汝々螢雪の功を積み好成绩を以て卒業したるも彼の學校出身者の常として或は官途に就き或は銀行會社等の雇員となりて月給に衣食するの流弊に染まらず學術を蠶業の實地に活用して大に斯業に貢獻せんと欲し直に故郷に歸りて農蠶に従事し山野を開墾して桑園を起し桑樹を栽培し其繁茂の狀實に郡中第一の評あり、君亦刻苦勵精蠶業の改良發達を圖り衆人を啓發せし事尠からず亦蠶種製造に従事し春蠶又昔、伊達錦、其他數種あり皆無毒優良なり殊に風穴五。大州に至りては君が始めて本縣下に輸入し製造したるもの其精良なる實に天下一品の稱あり、故を以てか蠶種の頒布を請ふ者逐年増加し信用頗る厚く名聲噴々たり君年齒未だ不惑に達せず爲人温良恭謙眞に好個の良蠶業家なり



島田金一郎氏肖像及蠶室全景

蠶種家 折茂純一君

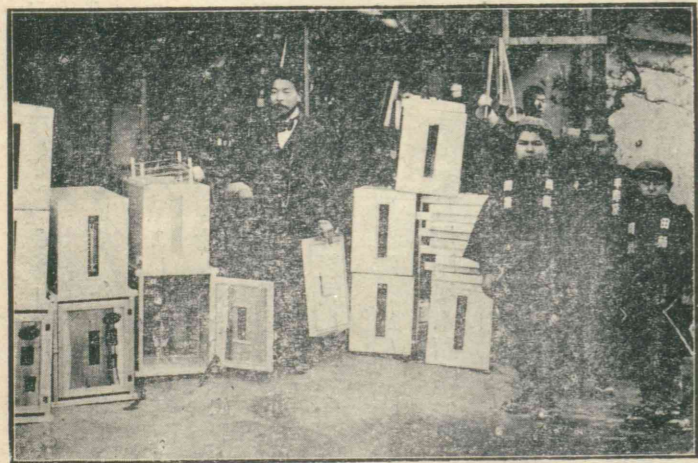
折茂純一君肖像



君は多野郡美土里村の人なり、君の祖先は元祿年間より蠶種製造を開始し數代連綿相傳へて君に至る、實に本縣下否日本國中鏘々たる古參蠶種家として、開港當時の全盛の如きは今尙世人の記憶に存する所なり、其後幾多の艱苦に遭遇し、聊か衰運に傾きしも、明治廿三年君の業を繼承するや、高山社に入りて熱心研鑽の功を積み、爾來苦心奮闘の結果は忽ちよして業務を挽回し一層の盛大を來せり、君の如きは眞に名家の繼承者として能く祖先の光榮を辱しめざるものといふべし、今や其製造に係る春蠶、又昔改良又昔、青熟の三種は、其優良無比天下第一と稱せらる、曾て内國勸業博覽會、共進會、品評會等に出品して受賞せしと枚舉に遑あらず、君亦自邸を以て高山社分教場となし生徒を養成せり、四十三年原富岡製糸所の監督巡廻員と爲りて各地に出張し、到る所英名を擧ぐ、君年齒未だ不惑を踰へしのみ、前途の發展期して待つべきなり

蠶種家 都丸福次郎君

君は勢多郡敷嶋村大字猫村の人、爲人、聰明にして温厚、幼より蠶業の國家的事業なることを信じ、明治拾八年自から蠶業に従事し、後ち二十八年より三十五年迄本縣蠶種検査員として克く其職責を盡し而して君又明治三十一年より春蠶種製造を開始し、三十五年に至り本縣内多額蠶種製造者となる、更よ三十六年度より二化性一化貯藏種を製造し成績頗る良好にして逐年の製産遞増は、今や本縣内第一の多額製造者となりて當局者より風穴蠶種製造王の名銘を下さるゝに至れり、君は單よ蠶種検査員として、克く職責を全ふし、蠶種製造家として熱心克く今日の隆盛を見しのみならず、我が國蠶業界の催青法が未だ完全せずして、獨り蠶の豊凶に關係あるのみならず、其手数、其冗費、其危険謂ふべからざるを憂ひ、明治三十二年より如何にしてか輕便なる催青器を發明し、一般蠶業界に於ける如上の弊を救はんとして、苦心慘澹の結果は空しからず、五ヶ年の後初めて實用輕便蠶種催青器を發明し、三十九年特許新案登録濟となりて本縣下は勿論、愛知、嚴手の兩縣下に支部工場を設け、殆んど全國到處に供給しつゝあれど、其成績の良好よして使用の簡便なる蓋し本邦催青法中の第一と稱せらる、君の製造する蠶種は春蠶種は又昔改良よして一升二百六十粒形状、織度、光澤共に善美、秋蠶種千代鶴又君の特産にして名聲既よ遠近に噴々たり、君年齒四十四歳、漸やくよして老熟の域に入る、寔に蠶業界の功勞者と賞すべし



都丸福次郎氏催青器工場全景

高橋茂太郎君肖像



蠶業家 高橋茂太郎君

君は多野郡日野村の人にして高山武十郎氏と共に有名な高山社の副社長として、令名噴々たり、君は當代稀に見る蠶業の熱心家として、夙に其改良發達を唱道し山野を開墾して桑園を拓き、盛に桑樹を栽培して其繁茂の狀人の羨望する所たり、亦自邸を以て高山社分教場となし生徒を養成し、年々多數の卒業生を出せり、其傍ら蠶種製造を爲し優良無比需用者の驚嘆する所たり、君は明晰なる頭腦を以て誠實事より、高山社の今日ある君の力も亦與つて多大なりと言ふ、故を以て群馬縣農會大日本農會等より名譽賞狀を贈與せられ、又曾て蕪及び蠶種を内國勸業博覽會、共進會、品評會等に出品して受賞せしこと枚擧し遑あらず、君年齒知命を過くると僅かに一歳、多年の研究を實地に應用して益々斯業の爲めよ貢獻せらる、其効や蓋し大なりと謂ふべし

福島信太郎君肖像



蠶業家 福島信太郎君

君は群馬郡惣社町大字高井村の人なり、幼名を和藏と稱し、長して父の名を襲ぎ信太郎と改む、家代々農蠶を業とし村内屈指の大蠶業家たり、君又幼より熱心斯業を研究し蠶種製造を開始し之を遠近に頒布せり、其製出の蠶種は春蠶、又昔、中又、原又の三種よして其優良なるは一般需用者の稱讚する所、曾て毎回の内國勸業博覽會を始め、各地の共進會、品評會等に出品して賞狀賞金を受領せしと一々枚擧し遑あらず、君本年四十七歳剛途の發展蓋し著しきものあらん、君の邸宅は前橋市を距る西北一里半、其構造極めて宏壯なり、現任惣社町々長福島庫之助氏は實に君の叔父なりといふ

蠶業家 神谷周吉君



君は群馬郡惣社町の人、安政元年八月を以て産る、明治十二年より蠶種製造を開始し、一時中絶せしとあるも四十一年より更に大に良蠶種の製造をなし是れを諸方より頼り、君は實に熱心ある蠶業家として多年斯業の改良發達に就て努力奮闘し、斯業に貢献する所不尠、其製造に係る春蠶、又昔、白綾の二種は無毒優良にして蠶兒頑健飼育容易にして成繭又頗る優等なりとて需用者の稱讚する所たり、曾て第三回内國勸業博覽會を始め、各地の共進會、品評會等に出品して受賞せしと枚舉し違ならず、君亦公共の事業に盡瘁し或は學務委員として或は聯合戶長として、或は町村長として、能く其職責を盡し衆望の歸する所、曾て選はれて縣會議員とあり縣政に參與せし事あり、以て君か公的治生の一斑を窺ふに足らん今や一意専心蠶業の振興に盡されつゝありて其功や決して没すべからず

神谷周吉君肖像

蠶絲家 柴崎卯之吉君

君は群馬郡駒寄村の人、家代々農業を業とし村内屈指の養蠶家なり、君亦壯年より熱心蠶業の改良に就て苦心研究を積み年と共に老熟の域に進み、自己の利害を外よして本縣蠶業の發達を圖り、斯道に貢献する所尠からず、曾て蠶病豫防吏員となりて能く功績を挙げ、又多年蠶種製造に腐心し、又昔を主として他の一二種を製造し諸方に頒布せしに、其無毒強壯にして成繭糸量多く、形状、色澤、織度共に優良なるを、世間稀に見る良種なりととして大方の稱讚を博し、製造高逐年遞増せり、又曾て各地の共進會品評會等に繭及び蠶種を出品して受賞せしと枚舉し違あらず、君年齒未だ不惑に達せず、前途春秋に富むの身、他日の發展期して俟つべきなり



柴崎卯之吉氏肖像及蠶室全景

本紙料金は壹ケ年僅に壹圓五錢也

月刊六月

商業新報

▲本紙は報道迅速、記事精確各地に於ける繭絲商況其他一般商工業界の報道論議を以て任務とす
▲本紙は日本第一の繭絲集散地たる前橋市場の商況を遺憾なく報道するを以て特色とす

▲本紙は政黨政派に與みせず専ら商工業の味方を以て任すると同時に社會の出來事に就ては權勢に媚びず富貴に諂はず最も正確痛快な論議報道す
▲本紙は全國繭絲市場及有らゆる機業地に讀者を有する故廣告は最も卓効あり

發行所

群馬縣前橋市本町十四番地
(電話三六四番)

明治四十三年十月二十日印刷
全 年十月廿五日發行

(非賣品)



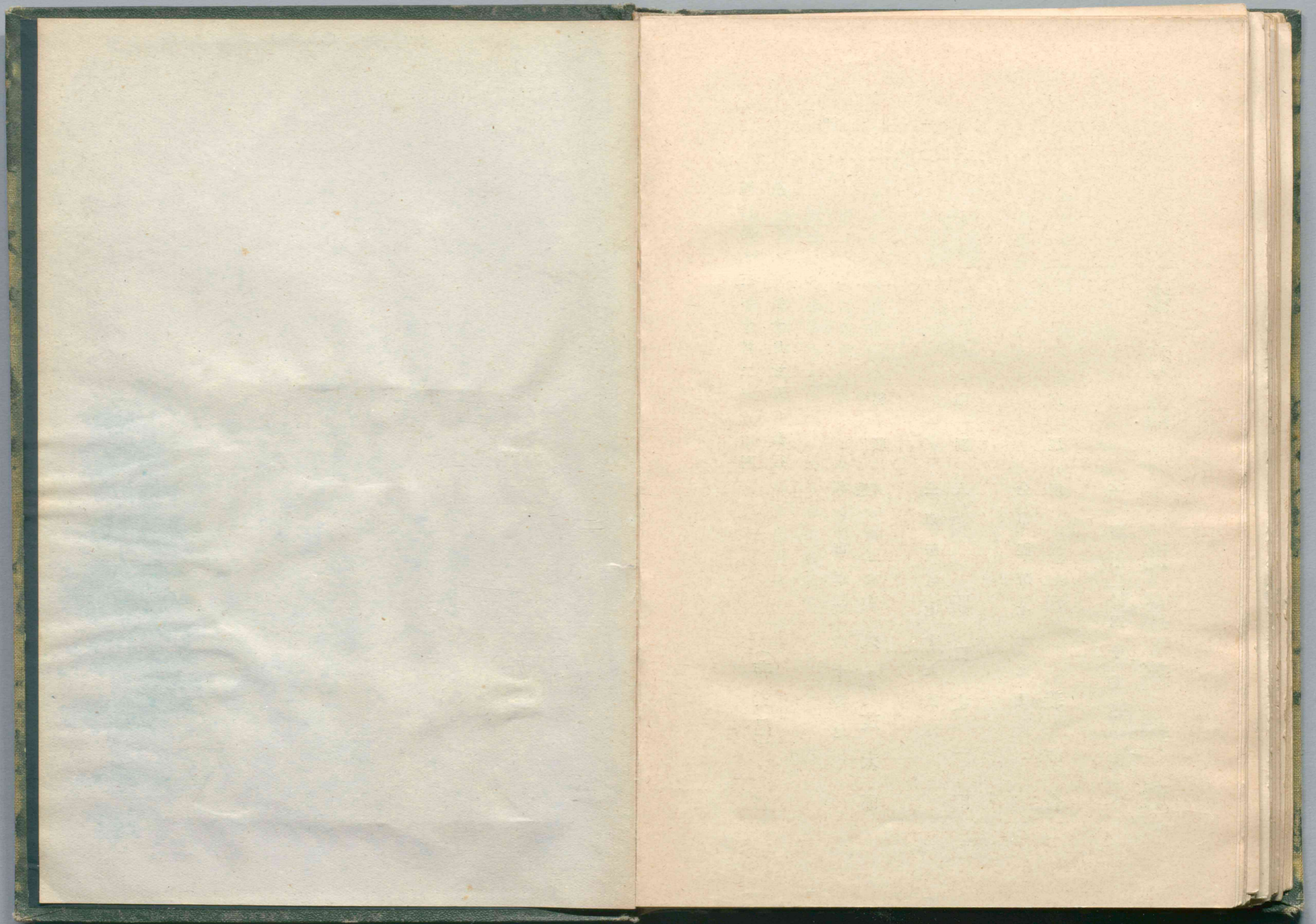
編輯人 前橋市本町四十番地 大久保茂太郎

印刷人 全市堅町七十九番地 關口丈一郎

印刷所 全市堅町七十九番地 明義舎

全市木町四十番地

發行所 商業新報社



15793

御 注 意

- 本は大切に扱いましょう。
- 本は転貸借はお断りします。
- 10日間の期限に必ず返して下さい。
- 本を汚損または紛失した時は同一の本
又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館

前橋市栄町10番地
(電話3008番)



群馬県立図書館



0238127-5